飯塚病院 内科専門研修プログラム

iii 飯塚病院

innovate and evolve

内科専門研修プロ	グラム・・・・P.1
----------	------------

専門研修施設群·····P.15

専攻医研修マニュアル・・・・・P.169

指導医マニュアル・・・・・P.173

各年次到達目標·····P.174

週間スケジュール・・・・・P.175

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』 『研修手帳(疾患群項目表)』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください

飯塚病院内科専門研修プログラム

1.理念·使命·特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院である飯塚病院を基幹施設として、福岡県筑豊医療 圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる連携施設・特別連携施設で の研修を経て異なる医療を経験・学習し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行える内科専門医の育成を行 います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間(基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャル分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

- 1) 福岡県筑豊医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1)高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑚を続け、最新の情報を学び、 新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力 をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を 提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院である飯塚病院を基幹施設として、福岡県筑豊医療圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる連携施設・特別連携施設での研修を経て異なる医療を経験・学習し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように訓練されます。研

修期間は基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間の3年間になります。

- 2) 飯塚病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である飯塚病院および連携施設・特別連携施設での 2 年間(専攻医 2 年修了時)で、「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。
- 5) 飯塚病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修1年次の3ヶ月間、2年次の9ヶ月間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である飯塚病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間(専攻医 3 年修了時)で、「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り、「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、1)高い倫理観を持ち、2)最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1)地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3)病院での総合内科の専門医
- 4)総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは 医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じ た可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

飯塚病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と総合医的なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャル領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2.募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)~7)により、飯塚病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 16 名とします。

- 1) 剖検体数(内科系)は専攻医の数を満たす剖検は十分に実施できます。
- 2) 飯塚病院内科後期研修医数は1学年最大17名の実績があります。
- 3) 比較的入院患者数が少ない代謝、内分泌、血液、膠原病(リウマチ)領域でさえ、1 学年 16 名に対し十分な症例 経験が可能です。

表。飯塚病院診療科別診療実績

2024 年度実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
肝臓内科	701	16,833
呼吸器内科	1,732	24,245
心療内科	0	6,654
内分泌•糖尿病内科	367	20,353
消化器内科	1,455	18,861
血液内科	565	12,965
総合診療科	3,074	14,202
膠原病・リウマチ内科	177	16,097
連携医療・緩和ケア科	769	3,232
循環器内科	1,756	17,362
脳神経内科	590	9,898
腎臓内科	871	25,996
漢方診療科	32	15,683
感染症科	0	1,426
救急科	313	28

- 4) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています(P。16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。
- 5) 1 学年 16 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医 1~3 年次に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能病院 4 施設および地域医療病院 12 施設、計 16 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。将来の志望専攻科およびそれまでの業績や態度を考慮して研修施設を決定します。
- 7) 専攻医 3 年修了時に「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験 は達成可能です。

3.専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「<u>内科研修カリキュラム項目表</u>」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。

2) 専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャル専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4.専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準8~10】

主担当医として「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

〇専門研修(専攻医)1年:

- · 症例:「<u>研修手帳(疾患群項目表)」</u>に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、40 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ·専門研修修了に必要な病歴要約を10症例以上記載してJ-OSLERに登録します。
- ・技能: 研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、 サブスペシャル上級医とともに行うことができます。
- ・態度: 専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャル上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを 複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

〇専門研修(専攻医)2年:

- ・症例:「<u>研修手帳(疾患群項目表)」</u>に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、80 症例以上の経験をし、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- ·専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- ・技能: 研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、 サブスペシャル上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度: 専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャル上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを 複数回行って態度の評価を行います。専門研修(専攻医)1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られ たか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修(専攻医)3年:

- ・症例: 主担当医として「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができます)を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)による査読を受けます。査読者の評価を受け、専攻医は病歴要約を形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理(アクセプト)が認められないことを当プログラムは了解しています。
- ・技能:内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して

行うことができます。

・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャル上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを 複数回行って態度の評価を行います。専門研修(専攻医)2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られ たか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己 学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。 J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

飯塚病院内科施設群専門研修では、「<u>研修カリキュラム項目表</u>」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間(基幹施設 2 年間+連携・特別連携施設 1 年間)とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 ヶ月単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャル領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します(下記①~⑥参照)。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくはサブスペシャルの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的(毎週1回)に開催する各診療科あるいは合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来(初診を含む)とサブスペシャル診療科外来(初診を含む)のいずれか、もしくは、双方を週 1 回 1 年以上もしくはそれと同等以上の日数を担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センター外来(平日夕方・土日祝日)で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 担当医もしくは当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、サブスペシャル診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1)内科領域の救急対応、2)最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4)医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5)専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法などで研鑽します。

- ① 定期的(毎週1回程度)に開催する各診療科でのカンファレンス、症例検討会、抄読会、レクチャー など
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
 - ※ 内科専攻医は年に2回以上受講します。

- 3 CPC
- ④ 研修施設群合同カンファレンス
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス
- ⑥ JMECC 受講
 - ※ 内科専攻医は必ず専門研修1年もしくは2年までに1回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会(下記「7。学術活動に関する研修計画」参照)
- 8 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

4) 自己学習【整備基準 15】

「<u>研修カリキュラム項目表</u>」では、知識に関する到達レベルを A(病態の理解と合わせて十分に深く知っている)と B (概念を理解し、意味を説明できる)に分類、技術・技能に関する到達レベルを A(複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる)、B(経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる)、C(経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる)に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A(主担当医として自ら経験した)、B(間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した))、C(レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した)と分類しています。(「<u>研修カリキュラム項目表</u>」参照)自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法などで学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
- 5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理(アクセプト)されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例: CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席をシステム上に登録します。

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

飯塚病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとの実績を記載しました(P。16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である飯塚病院教育推進本部が把握し、定期的に専攻医に周知し、出席を促します。

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能

力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

飯塚病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う(EBM:evidence-based medicine)。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする(生涯学習)。
- ④ 診断・治療および医療システムなどに関する研究に関わる。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。 といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、
- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。 を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

飯塚病院内科専門研修施設群では基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画*に年2回以上参加します(必須)。
 - ※主として日本内科学会が推奨する日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャル学会の学術講演会・講習会。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究に関わります。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者として2件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、飯塚病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

飯塚病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、指導医、サブスペシャル上級医とともに下記①~⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である飯塚病院の教育推進本部が把握し、定期的に専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮

- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)
- 8) 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ① 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

多岐にわたる疾患群を経験するため、飯塚病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県筑豊医療圏の地域包括 ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる医療機関などから構成されています。

飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能病院である九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院、神奈川県立循環器呼吸器病センター、および地域医療病院である頴田病院、飯塚記念病院、京都(みやこ)病院、田川新生病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、伊東市民病院、三重県立志摩病院、瀬戸内徳州会病院、古賀総合病院、陣内病院、前田病院で構成しています。

九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院では、飯塚病院とは異なる医療圏において、高度な急性期医療 とより専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療を経験します。

頴田病院、飯塚記念病院、京都病院、田川新生病院、松口循環器科内科医院では、同じ筑豊医療圏において、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療を経験します。

千葉県の東京ベイ・浦安市川医療センターは、急性期でありながらも地域医療振興協会の活動として、定期的に指導医が地域の僻地診療を行っているため、ローテーション時にはその診療についても指導を受ける機会があります。また、同施設で指導にあたる内科医師 5 名は飯塚病院研修修了者・指導医であり(地域医療を守るために赴任を支援してきました)、このため当院と同等の研修の質は保たれます。

神奈川県立循環器呼吸器病センターは、循環器および呼吸器疾患の専門病院です。陣内病院、前田病院は、地域における腎臓内科専門研修を行う場です。いずれも飯塚病院では経験できない希少かつ重要な症例を、経験豊富な指導医の下で学ぶ事ができます。なお、前田病院には飯塚病院の元指導医経験者がいます。

瀬戸内徳州会病院、伊東市民病院、三重県立志摩病院、古賀総合病院は、都市部の総合病院では経験できないような、僻地・離島の診療を研修するために賛同を得られた施設です。

連携施設の中には距離が離れている施設もありますが、全連携施設での研修中は、飯塚病院のプログラム管理委員会と各施設の研修担当者とが管理と指導の責任を持ちます。特別連携施設での研修においては、飯塚病院の指導医が定期的に各施設を訪れ、各施設の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。なお、各連携施設・特別連携施設での研修中は施設近辺に宿泊施設を設けるなど、基幹施設と連携施設とが相互に協力し、専攻医が研修に集中できる環境を整えます。

10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

飯塚病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から 退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状 態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て 実行する能力の修得を目標としています。

飯塚病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病 連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。

11.内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】

図 1。飯塚病院内科専門研修モデル

年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
専攻医 1 年次		飯塚病院 院内内科ローテーション (1 単位 6 週~7 週) 連携												
		各科	レクチャ	一、医療	倫理·医	療安全·	感染防御	ヤミナー	-、CPC、	JMECC	など			
専攻医 2 年次	連携	施設②3	ヶ月	連携	施設③3	ヶ月	連携	施設④3	ヶ月	飯塚病院 院内内科ローテーション				
		各科	レクチャ	一、医療	倫理·医	療安全·	感染防御	ヤミナー	-、CPC、	JMECC	など			
専攻医 3 年次		飯塚病院 院内内科ローテーション												
		各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC など												

※院外ローテーションは原則案であり、時期およびローテーション先は、専攻医数および当院もしくは連携施設の状況によっては、例外として、各年次研修先の調整や変更を、当方の判断で行なうこともある。

専攻医 1 年次および 2 年次の秋から冬に専攻医の希望・将来像、研修達成度および指導医数やメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、飯塚病院院内ローテーション診療科・連携施設・時期・順番を決定します。原則 1 年次の 1~2 単位は救急部ローテーションがあります。

選択可能な飯塚病院院内内科ローテーション診療科は、肝臓内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、消化器内科、血液内科、総合診療科、膠原病リウマチ内科、連携医療・緩和ケア科、腎臓内科、循環器内科、脳神経内科、漢方診療科、心療内科、集中治療科、感染症科、救急科などです。

12.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19~22】

- (1)飯塚病院教育推進本部の役割
 - ・飯塚病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
 - ・飯塚病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
 - ・4ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内

の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

- ・6ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回(8 月頃と 2 月頃、必要に応じて臨時に)、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・教育推進本部は、メディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を毎年複数回(8 月頃と 2 月頃、必要に応じて臨時に)行います。担当指導医、サブスペシャル上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから複数名を評価者として指名します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、教育推進本部もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します(他職種はシステムにアクセスしません)。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医(メンター)が飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1 年次専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年次専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年次専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や教育推進本部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はサブスペシャルの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャルの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医はサブスペシャル上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修(専攻医)2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録します。担 当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で 受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科 専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修(専攻医)3 年次修了までにすべての 病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3)評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果 を年度ごとに飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4)修了判定基準【整備基準 53】

- 1)担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、以下 i)~vi)の修了を確認します。
 - i)主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例ま

で含むことができる)を経験することを目標にし、その研修内容を J-OSLER に登録していること。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し、登録済みであること。

- ii)29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)
- iii) 所定の2編の学会発表または論文発表
- iv) JMECC 受講
- v)プログラムで定める講習会受講
- vi)メディカルスタッフによる 360 度評価と、指導医による内科専攻医評価を参照し、医師としての適性を判定
- 2) 飯塚内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1ヶ月前に飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5)プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、J-OSLERを用います。なお、「飯塚病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】(P。52)と「飯塚病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】(P。59)と別に示します。

13.専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37~39】

(P.51「飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

- 1) 飯塚病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
 - i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者(院長)、プログラム管理者(診療科部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)、事務局代表者、内科サブスペシャル分野の研修指導責任者(診療科部長または部長が指名する医師)および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医にも委員会の一部に参加を要請することがあります。飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を、飯塚病院教育推進本部におきます。
- ii) 飯塚病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名(指導医)は、基幹施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、年に複数回開催する飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

- ① 前年度の診療実績(対象期間:前年4月~当年3月)
 - a) 病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d)1ヶ月あたり内科外来患者数、e)1 ヶ月あたり内科入院患者数、f)剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数
- ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表、b)論文発表
- 4 施設状況
 - a) 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科とのカンファレンス、e) 図書館、f) 文献検索システ

ム、g) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、h) JMECC の開催

⑤ サブスペシャル領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本肝臓学会肝臓専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医(内科)数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14.プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」)を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修(FD)の実施記録として、J-OSLERを用います。

15.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

基幹施設である飯塚病院の就業環境に基づき就業しますが、連携施設もしくは特別連携施設での研修時は飯塚病院と連携先施設との取り決めによる就業環境に基づき、就業します(P。16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。 基幹施設である飯塚病院の整備状況:

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・飯塚病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医 および看護師が常駐しています。。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に24時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P。16「飯塚病院内科専門施設群」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は飯塚病院内 科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件について の内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 49~51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、飯塚病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項

- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- 4) 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から 日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて、専攻医の研修状況を定期的にモニタし、飯塚病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して飯塚病院内科専門研修プログラムを評価します。
- ・担当指導医、各施設の内科研修委員会、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて、担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます・状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

飯塚病院教育推進本部と飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会は、飯塚病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて飯塚病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

飯塚病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、常時ホームページでの公表や、説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、機構によって定められた期日と応募方法に従って応募します。書類選考および面接を行い、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定します。

飯塚病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

【問い合わせ先】飯塚病院教育推進本部

E-mail: aih-education@aih-net.com ホームページ: http://aih-net.com/

18.内科専門研修の休止-中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて飯塚病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから飯塚病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から飯塚病院内科専門研修プログラムに移動する場合で、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに飯塚病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休

職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします)を行なうことによって、研修実績に加算します。海外留学期間は、原則として研修期間と認めません。

飯塚病院内科専門研修施設群 (地方型一般病院のモデルプログラム)

研修期間:3年間(基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間)

図 1。飯塚病院内科専門研修モデル

月 年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
専攻医 1 年次		飯塚病院 院内内科ローテーション (1 単位 6 週~7 週) 連携施設①3ヶ月												
		各科	レクチャ	一、医療	倫理·医	療安全・	感染防御	即セミナー	-、CPC、	JMECC	など			
専攻医 2 年次	連携	施設②3	ヶ月	連携	施設③3	ヶ月	連携	施設④3	ヶ月	飯塚病院 院内内科ローテーション				
		各科	レクチャ	一、医療	倫理·医	療安全・	感染防御	即セミナー	-、CPC、	JMECC	など			
専攻医 3 年次		飯塚病院 院内内科ローテーション												
			各科レク		医療倫理	里·医療罗	安全·感染	と防御セ	ミナー、C	PC など				

※院外ローテーションは原則案であり、時期およびローテーション先は、専攻医数および当院もしくは連携施設の 状況によっては、例外として、各年次研修先の調整や変更を、当方の判断で行なうこともある。

専攻医 1 年次および 2 年次の秋から冬に専攻医の希望・将来像、研修達成度および指導医数やメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、飯塚病院院内ローテーション診療科・連携施設・時期・順番を決定します。原則 1 年次の 1~2 単位は救急部ローテーションがあります。

選択可能な飯塚病院院内内科ローテーション診療科は、肝臓内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、消化器内科、血液内科、総合診療科、膠原病リウマチ内科、連携医療・緩和ケア科、腎臓内科、循環器内科、脳神経内科、集中治療科、漢方診療科、心療内科、感染症科、救急科などです。

表 1。飯塚病院内科専門研修施設群研修施設(2024年4月現在、剖検数 2024年度実績)

施設区分	施設名	病床数	内科 系病 床数	内科 系診 療科 数	内科 指導 医数	総合 内科 専門 医数	内科 剖検 数
基幹	飯塚病院	1040	561	18	37	47	9
連携	一般財団法人厚生会 仙台厚生病院	409	300	5	19	23	3
連携	一般財団法人 脳神経疾患研究所附属総 合南東北病院	461	88	5	10	8	4
連携	一般財団法人 大原記念財団 大原綜合病 院	353	9	13	15	12	0
連携	総合病院水戸協同病院	369	160	9	17	16	3
連携	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 埼 玉県 済生会 川口総合病院	424	141	8	23	12	9
連携	公益社団法人地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター	344	154	9	16	7	4
連携	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	917	500	11	33	22	17
連携	国立研究開発法人国立がん研究センター東 病院	427	266	21	20	22	2
連携	昭和医科大学病院	815	359	10	81	52	29
連携	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東 京都立多摩総合医療センター	789	283	12	47	50	30
連携	東京科学大学病院	753	254	11	122	77	6
連携	昭和医科大学江東豊洲病院	400	-	4	20	24	1
連携	神奈川県立循環器呼吸器病センター	239	199	3	13	15	3
連携	医療法人 徳洲会 湘南鎌倉総合病院	669		15	46	29	13
連携	昭和医科大学藤が丘病院	584	248	5	39	26	16
連携	昭和医科大学横浜市北部病院	689	-	4	13	13	10
連携	社会医療法人財団石心会 川崎幸病院	326	110	7	10	10	6
連携	独立行政法人国立病院機構 相模原病院	458	211	8	22	17	13
連携	市立大町総合病院	199	107	9	1	0	1
連携	組合立諏訪中央病院	360	230	14	14	12	5
連携	松波総合病院	501	194	10	33	27	39
連携	伊東市民病院	250	135	7	5	5	7
連携	静岡県立静岡がんセンター	615	300	12	6	20	3
連携	社会福祉法人聖隸福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院	750	345	9	18	31	13
連携	大同病院	404	218	13	22	17	14
連携	一宮西病院	801	230	11	23	23	12
連携	公立陶生病院	633	293	11	31	30	8
連携	三重県立志摩病院	336	96	3	3	1	3
連携	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	527	279	11	82	53	21
連携	社会医療法人愛仁会 明石医療センター	382	215	6	12	20	5
連携	公益財団法人 天理よろづ相談所病院		715	-	7	25	33
連携	島根県立中央病院	520	145	6	22	27	5

連携	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	1172	445	10	76	52	8
連携	宇部中央病院	384	127	5	7	3	1
連携	綜合病院 山口赤十字病院	377	80	8	9	10	1
連携	回生病院	397	_	9	3	2	2
連携	松山赤十字病院	585	244	11	28	31	5
連携	愛媛県立中央病院	827	250	9	35	34	13
連携	社会医療法人 近森会 近森病院	489	250	13	30	28	9
連携	福岡市民病院	204	105	8	9	14	0
連携	国家公務員共済組合連合会 浜の町病院	468	245	13	11	25	1
連携	米の山病院	219	96	8	5	4	0
連携	北九州市立医療センター	636	165	12	21	23	10
連携	九州大学病院	1252	372	11	151	127	16
連携	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	702	650	13	34	24	9
連携	九州がんセンター	411	101	10	8	15	3
連携	頴田病院	96	96	2	0	0	0
連携	宮崎市郡医師会病院	267	_	3	20	13	8
連携	済生会飯塚嘉穂病院	197	133	9	0	5	0
連携	前田病院	129	118	7	4	5	0
連携	佐賀県医療センター好生館	450	178	13	19	29	3
連携	佐賀大学医学部附属病院	602	210	9	42	51	19
連携	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	643	230	13	24	23	9
連携	熊本赤十字病院	490	225	10	25	25	8
連携	済生会熊本病院	400	142	8	43	43	2
連携	大分県立病院	557	160	9	11	14	8
連携	古賀総合病院	362	109	9	7	7	0
連携	今村総合病院	428	200	14	10	14	2
連携	沖縄県立中部病院	559	201	10	27	18	4
連携	社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院	308	142	4	11	5	5
連携	社会医療法人敬愛会 中頭病院	355	174	9	20	22	9
連携	日本赤十字社医療センター	645	167	11	19	36	6
連携	健和会大手町病院	499	218	4	11	3	6
特別 連携	松口循環器科内科医院	0	0	1	1	0	0
特別 連携	飯塚記念病院	400	0	1	1	1	0
特別 連携	田川新生病院	90	30	5	0	0	0
特別 連携	京都病院	174	174	4	1	1	0
特別 連携	陣内病院	34	34	2	0	1	0
特別 連携	社会医療法人財団天心堂へつぎ病院	188	59	5	4	6	0

特別 連携	霧島市立医師会医療センター	254	ı	7	8	5	2	
特別 連携	医療法人徳洲会 中部徳洲会病院	408	140	8	3	5	3	
特別 連携	瀬戸内徳州会病院	60	60	1	0	0	0	

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

〇:十分に経験できる Δ:時々経験できる ×:全く経験できない

施設区分	施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
基幹	飯塚病院	0	0	0	Δ	Δ	0	0	0	Δ	Δ	0	Δ	0
連携	一般財団法人厚生会 仙 台厚生病院	0	0	0	Δ	0	Δ	0	0	Δ	0	0	0	0
連携	一般財団法人 脳神経疾 患研究所附属総合南東 北病院	0	0	0	Δ	0	Δ	0	Δ	0	0	Δ	0	0
連携	一般財団法人 大原記念 財団 大原綜合病院	\circ	\circ	\circ	Δ	Δ	0	0	\circ	Δ	Δ	\circ	Δ	0
連携	総合病院水戸協同病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	×	\bigcirc
連携	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 埼玉県 済 生会 川口総合病院	0	0	0	0	0	0	0	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	0
連携	公益社団法人地域医療 振興協会 東京ベイ・浦 安市川医療センター	0	0	0	Δ	0	0	0	Δ	0	0	0	0	0
連携	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	\circ	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	\circ	Δ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	×
連携	国立研究開発法人国立 がん研究センター東病院	0	0	×	×	×	×	0	0	×	×	×	0	×
連携	昭和医科大学病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ
連携	地方独立行政法人 東京 都立病院機構 東京都立 多摩総合医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連携	東京科学大学病院	\circ	\circ	\circ	\bigcirc	\circ								
連携	昭和医科大学江東豊洲 病院	\circ	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	\circ	\circ	×	\circ	\circ	\circ	Δ	Δ
連携	神奈川県立循環器呼吸 器病センちター	Δ	×	\circ	×	×	×	\circ	×	×	\circ	×	\circ	×
連携	医療法人 徳洲会 湘南 鎌倉総合病院	\circ	\circ	0	\bigcirc	\circ	0	0	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	0
連携	昭和医科大学藤が丘病 院	×	0	0	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連携	昭和医科大学横浜市北 部病院	×	0	0	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連携	社会医療法人財団石心 会 川崎幸病院	0	0	0	×	×	0	0	×	Δ	0	×	0	0

連携	独立行政法人国立病院 機構 相模原病院		\circ	\circ			Δ		0	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ
連携	市立大町総合病院	0	Δ	Δ	Δ	Δ	\circ	\circ	0	Δ	\circ	Δ	Δ	\bigcirc
連携	組合立諏訪中央病院	0	0	0	0	\circ	\circ	\circ	0	0	0	0	0	0
連携	松波総合病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	\bigcirc
連携	伊東市民病院	0	0	0	Δ	Δ	Δ	0	×	0	0	0	0	0
連携	静岡県立静岡がんセンター	0	0	Δ	×	×	×	0	0	0	×	×	0	×
連携	社会福祉法人聖隷福祉 事業団 総合病院聖隷浜 松病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連携	大同病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ
連携	一宮西病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	Δ	\circ	Δ	\circ	×	\circ	×	\circ
連携	公立陶生病院	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	\circ	\circ	0	\circ	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
連携	三重県立志摩病院	0	0	0	Δ	0	0	0	Δ	0	Δ	Δ	0	0
連携	国立研究開発法人 国立 循環器病研究センター	Δ	×	0	0	0	0	×	×	0	×	×	Δ	0
連携	社会医療法人愛仁会 明 石医療センター	0	0	0	0	0	0	0	Δ	Δ	0	0	0	0
連携	公益財団法人 天理よろ づ相談所病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連携	島根県立中央病院	\circ	\circ	\circ	0	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	0	0	\circ
連携	公益財団法人大原記念 倉敷中央医療機構 倉敷	0		0		0	0		0	0		0		0
	丨中央病院													
連携	宇部中央病院	0	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
連携連携		0	×	×	×	×	×	×	×	×	Χ	×	Δ	0
	宇部中央病院 综合病院 山口赤十字病			0				_				О х		0
連携	宇部中央病院 综合病院 山口赤十字病院	0	0	0	0	Δ	0	0	×	0	Δ	0	Δ	0 0
連携連携	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 四生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院	0	0	0	0	Δ	О ×	Δ	×	Δ	Δ	О х	Δ	0
連携連携連携	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 四生病院 松山赤十字病院	0	0	0	0	Δ Ο	О ×	ΔΟ	×	Δ	Δ	> x	Δ	0 0
連携連携連携	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会	0	0	0	0	Δ Ο Ο	×	ΔΟΟ	× 0	ΔΟΟ	Δ Δ Ο	> x	Δ Δ Ο	
連携連携連携連携	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院	0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	Δ Ο Ο Ο	× • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	○△○○○	x 0 0	○△○○	Δ Δ Ο	XOOO	Δ Δ Ο Ο	0 0 0 0
連携連携連携連携連携	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院		0 0 0 0 0	0 0 0 0		△ ○ ○ ○	× 0 0 0	Ο Δ Ο Ο Ο Χ	x 0 0 0 x	○△○○○	Δ Δ Ο Ο Χ	XOOO	Δ Ο Ο Ο	0 0 0 0
連携連携連携連携	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連 合会 浜の町病院		0 0 0 0 0	0 0 0 0 0		△○○○○○	XOOOO	○△○○×○	x 0 0 0 x x	○△○○○○	Δ Δ Ο Ο Χ	XOOOO	Δ Ο Ο Ο Ο	
連連連連連連連連連連	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連 合会 浜の町病院 米の山病院		0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0		△ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	ΔΟΟΧΟ	х О О Х А	ΔΟΟΟΟΟΔ	Δ Δ Ο Ο Χ Ο	ΧΟΟΟΟΟΔ	Δ Ο Ο Ο Ο Ο	
連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連 合会 浜の町病院 米の山病院 北九州市立医療センター					△	О X О О О О О О О О О О О О О О О О О О	Ο Δ Ο Ο Χ Ο	х	О	Δ Δ Ο Ο Χ Ο Ο	XOOOOAO	Δ Ο Ο Ο Ο Ο Ο	
連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連 連	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 米の山病院 北九州市立医療センター 九州大学病院 独立行政法人国立病院						О X О О О О О О О О О О О О О О О О О О	○△○○○○○○○	х О О Х О О	О	Δ	XOOOOOOO	Δ Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο	
連連連連連連連連連連連連連連連連	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連 合会 浜の町病院 米の山病院 北九州市立医療センター 九州大学病院 独立行政法人国立病院 機構 九州医療センター						○×○○○○○△○○○	○△○○○○○○○○○	х	О	Δ	О x O O O O O O O O O O O O O O O O O O		
連連連連連連連連連連連連連連連連連	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連 合会 浜の町病院 米の山病院 北九州市立医療センター 九州大学病院 独立行政法人国立病院 機構 九州医療センター 九州がんセンター 頴田病院	0 0 0 0 0 0		0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0		О X О О О О О О О X X	Ο Δ Ο Ο Ο Χ Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Δ	х О О Х О О О О	ΔΟΟΔΔΔΔΟX	Δ Δ Ο Ο Χ Ο Ο Ο Ο Χ	О X О О О О О О О X X	Δ Ο Ο Ο Ο Ο Δ	
連連連連連連連連連連連連連連連連連連連	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連 合会 浜の町病院 米の山病院 北九州市立医療センター 九州大学病院 独立行政法人国立病院 機構 九州医療センター 九州がんセンター 頴田病院 宮崎市郡医師会病院			0 0 0 0 0 0 0 0 0			хооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооо<	○△○×○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○<	х О О Х О О О О О	ΔΔΟΔΔΔΔXΟ	Δ Δ Ο Ο Χ Ο Ο Ο Χ Χ	О X О О О О О О X А А		
連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連連	宇部中央病院 綜合病院 山口赤十字病院 回生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療法人 近森会 近森病院 福岡市民病院 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 米の山病院 北九州市立医療センター 九州大学病院 独立行政法人国立病院 機構 九州医療センター 九州がんセンター 頴田病院 宮崎市郡医師会病院 落生会飯塚嘉穂病院					Δ Ο Ο Ο Ο Ο Δ Ο Δ	х 0 0 0 0 0 0 0 х 0 х	Ο Δ Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο	х О О Х О О О О О О О О О О О О О	ΔΔΟΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔ<	Δ Δ Ο Ο Χ Ο Ο Ο Χ Χ Α	хоооооохоо		
連連連連連連連連連連連連連連連連連連	宇部中央病院 総合病院 山口赤十字病院 に 回生病院 四生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療院 社会医療院 福岡市民病院 国家公 浜病院 国家公 浜病院 北九州市立医療センター 九州大学病院 独立行政法人国立病院 独立行政法人属をセンター 短田病院 宮崎市郡医師会病院 済生会飯塚嘉穂病院 前田病院 佐賀県医療センター好生			0 0 0 0 0 0 0 0 0			хооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооо<	○△○×○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○<	х О О Х О О О О О О	ΔΔΔΔΔΔΔΔΔΔ	Δ Δ Ο Ο Χ Ο Ο Ο Χ Χ Χ	хооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооо<		
連連連連 連 連 連連連 連 連連連連連連連	宇部中央病院 総合病院 山口赤十字病院 に 回生病院 四生病院 松山赤十字病院 愛媛県立中央病院 社会医療院 祖岡市民病院 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 米の山病院 北九州大学病院 北九州大学病院 独立行政法人国立病院 機構 九州医療センター 九州がんセンター 頴田病院 宮崎市郡医師会病院 済生会飯 家嘉穂病院 前田病院						О X О О О О О О X О О О X О О О О О О О	Ο Δ Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο Ο	х О О Х О О О О О О О О О О О О О	ΔΔΔΔΔΔΔΔΔ	Δ Δ Ο Ο Χ Ο Ο Ο Χ Χ Α Χ	хооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооооо<		

	院													
連携	独立行政法人国立病院 機構 長崎医療センター	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	0	\circ	\circ	Δ	\circ	\circ	\circ
連携	熊本赤十字病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\bigcirc
連携	済生会熊本病院	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	×	Δ	\bigcirc	\circ	Δ	\bigcirc	\bigcirc	Δ	\bigcirc	\bigcirc
連携	大分県立病院	×	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	×	\circ	×	0
連携	古賀総合病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	Δ	\circ	Δ	Δ	×	Δ	×
連携	今村総合病院	\bigcirc	\bigcirc	Δ	Δ	Δ	\bigcirc	\circ	\bigcirc	Δ	Δ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
連携	沖縄県立中部病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\bigcirc
連携	社会医療法人 かりゆし 会 ハートライフ病院	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	Δ	0	Δ	Δ	\circ	\circ	\circ	\circ
連携	社会医療法人敬愛会 中 頭病院	0	0	0	0	0	0	0	0	Δ	0	Δ	0	0
連携	日本赤十字社医療センター	0	0	0	\circ	0	0	0	0	\circ	0	\circ	0	0
連携	健和会大手町病院	\circ	\circ	\circ	Δ	\circ	\circ	×	Δ	\circ	Δ	Δ	\circ	\bigcirc
特別 連携	松口循環器科内科医院	0	×	0	×	×	×	0	×	×	0	×	×	×
特別 連携	飯塚記念病院	0	×	Δ	Δ	0	0	0	×	Δ	×	×	Δ	Δ
特別 連携	田川新生病院	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	×	0	×	×	×	×
特別 連携	京都病院	0	0	0	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	0	Δ	Δ	Δ	×
特別 連携	陣内病院	0	Δ	0	Δ	0	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
特別 連携	社会医療法人財団天心 堂へつぎ病院	\circ	Δ	\circ	Δ	Δ	\circ	\circ	Δ	Δ	\circ	Δ	\circ	\circ
特別 連携	霧島市立医師会医療センター	\circ	\circ	\circ	Δ	×	×	×	\circ	×	Δ	×	Δ	0
特別 連携	医療法人徳洲会 中部徳 洲会病院	\circ	\circ	0	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	0
特別 連携	瀬戸内徳州会病院	0	0	0	Δ	Δ	Δ	0	Δ	0	Δ	Δ	0	0

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

多岐にわたる疾患群を経験するため、飯塚病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県筑豊医療圏の地域包括 ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる医療機関などから構成されています。

飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能病院である九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院、神奈川県立循環器呼吸器病センター、および地域医療病院である頴田病院、飯塚記念病院、京都(みやこ)病院、田川新生病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、伊東市立病院、三重県立志摩病院、瀬戸内徳州会病院、古賀総合病院、陣内病院、前田病院で構成しています。

九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院では、飯塚病院とは異なる医療圏において、高度な急性期医療 とより専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療を経験します。

頴田病院、飯塚記念病院、京都病院、田川新生病院、松口循環器科内科医院では、同じ筑豊医療圏において、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療を経験します。

千葉県の東京ベイ・浦安市川医療センターは、急性期でありながらも地域医療振興協会の活動として、定期的に指導医が地域の僻地診療を行っているため、ローテーション時にはその診療についても指導を受ける機会があります。また、同施設で指導にあたる内科医師 5 名は飯塚病院研修修了者・指導医であり(地域医療を守るために赴任を支援してきました)、このため当院と同等の研修の質は保たれます。

神奈川県立循環器呼吸器病センターは、循環器および呼吸器疾患の専門病院です。陣内病院、前田病院は、地域における腎臓内科専門研修を行う場です。いずれも飯塚病院では経験できない希少かつ重要な症例、経験豊富な指導医の下で学ぶ事ができます。なお、前田病院には飯塚病院の元指導医経験者がいます。

瀬戸内徳州会病院、伊東市民病院、三重県立志摩病院、古賀総合病院は、都市部の総合病院では経験できないような、僻地・離島の診療を研修するために賛同を得られた施設です。

専門研修施設(連携施設・特別連携施設)の選択

- ・専攻医 1 年次および 2 年次の秋から冬の間、専攻医の希望・将来像、研修達成度、および内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・専攻医3年次には研修達成度により、サブスペシャル研修の是非も含めて調整します。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

連携施設の中には距離が離れている施設もありますが、全連携施設での研修中は、塚病院のプログラム管理委員会と各施設の研修担当者とが管理と指導の責任を持ちます。特別連携施設での研修においては、飯塚病院の指導医が定期的に各施設を訪れ、各施設の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。なお、各連携施設・特別連携施設での研修中は施設近辺に宿泊施設を設けるなど、基幹施設と連携施設とが相互に協力し、専攻医が研修に集中できる環境を整えます。

1)専門研修基幹施設

株式会社麻生 飯塚病院

	π
認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN、Wi-Fi)があります。 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。 医務室には産業医および看護師が常駐しています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラム の環境	 ● 指導医は37名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年実績 医療倫理4回、医療安全10回、感染対策4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催(2024年実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
指導医数 (常勤医) [2025 年度]	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器病専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 7 名、日本感染症学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数 [2024 年度実績] 経験できる疾患群	外来患者 1,660 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,786 名(1ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を

	幅広く経験することができます。
奴除女士工士生 士士	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
経験できる技術・技能	広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
	日本内科学会 教育病院
	日本救急医学会 救急科指定施設
	日本消化器病学会 認定施設
	日本循環器学会 研修施設
	日本呼吸器学会 認定施設
	日本血液学会 研修施設
	日本糖尿病学会 認定教育施設
	日本腎臓学会 研修施設
	日本肝臓学会 認定施設
	日本神経学会 教育施設
	日本リウマチ学会 教育施設
	日本臨床腫瘍学会 研修施設
	日本消化器内視鏡学会 指導施設
	日本消化管学会 胃腸科指導施設
学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会 認定施設
(内科系)	日本呼吸療法医学会 研修施設
	飯塚・頴田家庭医療プログラム
	日本緩和医療学会 認定研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会 研修施設
	日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設
	日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A
	日本胆道学会指導施設
	日本がん治療医認定医機構 認定研修施設
	日本透析医学会 認定施設
	日本高血圧学会 認定施設
	日本脳卒中学会 研修教育病院
	日本臨床細胞学会 教育研修施設
	日本東洋医学会 研修施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
	日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 など

2) 専門研修連携施設

仙台厚生病院

四日字工物机	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	・常勤医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署(総務部)があります。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	・敷地内に院内保育所および病児・病後児保育所があり、利用可能です。
	・指導医は19名在籍しています。
	・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委
	員会との連携を図ります。
	- 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置、既存
	の医学教育支援室と連携し活動します。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 43回)し、専攻医に
	と源に生 と原文主 恋味がな時日云とと初めて開催(2027年及失順 40回/じ、中久とに 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(予定)し、専攻医に受講を義務付け、その
【整備基準 24】	ための時間的余裕を与えます。
2)専門研修プログラム	│·CPCを定期的に開催(2024年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 │
の環境	的余裕を与えます。
り現場	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(年1回開催、インストラクター2名在籍、院
	内開催実績8回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に医学教育支援室が対応します。
	・特別連携施設(永仁会病院、古川星陵病院、仙石病院、広南病院)の専門研修では、電話
	や週 1 回の仙台厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修
	指導を行います。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専
【整備基準 24/31】	門研修が可能な症例数を診療しています。
3)診療経験の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。
	・臨床研究に必要な図書室、読影室などを整備しています。
認定基準	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
【整備基準 24】	・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催(2024 年度実績 10 回)しています。
4)学術活動の環境	冶歌音写写記憶は、足器は15名歌奏真云と開催(2027 年度失順(16名)とはいより。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2017 年度実
4)子州石到仍垛况	
	積3演題)をしています。
	木村 雄一郎
	【内科専攻医へのメッセージ】
	仙台厚生病院は宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり、仙台医療圏および大
	崎・栗原医療圏、東京都区西部および区西北部保健医療圏にある連携施設・特別連携施設
	とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門
	医を目指します。
指導責任者	主担当医として入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを
	通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医にな
	ります。
	│なお特記すべき内容として、三陸沿岸からの移住者が震災後に非常に増加している大崎・│
	栗原医療圏の地域密着型病院での研修を必須としています。これらの施設では訪問診療を
	栗原医療圏の地域密着型病院での研修を必須としています。これらの施設では訪問診療を 含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。
指導医数	含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。
指導医数 (常勤医)	含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。 日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、 日本内科学会認定内科医 36 名、内科専門医 13 名、
指導医数 (常勤医)	含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。 日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、

	日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、
	日本やは子芸や経り付与门医・石、日本窓未延子芸窓未延寺门医・石、日本アレルギー学会専門医2名、ほか
 外来•入院患者数	年間入院患者実数 17,987 名、年間新外来患者数 11,453 名
77木 7 / / / / / / / / / / / / / / / / /	中間へ続思有実数 17,387 石、中間利介不思有数 11,433 石 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
経験できる疾患群	さわめて怖な疾患を除いて、研修于帳(疾患群項日表力にある 13 領域、70 疾患群の証例を 幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
夕野マキブルサ医療	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
診療連携	
	日本内科学会認定医制度教育病院
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本消化器がん検診学会認定指導施設
	日本感染症学会研修施設
	日本がん治療認定医機構日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本カプセル内視鏡学会指導施設
** ^ == -+ ++ ==	浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
学会認定施設	日本集中治療医学会専門医研修施設
(内科系)	下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基
	準による実施施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設
	経力テーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経力テーテル的大動脈弁置換術指導施設
	日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医連携修練施設
	日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設
	補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
	日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会・日本心血管インターベンション治療学会合同
	教育委員会認定の経皮的動脈管閉鎖術施行施設
	日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会・日本心血管インターベンション治療学会合同
	教育委員会認定の経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設
	日本心血管インターベンション治療学会潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施
	設
	日本心エコー図学会 心エコー図専門医制度研修認定施設
	日本アレルギー学会 アレルギー専門医準教育研修認定施設

総合南東北病院

一	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・総合南東北病院専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会がハ整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ・病児保育,病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が 10 名在籍しています ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,消化器,循環器,代謝,腎臓,呼吸器,血液,
【整備基準 24/31】	神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療し
3)診療経験の環境	ています.
認定基準	
【整備基準 24】	 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています.
4)学術活動の環境	日中17月1日は時次人の601は円元の五12月間で開「決定の上の」人に収さらて05万
指導責任者	神経内科 科長 金子 知香子若い時に出来るだけたくさんの症例を経験してください。守備範囲を決めるのは自分自身です。当院は軽症例から重症例まで幅広く経験することができます。医師不足に悩む地方都市の中核病院であり、症例や手技の取りあいはありません。臨床の出来ない医師にならないように、臨床の基礎から難病・重症例の対応まで丁寧に指導します。脳神経内科では脳卒中、神経免疫疾患、神経変性疾患、神経感染症、神経筋疾患など神経救急から慢性期まですべてを経験できます。グループ制ではないため多種類の疾患を同時に経験する事も可能です。福島県立医科大学名誉教授である山木悌司先生、現:福島県立医科大学医学部多発性硬化症治学講座・藤原一男教授が在籍され、系統だった神経診察の指導、学会発表・研究・論文指導をしています。 若い時の3年間は貴重です。臨床経験を積んだ後、大学院進学、また修練のための他院への移動など、様々な進路にも柔軟に対応できる病院です。出産・育児・介護、また自分自身の病気といったライフ・イベントへのサポート体制も整っています。臨床医を目指す方、大学に進む研究テーマを探している方、ぜひ貴重な3年間で一緒に研鑽を積みましょう。
指導医数	日本循環器学会循環器専門医8名、日本消化管学会胃腸科専門医2名、
(常勤医)	日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、
重複あり	日本神経学会神経内科専門医4名、日本内科学会総合内科専門医7名、
	日本救急医学会救急科専門医1名、日本呼吸器学会専門医2名
外来·入院患者数	外来患者数: 497,946 名(1 年·延人数) 入院患者数: 183,241 名(1 年·延人数)
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます.
	日本内科学会認定教育関連病院
学会認定施設	日本呼吸器学会認定施設
(内科系)	日本神経学会認定教育施設
(1.11.18)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本祖妹位于五郎だ祖妹位守门应明廖旭以

日本消化器病学会専門医認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
等

一般財団法人大原記念財団 大原綜合病院

初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・財団附属病院の精神科でメンタルストレスへ適切に対処しており、またハラスメント窓口があります。
あります。
・女性専攻医が安心して勤務できるように,更衣室,シャワー室,当直室が整備されていま す。
・ 隣接する施設に財団施設である保育所があり、利用可能です。
指導医が在籍しています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 倫理委員会1回,
医療安全委員会月1回,感染管理委員会月1回)し,専攻医が参加できます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年実績 4 回)し,専攻医も参加ができます。
内科(消化器内科・腎臓内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病内分泌内科・脳神経内科) で、専門研修が可能な症例数を診療しています。
・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し, 定期的に開催しています。 ・ 国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
齋藤 修一
(メッセージ】 当院は東北新幹線の福島駅から近く、福島県庁や福島県警など県内の主要な公的施設の近 隣に位置する病院です。2018 年に免震機能を有した新病院になり 8 年目を迎えました。明る (楽しい雰囲気の中で成長できる環境が揃っております。
日本内科学会総合内科専門医名 12 名
日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名
日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、
日本アレルギー学会アレルギー専門医2名、日本感染症学会専門医1名、ほか
外来患者 380 名(内科系初診患者数 1 ヶ月)2024 年度実績
入院患者 258 名(内科系新入院数1ヶ月)2024 年度実績
きわめて稀な疾患を除いて,幅広く経験することができます。
内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができま す。
急性期医療だけでなく、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
日本消化器病学会 認定施設日本循環器学会 研修施設日本腎臓学会 研修施設日本肝臓学会 特別連携施設日本肝臓学会 推教育施設日本神経学会 推教育施設日本消化器内視鏡学会 指導施設日本呼吸器内視鏡学会 関連認定施設日本心血管インターベンション治療学会 研修関連施設日本がん治療医認定医機構 認定研修施設日本透析医学会 教育関連施設日本臨床細胞学会 認定施設日本臨床細胞学会 認定施設

水戸協同病院

水戸協同病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、民間病院の中に国立大学の教育システムを導入して、筑波大学の教員である医師が共同で診療・教育を行っています。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。筑波大学附属図書館と直結したインターネット回線があり、筑波大学で契約している電子ジャーナルを共有しています。 ・病院職員(常勤)として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署があります(茨城県厚生連内)。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は17名在籍しています. ・総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者,プログラム管理委員長にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修管理委員会を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度4回、2023年度4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024年度2回,2023年度2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC(2024年度5回)、マクロCPC(2024年度4回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2024年度開催実績2回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応します. ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます. ・専門研修に必要な剖検(2024 年度 3 体)を行っていま す.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。筑波大学の教員が訪問して臨床研究相談会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表をしています。
指導責任者	小林 裕幸 【内科専攻医へのメッセージ】 水戸協同病院は筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、大学病院でも一般病院でも実現困難な、全く新しい診療と臨床研修体制を実現しました他に例を見ないこの体制は誰もが描く診療と研修の理想像に近く、あの Tierney 先生の一番弟子であるUCSFの Dhaliwal 先生をして「嫉妬を感じる」と言わしめた体制です。その体制の中核は、病院全体が水戸協同病院でありかつ教育センターであること、内科、救急、集中治療の間に垣根がない総合診療体制で、他のすべての科を含んだ病院全体が一体化していること、毎朝、毎週、全内科はもちろん病理学部門を含む主要科がそろって症例検討すること、教授から研修医までみんなの目線が等しくいつでもどこでも、普通に気軽に相談、討論できること、そして、「すべては研修医のために」を方針として常に体制を見直していることです。さあ、皆さん、一緒に学び、そして地域医療に貢献しようではありませんか。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 17 名, 日本内科学会総合内科専門医 16 名, 日本消化器病学会消化器専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 3 名, 日本糖尿病学会専門医 4 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, ほか

外来·入院患者数	外来患者 606 名(1日平均) 入院患者 227.7名(1日平均)2024.4~2025.3
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、「研修手帳(疾患群項目表)」にある 13 領域, 70 疾患群の症例
	を幅広く経験することができます.
 経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきなが
	ら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
	日本内科学会認定教育施設
	日本病院総合診療医学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本循環器学会循環器研修施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本血液学会認定研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
学会認定施設	日本消化器内視鏡学会指導施設
(内科系)	日本がん治療認定医機構認定研修施設
(1.11716)	日本静脈経腸栄養学会(NST 稼動施設認定)
	日本頭痛学会認定教育施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院
	日本人間ドック学会会員施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本緩和医療学会緩和ケアチーム登録施設
	救急科専門医指定施設、DMAT 指定病院
	茨城県広域スポーツセンタースポーツ医科学推進事業協力医療機関認施設 など

埼玉県済生会川口総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤職員(嘱託職員)として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(心理相談室)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・保育所があり、利用可能です。 ・希望者には宿舎(単身者)が利用可能です。	
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は 21 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。	
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち少なくとも 35 以上の疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2024 年度 10 体:内科 9 体)を行っています。	
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。	
指導責任者	田中 聡(プログラム統括責任者) 【内科専攻医へのメッセージ】 埼玉県済生会川口総合病院は最寄り駅(西川口駅)まで東京駅から 30 分、新宿駅から 25 分、大宮駅から 20 分の位置にある埼玉県南部医療圏の中心的な急性期病院です。埼玉県内及び近隣医療圏にある大学病院を含む連携施設で内科専門研修を行い、リサーチマインドを刺激しつつ地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。主担当医として入院から退院(初診・入院~退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療の実践ができる、みなさんがそんな内科専門医に成長できるように済生会川口総合病院はスタッフ全員で支援致します。	
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 12 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 10 名、日本神経学会専門医 1 名 (ほか)	
外来•入院患者数	延べ外来患者:7,962 名/月(2024 年度) 入院患者総数:440 名/月(2024 年度)	
経験できる疾患群	消化器・循環器・代謝・腎臓・救急などの領域では幅広く症例を経験することができます。連携する大学病院や国立埼玉東病院での補完的研修では、一般病院では経験することが難しい疾患を学ぶことができます。	

	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、臨床の第一線病院ならでは
経験できる技術・技能	のメリットを活かして、実際の症例に基づきながら幅広く、しかも深く経験することができま
	す。
経験できる地域医療・	急性期だけでなく、超高齢社会にも対応した地域に根ざした医療、病診連携なども多数の部
診療連携	門スタッフとの協働の中で経験できます。
	日本内科学会認定制度審議会認定教育病院
	日本消化器病学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
学会認定施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
(内科系)	日本肝臓学会認定施設
	日本透析医学会認定医制度認定施設
	日本内分泌学会認定教育施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	など

一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院

一般的凹法人脑神程统	法思研究所附属総合用果 北病院
	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
認定基準【整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
	・総合南東北病院専攻医として労務環境が保障されています.
	・メンタルストレスに適切に対処する部署があります.
	・ハラスメント委員会がハ整備されています.
1)専攻医の環境	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています.
	・病児保育、病後児保育を含め利用可能です.
	・指導医が 10 名在籍しています
	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設
	に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その
【整備基準 24】	ための時間的余裕を与えます。
2)専門研修プログラム	一・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための
の環境	時間的余裕を与えます。
り深元	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
	一・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	地域を加至のカンプランスを足効的に開催し、事気医に支縄を義務的が、そのための時 間的余裕を与えます。
	同的赤桁を与えより。 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、
	一かりイエノムにボットははは、は、カギのノラ、月に品、循環語、代謝、胃臓、呼吸器、血液、一神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療し
3)診療経験の環境	神経, アレルヤー, 恋朱症のよび救忌の力野で足吊的に専门研修が可能な症例数を診療し ています.
	(1)
認定基準	ロナカ科学会議院会もでいた同様するに佐田で記す。原題のようの学会をまたしています。
【整備基準 24】	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
4)学術活動の環境	
	神経内科 科長 金子 知香子
	【内科専攻医へのメッセージ】
	若い時に出来るだけたくさんの症例を経験してください。守備範囲を決めるのは自分自身
	です。当院は軽症例から重症例まで幅広く経験することができます。医師不足に悩む地方
	┃ 都市の中核病院であり、症例や手技の取りあいはありません。臨床の出来ない医師になら
	ないように、臨床の基礎から難病・重症例の対応まで丁寧に指導します。脳神経内科では
	脳卒中、神経免疫疾患、神経変性疾患、神経感染症、神経筋疾患など神経救急から慢性
指導責任者	期まですべてを経験できます。グループ制ではないため多種類の疾患を同時に経験する事も
	可能です。福島県立医科大学名誉教授である山木悌司先生、現:福島県立医科大学医学部
	多発性硬化症治学講座・藤原一男教授が在籍され、系統だった神経診察の指導、学会発
	表・研究・論文指導をしています。
	若い時の 3 年間は貴重です。臨床経験を積んだ後、大学院進学、また修練のための他院
	への移動など、様々な進路にも柔軟に対応できる病院です。出産・育児・介護、また自分自
	身の病気といったライフ・イベントへのサポート体制も整っています。臨床医を目指す方、大
	学に進む研究テーマを探している方、ぜひ貴重な3年間で一緒に研鑽を積みましょう。
	日本循環器学会循環器専門医8名、日本消化管学会胃腸科専門医1名、
指導医数	日本消化器内視鏡学会専門医4名、日本消化器病学会消化器病専門医5名、
(常勤医)	日本神経学会神経内科専門医4名、日本内科学会総合内科専門医8名、
(112 202 207	日本救急医学会救急科専門医2名、日本呼吸器学会専門医1名、ほか
	外来患者数:504, 714 名(1 年·延人数)
外来•入院患者数	入院患者数:180, 619 名(1 年・延べ人数)
	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を
経験できる疾患群	とりのと神な疾患を除いて、明修子帳(疾患杵項百衣/)にめる 13 順域, 70 疾患杵の症例を 経験することができます.
	小工河太 フ ′ 〇 └ └ ん) .
	は後、は此頭価手帳になる内科専用医に必要かは後、は他も、中陸の点側に甘べさかだ?
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
	幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・	幅広く経験することができます. 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
	幅広く経験することができます.

(内科系)	日本呼吸器学会認定施設
	日本神経学会認定教育施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本消化器病学会専門医認定施設
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 等

水戸協同病院

水戸協同病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、民間病院の中に国立大学の教育システムを導入して、筑波大学の教員である医師が共同で診療・教育を行っています。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。筑波大学附属図書館と直結したインターネット回線があり、筑波大学で契約している電子ジャーナルを共有しています。 ・・・病院職員(常勤)として労務環境が保障されています。 ・・メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署があります(茨城県厚生連内)。 ・・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は 14 名在籍しています。 ・総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者, プログラム管理委員長にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023 年度 3 回、2022 年度 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2023 年度 2 回, 2022 年度 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC(2023 年度 4 回)、マクロ CPC(2023 年度 4 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催実績 2 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度 7 体)を行っていま す。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度 7 体)を行っていま す。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 筑波大学の教員が訪問して臨床研究相談会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表をしています。
指導責任者	小林 裕幸 【内科専攻医へのメッセージ】 水戸協同病院は筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、大学病院でも一般病院でも実現困難な、全く新しい診療と臨床研修体制を実現しました他に例を見ないこの体制は誰もが描く診療と研修の理想像に近く、あの Tierney 先生の一番弟子である UCSF の Dhaliwal 先生をして「嫉妬を感じる」と言わしめた体制です。その体制の中核は、病院全体が水戸協同病院でありかつ教育センターであること、内科、救急、集中治療の間に 垣根がない総合診療体制で、他のすべての科を含んだ病院全体が一体化していること、毎朝、毎週、全内科はもちろん病理学部門を含む主要科がそろって症例検討すること、教授から研修医までみんなの目線が等しくいつでもどこでも、普通に気軽に相談、討論できること、そして、「すべては研修医のために」を方針として常に体制を見直していることです。さあ、皆

	さん、一緒に学び、そして地域医療に貢献しようではありませんか。
指導医数 (常勤医) 重複あり	日本内科学会指導医 14 名, 日本内科学会総合内科専門医 13 名,
	日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 2 名,
	日本糖尿病学会専門医3名,日本腎臓学会腎臓専門医1名,
	日本呼吸器学会呼吸器専門医2名,日本神経学会神経内科専門医1名,ほか
外来•入院患者数	内科外来患者 271.6 名(1 日平均) 内科入院患者 164.1 名(1 日平均)2023.4~2024.3
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、「研修手帳(疾患群項目表)」にある 13 領域, 70 疾患群の症例
	を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきなが
	ら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設
	日本病院総合診療医学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本循環器学会循環器研修施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本血液学会認定研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本静脈経腸栄養学会(NST 稼動施設認定)
	日本頭痛学会認定教育施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院
	日本人間ドック学会会員施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本緩和医療学会緩和ケアチーム登録施設
	救急科専門医指定施設、DMAT 指定病院
	茨城県広域スポーツセンタースポーツ医科学推進事業協力医療機関認施設 など

東京ベイ・浦安市川医療センター

果只へイ・油安巾川医療	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ・ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室
認定基準【整備基準 24】	が整備されています. ・指導医は 16 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修管理委員会と医師・研修管理室を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間の会話を表表すます。
2)専門研修プログラム の環境	のための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門 研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 12 回、審査 123 件)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	江原 淳 【内科専攻医へのメッセージ】 東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です。年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり、豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコモンディジーズを幅広く経験できます。患者層も若年から超高齢者まで幅広く様々です。当センターでは総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し、症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる2人指導医体制により、幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます。またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修(手技やコンサルト業務等)を行います。設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名, 日本内科学会総合内科専門医 7 名, 日本循環器学会循環器専門医 8 名, 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名, 日本消化器病学会専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名, 日本消化管学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本腎臓学会専門医 5 名, 日本透析医学会専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 8 名, 日本集中治療医学会専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 1 名, 日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 5,403 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 618 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を

	幅広く経験することができます。
 経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
作機できる技術で技能	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・疾病連携なども
診療連携	経験できます。
	日本内科学会認定医制度教育病院
	日本消化器病学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設
学会認定施設	日本透析医学会専門医制度教育関連施設
(内科系)	日本腎臓学会研修施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本集中治療医学会研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本感染症学会研修施設
	日本緩和医療学会研修施設
	日本病院総合診療医学会認定施設など

亀田総合病院

电口秘口例沉	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	 ・研修に必要な図書室とインターネット環境 ・メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター ・悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤 ・ハラスメント委員会の整備 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備 ・敷地に隣接した保育所および病児保育施設 ・病院併設の体育館、トレーニングジム ・その他、クラブ活動、サーフィン大会
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。 ・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をすることができるようウェブ会議ができる環境。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。 内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次 経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や病歴報告を記載します。これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類緑疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①内科系学術集会や企画に年 2 回以上参加する(必須)。 ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会 CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 ③クリニカルクエスチョンを見出し臨床研究を行う。 ④内科学会に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として 2 件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	中路 聡 【専攻医へのメッセージ】
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3名,日本内科学会総合内科専門医 22名,日本消化器病学会専門医 6名,日本胆道学会専門医 3名,日本消化器内視鏡学会 6名、日本循環器学会専門医 7名,日本内分泌学会専門医 4名,日本腎臓病学会専門医 5名,日本呼吸器学会専門医 4名,日本血液学会専門医 2名,日本神経学会専門医 8名,日本リウマチ学会専門医 1名,日本感染症学会専門医 4名ほか
外来•入院患者数	総外来患者(実数): 631.609 名 総入院患者(実数): 22.884 名
経験できる疾患群	全70疾患群、200症例以上を経験することを目標とします。 内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医) 年限ごとに設定している。

级股本之类 # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、
経験できる技術・技能	医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治 療法は決定を持します
	療方針決定を指します。
経験できる地域医療・	病病・病診連携の両方での立場での研修を通じ、地域医療を幅広く多面的に学ぶことがで
診療連携	きます。
	・日本日本内科学会認定医制度における教育病院
	•日本糖尿病学会認定教育施設 I
	•日本内分泌学会認定教育施設
	•日本血液学会認定血液研修施設
	・日本がん治療認定医機構認定研修施設
	·日本腎臓学会研修施設
兴人到白长 凯	·日本急性血液浄化学会認定指定施設
学会認定施設	•日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
(内科系)	•日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設
	・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設
	•日本消化器内視鏡学会指導施設
	•日本消化器病学会認定施設 •日本消化器病学会認定施設
	·日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定
	·日本不整脈·日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
	・日本リウマチ学会教育施設など

国立がん研究センター東病院

国立かん研究センダーリ	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	 施設内に研修に必要なインターネット環境が整備されている。 適切な労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ハラスメント委員会が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。
	・敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が1名以上在籍している(下記) ・研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付 け、そのための時間的余裕を与えている。 (2024 年度実績: 医療倫理 5 回、医療安全 2 回、感染対策講習会 2 回) ・研修施設郡合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科田(腫瘍)、消化器、循環器、呼吸器、血液、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	内藤 陽一 【内科専攻医へのメッセージ】 国立がん研究センター東病院は、世界最高のがん医療の提供、世界レベルの新しいが ん医療の創出を行う最高峰の施設です。がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療 中核 拠点病院、特定機能病院等にも指定され、豊富な症例経験、様々な領域を専門とする指導 医によるがん診療を含め、高度な技能の習得が可能です。様々な臓器にまたがる疾患を経 験することにより、内科専門医としての幅広い知識や技能を習得することと共に、コミュニケーションスキル・トレーニングや、チーム医療、地域医療との連携により、全人的な医療従事 者として活躍できるための支援・指導を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、内科専門医 23 名、認定内科医 25 名、日本臨床腫瘍学会指導医 16 名、がん薬物療法専門医 13 名、日本肝臓学会指導医 1 名、肝臓専門医 7 名、日本血液学会指導医 5 名、血液専門医 5 名、日本呼吸器学会指導医 3 名、呼吸器専門医 7 名、日本消化器病学会指導医 8 名、消化器病専門医 25 名 ほか
外来•入院患者数	外来患者 28,472 名(1ヶ月平均)入院患者 11,988 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患軍港目標)にある、総合内科皿(腫瘍)、消化器、呼吸器、血液の分野で主要疾患を中心に経験することができます。
経験できる技術・技能	該当する疾患に対して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 など

昭和医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人権啓発推進室)があります。 ・ハラスメントについても人権啓発推進委員会が昭和医科大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が 81 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を提供し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を提供し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに指導医の在籍していない施設(特別連携施設:診療所や過疎地病院、あるいは研究施設等を想定)での専門研修が含まれる場合には、基幹施設に所属する指導医がその施設での研修指導を行えるような工夫をしています(テレビ電話等)。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全ての領域、総合内科、消化器、循環器、内分
【整備基準 24/31】	泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定
3)診療経験の環境	一次、代謝、自鹹、中吸谷、血液、神経、アレルギー、形成病、恋呆症のよび救患の力質で定一常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準	用印列で、可能な証例数と砂線としてあり。
	 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
【整備基準 24】 4)学術活動の環境	口本内件子云碑演云の句いは回地方云に中间で計「演越以上の子云光衣をしていまり。
指導責任者	相良 博典 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は 8 つの附属病院を有し、東京都内の協力病院と連携して人材の育成や地 域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に 大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。ま
	た単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするもので
(常勤医)	でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。 指導医数(常勤医) 日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本循環器学会専門医 25 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本腎臓病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 16 名、日本血液学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 16 名、日本アレルギー学会専門医(内科)10 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、日本所臓学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 10 名、日本老年医学会専門医 5 名
	でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。 指導医数(常勤医) 日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本循環器学会専門医 25 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本腎臓病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 16 名、日本血液学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 16 名、日本アレルギー学会専門医(内科)10 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、日本所臓学
外来・入院患者数	でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。 指導医数(常勤医) 日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本循環器学会専門医 25 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本腎臓病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 16 名、日本血液学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 16 名、日本アレルギー学会専門医(内科)10 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 10 名、日本老年医学会専門医 5 名 外来:1999.5 人、入院:814.1 人(2024年度一日平均患者数) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
(常勤医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群	でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。 指導医数 (常勤医) 日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名、日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本循環器学会専門医 25 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本腎臓病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 16 名、日本血液学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 16 名、日本アレルギー学会専門医 (内科)10 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 10 名、日本老年医学会専門医 5 名 外来:1999.5 人、入院:814.1 人(2024年度一日平均患者数) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
(常勤医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能	でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。 指導医数 (常勤医) 日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本循環器学会専門医 25 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本腎臓病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 16 名、日本血液学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 16 名、日本アレルギー学会専門医(内科)10 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 10 名、日本老年医学会専門医 5 名 外来:1999.5 人、入院:814.1 人(2024 年度 一日平均患者数) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。

学会認定施設

(病院全体)

- 日本内科学会認定医制度教育病院日本アレルギー学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設日本内分泌学会認定教育施設日本透析医学会認定施設
- 日本アフェレシス学会認定施設日本腎臓学会研修施設
- 東京都区部災害時透析医療ネットワーク会員施設日本内科学会認定教育施設
- 日本肝臓学会認定施設日本脈管学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設日本消化器病学会認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 骨髄バンク非血縁者間骨髄採取認定施設・非血縁者間骨髄移植認定施設日本血液学会血 液研修施設
- 日本臨床薬理学会認定医制度研修施設日本老年医学会認定施設
- 日本心血管インターベンション治療学会研修施設日本循環器学会専門医研修施設
- 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設日本高血圧学会専門医認定施設
- 日本不整脈心電学会植え込み型除細動器/ペーシングによる心不全治療施行施設
- 日本心臓リハビリテーション学会認定施設日本アレルギー学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本内分泌学会認定教育施設日本透析医学会認定施設

日本老年医学会認定施設

日本心臓リハビリテーション学会認定施設日本麻酔科学会認定病院

- 日本集中治療医学会専門医研修施設
- 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- 特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構登録参加施設臨床遺伝専門医制度委員会 認定研修施設
- 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本外傷学会外傷専 門医研修施設
- 日本眼科学会眼科研修プログラム施行施設(基幹研修施設)日本病理学会研修認定施設
- 日本臨床細胞学会教育研修施設日本東洋医学会指定研修施設
- 日本肥満学会認定肥満症専門病院日本胆道学会指導施設
- 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度研修施設日本薬剤師研修センター研修会実施期
- 日本薬剤師研修センター研修受入施設
- 公益社団法人日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定日本医療薬学会認定薬剤 師制度研修施設
- 全国環境器撮影研究会被ばく線量低減推進認定施設認定
- 特定非営利活動法人乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設 認定輸血検査技師制度協議会認定輸血検査技師制度指定施設公益社団法人日本診療放 射線技師会臨床実習指導施設
- 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設

学会認定施設 (内科系)

昭和医科大学江東豊洲病院

・最幹型臨床呼條病院である。 ・一番を型臨床で終った。 ・一番をごの妻を口書をとインターネット環境がある。 ・一番を「必要な回書をとインターネット環境がある。 ・一番を「空事を口事をとインターネット環境がある。 ・一部で、一方で、一方で、一方で、一方で、一方で、一方で、一方で、一方で、一方で、一方	昭和医科大学江東豊洲	15内元
- 内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 医療倫理・医療安全・感染対策請置会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・OPO を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・OPO を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(消化器病研究会、循環器内科研究会、Stroke Neurologist 研究会、関節リウマチ研究会、腎疾患研修会などを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 1 と変基準 【整備基準 24/31] 3)診療経験の環境 ・認定基準 【整備基準 24/31 4)学術活動の環境 ・ 日本内科学会議演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。 1 日本内科学会議演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。 2 中藤 敬義 【内科等政医へのメッセージ】 昭和医科大学江東豊洲病院は循環器センター、消化器センター、緻血管センター、教急センターおよび内科系診療センターを有する総合病院であり、連携施設として循環器、消化器・神経疾患および呼吸器疾患をはじめとする内科系疾患全般にわたっての治治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環部に関しては、急性期の虚血性疾患の対心から、慢性期の心不全の管理まで対応でき、ます。消化器に関しては、定性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などを耐なできます。呼吸器疾患に関しては、感染症、肺癌など腫病性疾患、間質性肺疾患、気管支端息などのアレルギー性疾患など幅の念性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などを研修できます。呼吸系疾患に関しては、感染症、肺癌など腫病性疾患、間質性肺疾患、気管支端内とならの治・対療に関しては、対験・表に関しては、感染症・肺癌など腫病性疾患、間質性肺疾患、気管支端のととの所を患患のさい疾患に関しては、感染症・肺癌など腫病を患さとも所料を患さる人の主体を含まず。中吸条環境に関しては、また全国に連携施設を持つており、充実した事攻医研修が可能です。 日本内科学会指導医(20名)、日本内科学会を同性医(2名)、日本内科学会専門医(2名)、日本内科学会専門医(2名)、日本用化器内視鏡学会専門医(2名)、日本用化器内視鏡学会専門医(2名)、日本用化管(2名)、日本平原と名)、日本平原と名)、日本呼吸器学の関係専門医(2名)、日本平原と名)、日本呼吸器学の関係、(2名)、日本平原医(2名)、日本平原医(2名)、日本平原医(2名)、日本不必能学会専門医(2名)、日本不必能学会専門医(2名)、日本不必能学会専門医(1名)、日本不必能学会専門医(2名)、日本不必能学会専門医(1名)、日本不必能学会専門医(2名)、日本不必能学会専門医(2名)、日本不必能学会専門医(2名)、日本不必能学会専門医(2名)、日本中学会専門医(2名)、日本神経学会専門医(2名)、日本神経学会専門医(2名)、日本神経学会専門医(2名)、日本呼吸	【整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・労務環境が保障されている(衛生管理者による院内巡視・週1回)。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(管理課職員担当)、人権啓発推進委員会がある。 ・監査・コンプライアンス室が昭和大学本部に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
議、感染症、アレルギー、代謝、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 認定基準 [整備基準 24] 4)学術活動の環境 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。 伊藤 敬義 [内科専攻医へのメッセージ] 昭和医科大学江東豊洲病院は循環器センター、消化器センター、脳血管センター、救急センターおよび内科系診療センターを有する総合病院であり、連携施設として循環器、消化器、神経疾患および呼吸器疾患をはじめとする内科系疾患全般にわたっての診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては、食道、胃、大陽なが、たら、慢性期の心不全の管理まで対応できます。消化器に関しては、食道、胃、大陽なが、たら、慢性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などを研修できます。呼吸器疾患に関しては、感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関しては、感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して症例を有しております。リウマチ・膠原病疾患なども入院・外来にて多くの症例を経験できます。また総合内科・救急疾患としての症例も豊富でありさまざまな疾患に対応できます。また、専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をして、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を手がており、充実した専攻医研修が可能できます。また全国に連携施設を持っており、充実した専攻医研修が可能でする、日本内科学会指導医(2 名)、日本消化器病学会専門医(17 名)、日本消化器病学会専門医(8 名)、日本消化器病学会専門医(9 名)、日本消化器内視鏡学会専門医(2 名)、日本消化器内視鏡学会専門医(2 名)、日本消化器内視鏡学会専門医(2 名)、日本神経学会専門医(2 名)、日本神経学会専門医(2 名)、日本神経学会専門医(2 名)、日本神呼吸器中門医(8 名)、日本解験学会専門医(2 名)、日本不登脈学会専門医(8 名)、日本経済学会専門医(8 名)、日本経済学会専門医(8 名)、日本経済学会専門医(8 名)、日本経済学会専門医(8 名)、日本経済が医学会専門医(8 名)、日本経済が医学会専門医(8 名)、日本不整脈学会専門医(1 名)、日本不整脈学会専門医(1 名)、日本不静臓学会専門医(1 名)、日本不整脈で会専門医(1 名)、日本不整脈で会専門医(1 名)、日本不整脈で会専門医(1 名)、日本不整脈学会専門医(1 名)、日本	【整備基準 24】 2)専門研修プログラム	・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(消化器病研究会、循環器内科研究会、 Stroke Neurologist 研究会、関節リウマチ研究会、腎疾患研修会)などを定期的に開催し、専攻医に受講を義務
【整備基準 24】 4)学術活動の環境 伊藤 敬義 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学江東豊洲病院は循環器センター、消化器センター、脳血管センター、教急センターおよび内科系診療センターを有する総合病院であり、連携施設として循環器、消化器、神経疾患および呼吸器疾患をはじめとする内科系疾患全般にわたっての診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては、食道、胃、大腸などの消化管疾患がよび手胆腱疾患などを幅広く経験できます。神経疾患は特に脳血管疾患の急性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などをができます。・神経疾患に関しては、食道、胃、大腸などの消化管疾患はよび肝胆腱疾患などを幅広く経験できます。中吸器疾患に関しては、成業症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して症例を有しております。リウマチ・膠原病疾患なども入院・外来にて多くの症例を経験できます。また総合内科・救急疾患としての症例も豊富でありさまざまな疾患に対応できます。また、専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医(24名)、日本清化器病学会専門医(17名)、日本内科学会指導医(9名)、日本消化器内視鏡学会専門医(17名)、日本消化器病学会精導医(9名)、日本消化器内視鏡学会専門医(16名)、日本消化器内視鏡学会専門医(2名)、日本消化器内視鏡学会専門医(17名)、日本神経学会神経内科専門医(4名)、日本本呼吸器内視鏡学会専門医(4名)、日本平呼吸器中門医(8名)、日本平呼吸器中門医(1名)、日本本形成学会専門医(1名)、日本不整脈学会専門医(1名)、日本不整脈学会専門医・指導医(2名)、日本本形成学会専門医・指導医(2名)、日本本形成学会専門医(1名)、日本本経尿学会専門医(1名)、日本本経尿学会専門医・指導医(2名)、日本不整脈学会専門医・指導医(2名)、日本不整脈学会専門医・指導医(2名)、日本不整脈学会専門医・指導医(2名)、日本不整脈学会専門医(1名)、日本本経尿学会専門医(1名)、日本不整脈学会専門医・指導医(2名)、日本不整脈学会専門医・1名)、日本不整脈学会専門医(1名)、日本不整脈学会専門医・1名)、日本を臓学会専門医・1名)、日本不整脈学会専門医(1名)、日本を脈に関いなどのは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本	【整備基準 24/31】	臓、感染症、アレルギー、代謝、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症
【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学江東豊洲病院は循環器センター、消化器センター、脳血管センター、教急センターおよび内科系診療センターを有する総合病院であり、連携施設として循環器、消化器、神経疾患および呼吸器疾患をはじめとする内科系疾患全般にわたっての診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。消化器に関しては、食道、胃、大腸などの消化管疾患および肝胆膵疾患などを幅広く経験できます。神経疾患は特に脳血管疾患の急性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などを研修できます。呼吸器疾患に関しては、感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広疾患に関して症例を経験できます。また総合内科・救急疾患として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力を入れています。また全国に連携施設を持っており、充実した専攻医研修が可能です。 日本内科学会指導医(20名)、日本内科学会総合内科専門医(24名)、日本循環器学会循環器専門医(8名)、日本心血管インターベンション治療学会専門医(26名)、日本消化器病学会専門医(17名)、日本消化器病学会指導医(9名)、日本消化器中間医(17名)、日本消化器内視鏡学会、角、日本心血管インターベンション治療学会専門医(4名)、日本所は学会専門医(12名)、日本消化器内視鏡学会有門医(2名)、日本消化器病学会連門医(4名)、日本呼吸器中門医(4名)、日本呼吸器中門医(4名)、日本呼吸器中門医(4名)、日本呼吸器中門医(4名)、日本呼吸器中間医(4名)、日本呼吸器中間医(4名)、日本呼吸器中間医(4名)、日本呼吸器中間医(4名)、日本呼吸器中間医(4名)、日本呼吸器中間医(1名)、日本離胱学会専門医(1名)、日本整脈学会専門医(1名)、日本整備を対しているといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい	【整備基準 24】	ā。
環器専門医(8 名)、日本心血管インターベンション治療学会専門医(2 名)、日本消化器病学会専門医(17 名)、日本消化器病学会指導医(9 名)、日本消化器内視鏡学会専門医(21 名)、日本消化器内視鏡学会指導医(9 名)、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医(4 名)、日本肝臓学会専門医(8 名)、日本肝臓学会指導医(2 名)、日本ヘリコバクター学会: H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医(2 名)、日本呼吸器学会呼吸器専門医(4 名)、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医(2 名)、日本神経学会神経内科専門医(8 名)、日本脳卒中学会専門医(4 名)、日本腎臓学会専門医・指導医(2 名)、日本アレルギー専門医(3 名)、日本糖尿病学会糖尿病専門医(2 名)、日本透析医学会専門医・指導医(2 名)、日本脳神経血管内治療学会専門医(1 名)、日本不整脈学会専門医(1 名)、日本不整脈学会専門医(1 名)、日本不整脈学会専門医(1 名)、日本アレルギー・東門医(3 名)、日本語の対象学会専門医(1 名)、日本語の対象学会研究を使用を対象を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を使用を対象を使用を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を対象を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を使用を	指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学江東豊洲病院は循環器センター、消化器センター、脳血管センター、救急センターおよび内科系診療センターを有する総合病院であり、連携施設として循環器、消化器、神経疾患および呼吸器疾患をはじめとする内科系疾患全般にわたっての診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。消化器に関しては、食道、胃、大腸などの消化管疾患および肝胆膵疾患などを幅広く経験できます。神経疾患は特に脳血管疾患の急性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などを研修できます。呼吸器疾患に関しては、感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して症例を有しております。リウマチ・膠原病疾患なども入院・外来にて多くの症例を経験できます。また総合内科・救急疾患としての症例も豊富でありさまざまな疾患に対応できます。また、専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力を入れていま
	(常勤医)	日本内科学会指導医(20 名)、日本内科学会総合内科専門医(24 名)、日本循環器学会循環器専門医(8 名)、日本心血管インターベンション治療学会専門医(2 名)、日本消化器病学会専門医(17 名)、日本消化器病学会指導医(9 名)、日本消化器内視鏡学会専門医(21 名)、日本消化器内視鏡学会指導医(9 名)、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医(4 名)、日本肝臓学会専門医(8 名)、日本肝臓学会指導医(2 名)、日本ヘリコバクター学会: H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医(2 名)、日本呼吸器学会呼吸器専門医(4 名)、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医(2 名)、日本神経学会神経内科専門医(8 名)、日本脳卒中学会専門医(4 名)、日本腎臓学会専門医・指導医(2 名)、日本アレルギー専門医(3 名)、日本糖尿病学会糖尿病専門医(2 名)、日本透析医学会専門医・指導医(2 名)、日本脳神経血管内治療学会専門医(1 名)、日本下整脈学会専門医(1 名)、日本アレルギー専門医(3 名)、日本糖尿病学会専門医(1 名)、日本下整脈学会専門医(1 名)、日本下整脈学会専門医(1 名)、日本下整脈で会認定不整脈専門医(1 名)、日本膵臓学会指導医(1 名)
	外米・人院患者数	外米 347.0 人 人院 550.6 人 (2024 年度一日平均患者数)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳(疾患群項目表)にある
	13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。血液、感染症、救急の領域に
	関しても、本学附属病院及び連携施設を研修することで経験できます。
	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
経験できる技術・技能	幅広く経験することができます。特に循環器および消化器領域においては、より高度な専門
	技術も習得することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携など
診療連携	を経験できます。
	日本内科学会認定医制度教育施設「大学病院」
	日本消化器病学会認定施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本食道学会全国登録認定施設
	日本胆道学会認定指導医制度指導施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
) 学会認定施設	日本神経学会教育施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院
(内科系)	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本透析医学会認定施設
	日本高血圧学会認定施設
	日本アフェレシス学会施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本肝臓学会認定施設
	など

日本赤十字社医療センター

	<i>?</i>
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
認定基準	・日本赤十字社常勤嘱託医師として労務環境が保障されています.
【整備基準 24】	・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります.
1)専攻医の環境	・ハラスメント委員会が当センター内に整備されています.
	·女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室,シャワー室,当直室が整備されています.
	·敷地内に託児所があり、利用可能です.
	指導医は 19 名在籍しています
	·内科専門研修プログラム管理委員会によって,基幹施設,連携施設に設置されている研修
	委員会との連携を図ります.
	基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修推進室を設
	置しています。
	- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2018 年度実績 2 回)し, 専攻医に
	受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	一・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための
認定基準	時間的余裕を与えます。
【整備基準 24】	·CPC を定期的に開催(年度間実績 8 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的
2)専門研修プログラム	余裕を与えます。
の環境	・地域参加型のカンファレンス(渋谷区医師会日赤合同カンファレンス, 循環器科渋谷区パス
	大会、循環器科渋谷区公開クルズス、東京循環器病研究会、城南呼吸器疾患研究会、城
	南気道疾患研究会、城南間質性肺炎研究会、渋谷目黒世田ヶ谷糖尿病カンファレンス、城
	南消化器検討会,東京肝癌局所治療研究会,都内肝臓臨床検討会,東京神奈川劇症肝炎
	研究会, 消化器医療連携研究会, 臨床に役立つ漢方勉強会, など)を定期的に開催し, 専
	攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2015~2018 年度開催実績各年 1 回)を義
	務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ロオ東即医機構による疾動電池圏本に販皮取放性進電が対応します。
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修推進室が対応します.
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数 を診療しています.
【整備基準 24/31】	でお旅しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
3)診療経験の環境	・- ・- ・- ・- ・- ・- ・- ・-
	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています.
認定基準	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
【整備基準 24】	・治験管理室を設置し,定期的に受託研究審査会を開催(年度実績 11 回)しています.
4)学術活動の環境	冶歌音写写記憶は、た場けに文化が先番音会と開催(平度失順 1 日/している)
サ/丁川/ロ刧/ジス次	演題)をしています。
	小島 敏弥
	【内科専攻医へのメッセージ】
指導責任者	日本赤十字社医療センターは日本赤十字社直属の総合病院であり、救急医療、がん治療、
	周産期を三本柱とする東京中心部の急性期病院です。 救命救急センターにおける三次救
	急. 二次救急には研修医の先生に積極的に参加していただいております. 当院は癌拠点病
	院であり、外科治療はもちろん、サイバーナイフ治療、化学治療、そして緩和病棟と一貫した
	体制がとられ、各科が協力して、とくに内科と外科は密接に関係しながら治療にあたっていま
	す. また. 当院は都内有数の周産期病院であり. 年間 1000 件を超える出産があり. 妊婦や
	婦人科に関連した疾患も内科において経験することが可能です。その他ほとんどすべての
	診療科を有し、多種多彩な疾患、症例を経験することが可能となっています. スタッフは各分
	野のエキスパートであり、指導体制も確立しています. 症例報告, 各種学会発表, 臨床研究,
	論文作成も積極的に行われております。これまで、当院で研修された数多くの諸先輩医師が
	各分野における日本の医療を支える立場で活躍しています. 当院出身の先輩医師は当院の
	出身であることに誇りを持ち、その経験を生かしつつ最前線で医療に携わっております。ま
	た、さらに経験を積んだうえで当院に戻られる先生方も多数おられます.新しい内科専門医
	制度の採用により、実際の症例件数や実技の修達度も明らかとなり、これまでより一層研修

	の質を向上させてくれることと思います。またさらには関連施設での一定期間の研修を組み入れることにより、一つの施設にとらわれない広い視野を持った医師の育成にも良い影響があると考えられます。当院のプログラムは、十分な症例経験、実技経験、地域医療や関連施設での研修を通し、これまで以上に日本の医療に貢献できる医師の育成に寄与すべく作成されております。少しでも多くの専攻医のみなさんが当院のプログラムに参加されることを期待しております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会専門研修指導医 19 名, 日本内科学会総合内科専門医 36 名日本消化器病学会消化器病専門医 16 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名, 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 5 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名, 日本血液学会血液専門医 10 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名, 日本循環器学会循環器専門医 7 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 12 名 など
外来•入院患者数	外来患者 11,335 名(内科 1ヶ月平均) 入院患者 5,419 名(内科 1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本りウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本海経学会教育施設・准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本水急医学会教育科専門医指導医指定施設 日本解の場合のである。 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本解の場合のである。 日本部に腫瘍学会認定が修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本精尿病学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本網の分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定で
	日本感染症学会研修施設 など

東京都立多摩総合医療センター

東京都立多摩総合医療	-t-2/y-
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課医事課、職員担当、医局役員)がある。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は 47 名在籍している(2025 年 3 月)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、プログラム統括責任者(内科系診療科医長 1 名) ・ 副プログラム統括責任者(に内科系診療科部医長各 2 名)、基幹施設内科専門研修委員長(内科系診療科部医長 1 名)(ともに総合内科専門医かつ指導医)) ・内科専門研修プログラム委員会は、基幹施設、連携施設に設置されている研修 委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を 臨床研修管理委員会に設置する。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・OPC を定期的に開催(2024 年度実績 10 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属性(2024 年度実績 10 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に研修期間中の JMECC 受講(2024 年度開催実 績 1 回)受講者 20 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。 ・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では、電話やメールでの面談・Web 会議シ ステムな
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	どにより指導医がその施設での研修指導を行う。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を 診療している(上記)。 ・その結果 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度 26 体、2020 年度 29 体、2021 年度 28 件、2022 年度 25 件、2023 年度 31 件、2024 年度 30 件)を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2021 年度実績 12 回)している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2020 年度実績 11 回)している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	佐藤 文紀 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。卓越した指導医陣のもと、内科の全領域で豊富な症例を経験できます。東京 ER(一次~三次救急)での救急医療研修(必修)と合わせて、総合診療基盤と知識技能を有した内科専門医を目指してください。新制度では、全国の連携施設や東京都島嶼等の特別違携施設での研修を通じて、僻地を含めた地域医療の重要性と問題点を学び、また貢献できます。お待ちしています!
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 50 名、日本消化器病学会消化器病専門医 20 名、日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 7 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 9 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、

	日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、
	日本アレルギー学会アレルギー専門医 4 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 12 名、
	日本感染症学会感染症専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 20 名、
	日本プライマリ・ケア連合学会指導医 6 名ほか
外来·入院患者数	外来患者 449, 354 名(2024 年実績)、入院患者 234, 713 名(2024 年実績)
 経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を
性残くこの大心中	幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
在級できる技術・技能	幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼
診療連携	医療なども経験できる。
	日本内科学会認定医制度教育病院
	日本消化器病学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設
学会認定施設	日本透析医学会専門医制度認定施設
, _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _	日本救急医学会救急科専門医指定施設
(内科系)	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設
	日本内分泌代謝科学会認定教育施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本感染症学会研修施設
	日本肝臓学会認定施設など

東京科学大学病院

東京科学大学病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与(当直業務給与や時間外業務給与を含む)、福利厚生(健康保険、年金、住居補助、健康診断など)、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従います。 ・メンタルストレスに適切に対処する部門として保健管理センターが設置されています。 ・ハラスメント防止対策委員会が設置され、各部に苦情相談員が置かれています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・学内の保育園(わくわく保育園)が利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・内科指導医が 122 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。(2024 年度開催実績 6 回内科系のみ) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・東京科学大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能です。 ・臨床倫理委員会が設置されています。 ・臨床試験管理センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 10 題の学会発表を行っています。(2022年度実績) ・内科系学会等で年間 261 題の学会発表を行っています。(2022 年度実績)
指導責任者	呼吸器内科教授 宮崎 泰成 【メッセージ】 東京科学大学病院内科は、日本有数の初期研修プログラムとシームレスに連携して、毎年 60~90 名の内科後期研修医を受け入れてきました。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。 新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成する体制を構築しました。
指導医数 (常勤医)	内科指導医数 122 名 (内:総合内科専門医 77 名)
外来·入院患者数	休子 10 10 10 10 10 10 10 1
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
·	

	日本内科学会認定医教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本高血圧学会認定研修施設
学会認定施設 (内科系)	日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本老年医学会認定施設 日本老年精神医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本循環器学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本ル血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本心血管インターペンション治療学会認定研修施設 日本が登場を表現しています。

	川宗立例沈饭悟 作示川宗立旭垛命吁吸命内でファー
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務局総務課)があります。 ・内部統制・コンプライアンス室が地方独立行政法人神奈川県立病院機構本部事務局に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専攻医の環境	 ・指導医が13名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施を見送っておりましたが、2024年から再開しております。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、感染症、アレルギーおよび代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・症例報告を論文にまとめることを始めとして、臨床データの収集解析を行い、在籍中に原著論文を仕上げられるよう指導します。(1年~4年次)・総会発表を年1回以上行うことを指導します。(3~4年次)・研究会、学会活動、論文作成には可能な限り経済的・時間的援助を行います。
指導責任者	萩原恵里 【内科専攻医へのメッセージ】 循環器呼吸器病センターは循環器および呼吸器疾患の専門病院であり、連携施設として 循環器、呼吸器疾患の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に 関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼 吸器疾患に関しては、結核を含む感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘 息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して全国有数の症例数を有しており、それ ぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会 的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように 教育に力をいれています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13名、日本内科学会総合内科専門医 15名 日本循環器学会循環器専門医6名、日本呼吸器学会専門医13名、 日本糖尿病学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医(内科)1名、 日本感染症学会専門医2名、ほか
外来•入院患者数	外来患者 6,642 名(1ヶ月平均) 入院患者 4,166 名(1ヶ月平均) * 2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳(疾患群項目表)にある9領域、39疾患群の症例を 幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携など を経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会連携施設 日本呼吸器学会基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本アレルギー学会専門医教育研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本環境感染学会認定教育施設
日本感染症学会認定研修施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設

医療法人 徳洲会 湘南鎌倉総合病院

医療法人 徳洲会 湘南	角鎌倉総合病院
	・669 床の初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
	「JCI」(米国の国際医療機能評価機関)認定病院、「JMIP」(外国人患者受入れに関する認
	定制度)認証病院である。
	・研修に必要な図書室とインターネット・Wi-Fi 環境がある。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課、臨床心理室)がある。
	・ハラスメント委員会が院内に整備され、月一回開催されている。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室
	が整備され、HOSPIRATE 認証病院となっている。
	・敷地内に院内保育所(24 時間・365 日運営)があり、利用可能である。
	※「JCI」とは・・・米国の医療施設を対象とした第三者評価機関 Joint Commission(元
認定基準	JCAHO:1951 年設立)の国際部門として 1994 年に設立された、国際非営利団体 Joint
【整備基準 24】	Commission International の略称である。世界 70 カ国 700 の医療施設が JCI の認証を取
1)専攻医の環境	得している。JCI のミッションは、継続的に教育やコンサルテーションサービスや国際認証・証
	明の提供を通じて、国際社会における医療の安全性と品質を向上させることである。
	一切のたける
	あり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となる。厚生労働省が「外国
	人の方々が安心・安全に日本の医療サービスを享受できるように」、外国人患者の円滑な
	受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の共産といるようには、
	療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平な立場で評価する認証制度である。
	※「HOSPIRATE 認証病院」とは・・・この評価認定は、働く職員にとって、ワークライフバラン
	スを病院側がどのように工夫し、「働きやすい環境」を整備しているかを第三者側から評価
	するものである。
	・指導医が 46 名在籍しています。
	・内科専門研修プログラム管理委員会;専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携
	施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修
	センター/内科専門研修センターを設置する。
	・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与える。
認定基準	・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 11 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
【整備基準 24】	間的余裕を与える。
2)専門研修プログラム	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医には受講を原則的に義務付け、そ
の環境	のための時間的余裕を与える。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度開催実績1回、受講者 11 名)
	を義務付けそのための時間的余裕を与える。
	・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応する。
	・英国人医師による問診聴取や身体所見の取り方を研修するとともに、英語によるコミュニ
	ケーション能力を向上させる。
	・特別連携施設の専門研修では、電話やインターネットを通じて月 1 回の湘南鎌倉総合病
	院での面談・カンファレンスにより、指導医がその施設での研修指導を行う。
=n + + *#	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 11 分野以上)で定常的に専
認定基準	門研修が可能な症例数を診療している。
【整備基準 24/31】	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる。
3)診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検(2024年度実績13体)を行っている。
	臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。UpToDate、今日の臨床サポートの
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	医療検索ツールも充実しており、Mobile を用いた検索も全内科医師が可能な環境である。
	・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 24 回 内訳:徳洲会全体 12 回、院
	内 12 回)している。
	・治験管理室を設置し、定期的に治験審査会を開催(2024 年度実績 12 回)している。再生
	医療のための特定認定再生医療等審査委員会も設置され CPC (cell processing center)が
	医療のための特定認定再生医療等番重要負去も設置され GPG (cell processing center)が 用意され今後の展開が可能。
	用息されっての展開が可能。 ・臨床研究センターが設置されており、症例報告のみならず臨床研究への積極的な参画を
	㎜小ฟ九にノノ ル:以直で10〜のツ、近河形ロツかなつり鰤小町九~以供型的は多画で

推進する。		
る。		推進する。
小泉一也		・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表(2023 年度実績 3 演題)をしてい
【内科専攻医へのメッセージ】 湘南線倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘陶彦僚圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く体々な環境下で全人的な内科医療を実践はます。内科の呼吁研修で打、成本の経験と単に記録するのではなく、病庭要給として、科学的根拠や自己省察を入して、わらの経験を単に記録するのではなく、病庭要給として、科学的根拠や自己省察を入金人のたりおきなります。ことを経験しまで、そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病庭要給として、科学的根拠や自己省察を入金人の医療を実践できる内科専門医になります。と担当医として、人社会的背景・療護に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。の科領域全般の診療を制定しまり指導でとよります。主担当医として、人社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。の科領域全般の診療能力として、知識や技能に高くずに、患者に人間性をもつだする全人的医療を実践できる内科専門医になります。を目指します。の科領域全般の診療能力として、知識や技能のではなく、病医のずに、支援の対点を表してで発すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践できる内科専門医になります。を目前に、医師としてのプロフェッショナリズととりサーチマインドの素養を修得して可塑性が高く様々な環境下で全人の内容を表表でありた。対点を表表を表現を表現して、社会的背景・療養・理を順久、経験してゆくことによって、内科の激化を影響を接続して、社会的背景・療養・環境調整をも包括する全人の医療を実践できる内科専門医になります。主担当医として、入院から遺域調整をも包括する全人の医療を実践できる内科専門医になります。とも、日本内科学会業に名名、日本内科学会教育の医5名、日本の大学会専門医5名、日本内科学会教育の医5名、日本の大学会専門医6名、日本研究器学会理門医5名、日本の大学会専門医6名、日本の大学会専門医6名、日本の大学会専門医6名、日本の大学会専門医6名、日本の大学会専門医5名、日本の大学会専門医6名、日本の大学会専門医5名、日本の大学会専門医6名、日本の政策を開発を表現を表示した。と様のできます。とは様できる地域医療・溶液に表したいできます。とは様できる地域医療・溶液に表したいできます。とは様できる地域医療・溶液に表したいできます。とは様できる地域医療・溶液を患者でしたいできます。とは様できる地域医療・溶液に表したいできます。とれていていていいできます。とれていていいできます。とれていていいできます。とれていていいできます。とれていていいできます。とれているいできます。とれているいできます。とれているいでは、ないのでは、		る。
湖南蛇倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦・翔底原圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じて可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全、的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患や病態に特別と呼吸が生きれていてとによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特別というの経験を単に記録するのではなく病歴要教として、科学的根拠や自己含緊をくめている場所を表表します。人科学的根拠や自己含緊を公のて記さ、病理を要約として、科学的根拠や自己含緊を公会して、これらの経験を生に記録するのではなく病歴要教として、科学的根拠や自己含緊を公会して、これらの経験を生に記録するのではなく病歴要教として、大院から選集環境警をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践できる人的医療を実践します。、内科の専門研修では、幅広い疾患野を順次、経験していのことして、入時かる経動診療を検別として、科学の表別として、経験の経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己容賢をくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養するとが可能となります。主担当医として、入院から選集が経験を入院に関係・記録・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 4名、日本内科学会総自力は非常医と2名、日本科科学会群の医2名、日本科科学会の機構器等の医2名、日本科科学会の主導性医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本科科学会専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本神経学会神医2名、日本内科学会部で流数することができます。 経験できる地域医療・管理の表もにいて、研修・振音の社会に対応した医療・病院日本海球学会認で施設日本衛球を設定を設定の直移体施設日本衛球学会認で施設日本衛球学会認で施設日本衛球学会認で施設日本衛球を設定を通り、内科系の		小泉一也
奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科の基礎的診療を繰り返して学ぶともに、疾患や病態は特異的な意度技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践することが可能となります。これ会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療実験に表験に、診断・治療の流れを通じて、入院から退院、例診・、院・追院・通院・運院・運の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると内暗点を接受したのプロフェッショナリズムとリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践することが可能となります。これ会と目はしてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を移得しての覚虑が高く様々な環境下で全人的なの科医療を実践します。内科の場所を持い返して学ぶとともに、疾患や病態に特別の診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的疾療を表することができなら表も持つまといます。ま担当医として、対会から環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。そして、これら経験を単に記録するとか可能となります。ま担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医10名、日本呼吸器学会呼吸器専門医10名、日本呼吸器学会呼吸器専門医10名、日本呼吸器学会呼吸器専門医10名、日本中吸器学会等呼吸器専門医10名、日本時接等全等専門医10名、日本中吸器学会等呼吸器等再防と5名、日本時接等全等の音(日、日本時度学会専門医10名、日本時度学会専門医1名、日本時代表の音を集団を持ち緩和ケーや超高的社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケーや超流を機能できる地域医療・溶療連携のであり、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケーや超流を検察を認定施設日本研り器を発起を施設日本研り器を発起を施設日本研り器を持ち続わりまたがに表しての対域を検察して表しているが、動物に表しているといできます。		【内科専攻医へのメッセージ】
奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態は特異的な意度技術や患者の抱える多様な背景に配置することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによって、リサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践することが可能となります。主担当医として、入院から退院、初診・入院・退院・通院・運の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接するとが高く様々な環境下で全人的な内科を関を実践することが高と海の流れを通じて、入院から退院、初診・入院・退院・通院・活の主をは、対してのプロフェッショナリズムとリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践することがの異なります。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも停して可塑性が高く様々な環境下で全人的なの科医療を実践します。入科の専門研修では、傾広い疾患・群を順次、経験して的ぐことによって、内科の基礎的診療を接り返して学ぶとともに、疾患や病態に共興的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくがで記載し、複数の指導をによる指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的疾療を表するとは、病医素することができないではない。最近、大阪の流に変して、社会的背景・療養強調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医19名。日本内科学会社の大阪・海洋の経験できる、日本内、日本内、日本内、日本内、日本内、日本の、日本内、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の		湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神
門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。これらの経験を単に記録するのではなく病医要教として、科学的根拠や自己省寮をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退棄環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもつて接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリナーチマインドの素養をも修り、標底、疾患や病態に特異的か診療を繰り返して可塑性が高く様々な環境下で全人的な原名実践できる内科専門医になります。医を目指します。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもつて接するとの時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリナーチマインドの素養をも修りに大の電時、無限に、経験のお経験を単し記録するのではなく病医療を繰り返して、科学的根拠や自己省寮をふくめて記載し、複数の指導医による指導を引やることによってリナーチマインドを表でつむ全人的医療を実践できるが指導を与さるとが原発・実践できるによるによってリナーチマインドを表でつる人の医療を実践できるの内科専門医になります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・退院・通院)まで経験することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・退院・通院)まで出来が実験で受い、事を開医 10名、日本内科学会報画医 46名、日本内科学会群画医 10名、日本内科学会社の主持、日本・経験で会会関で施設できる、日本のより、中枢・大学会専門医 10名、日本海疾等全部で属すると外の医療を実践できる、日本内科学会計を専門医 10名、日本海水等学の関係を検索を表できる、日本のより、本の表に表に表していた。13 様様、大能に関係を対している、計断診療も行のており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケンや超高齢社会にができます。 経験できる地域医療・診療連会を関係を確認を指定を指定を確認等専門医の移して、対称・技能を行ることができます。 経験できる地域医療・診療を通路を持ち続致のよりに表情を持ち、表別できる地域医療・診療・病病連携なども、表別できる地域医療・診療・病病連携等・関係を設定を施設日本の表別を発きたいできます。 日本内科学会認定施設日本病療養等の記を持ち続致日本の表別を表した。表別を持ちます。日本の大能を持ちまり、またいに表していまり、またいに表していまり、またいに表していまり、またいに表していましていましない。		
ます。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高、様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患・精を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の心になく、病歴要約として、科学的根拠や自己名客を失び、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己名客を実践で記載は、複数の指導医による指導を引かることによって、リカイの造成の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。をそ日打します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって持っると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可型性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患・群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に記述する。内科の専門研修では、幅広い疾患・病患に特異的な診験技術や患者の抱える多様な背景におます。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることして、入院から追院(初診・入院・追院・通院)まで経時のに、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養境過整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会程導医 46名、日本内科学会社会内科専門医 10名、日本内科学会社会活る全人的医療を実践を含品内科専門医 10名、日本神経学会神経の科事門医 5名、日本本的液学会・由液等門医 2名、日本市臓学会・研疫 5名、日本中の表学の表達を開催す医 10名、日本神経学会神経内科専門医 5名、日本市は学学会前医 1名、日本神経学会神経内科専門医 5名、日本市が子学の音門医 1名、日本中の表学を通常を発展を発展を引きるとができます。 経験できる疾患群 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 ・ 大き、経験できる内科・技能 ・ 大き、経験できる地域医療・溶液連携を治して、がじきます。 経験できる地域医療・溶液連携を指していて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を値なく経験することができます。 経験できる大衛・技能 ・ 大き、経験できる地域医療・溶液・病療・病療連携なども経験できる地域医療・溶液・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・治療・治療・病療・病療・治療・治療・病療・治療・治療・治療・病療・治療・治療・病療・治療・病療・治療・治療・治療・治療・病療・治療・治療・病療・治療・治療・治療・治療・治療・病療・治療・治療・治療・治療・病療・治療・治療・治療・病療・治療・治療・病療・治療・治療・病療・病療・治療・療療・病療・治療・治療・療療・療養・治療・治療・病療・病療・治療・療療・治療・治療・病療・治療・治療・病療・病療・治療・療療・病療・治療・療療・治療・病療・治療・病療・治療・療療・治療・病療・治療・病療・治療・病療・治療・病療・治療・病療・病療・病療・病療・病療・治療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療・病療		
内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して日勤性が高く様々な環境下で全人的な内程度療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基階的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的規模や自己省寮をより、後の 記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から温院、初診・入院へ退院・通院・まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に入間性の大き般性、原体の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に入間性の疾患療法、経験に大命に対してゆくとした。大の利益を動き療養り返してマンインドを備えつて可望性が高く体々な環境下で全人的な内科医療会実践できる内科の専門研修では、幅ない疾患群疾順次経験にてゆくことによって、内科の基礎的診療を規したして可望性が高く体を環境下で全人的な内科を療養実践でま。内科の専門研修では、幅ない疾患に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的規心や自己有家をふくめて記載したりに持ているに、発展を自己を持つることができます。日本内科学会能の内科専門医 22名、日本内科学会指の科専門医 23名 日本神経学会神経内科専門医 5名、日本内科学会部を育性医 1名、日本中吸器学会専門医 2名、日本所験学会専門医 1名、日本神経学会神経内科専門医 5名、日本加速学会専門医 1名、日本神経学会神経の科科専門医 10名、日本神経学会神経内科専門医 9名、日本所験学会専門医 1名、日本が経験学会専門医 9名、日本所は発力を表しれるに対している。日本内科学会を下しているの利事で、10名、経験できる技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅などきる地域医療・特別を表したができます。 経験できる地域医療・特別を発しているの利率に応め表したと療、病診・病病連携なども経験できる地域医療・音のの利率に応じるの利率に応じるが応報などの表しまできます。		
同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者のではなく、病歴要約として、科学的相提や自済を含く人のこれが表します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的相提や自済を含く人の正報と、複数の指導医におよる上海をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を洒きすることが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院へ退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。と目指します。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広へ疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的模型や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えのつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院へ退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医になります。 日本・消化器内禁煙等と名、日本体の発療を発の流れを通じて、社会的背景・療養理調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本・福子会議学の事門医 2 名、日本・衛環器学会衛理器専門医 22 名、日本・神経学会専門医 2 名、日本本内科学会総資務等専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本ルリウチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本ルリウチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本ルリウチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本ルリウチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本地リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本地リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本地リウマチ学会専門医 1 名、日本不利学会会認定能学会認定能量のよりに必要などの関連施設も持ち緩和ケーや経過・対応に経験することができます。 経験できる地域・医療・病療に日本の科学会認と能力を施設・日本の科学会認定能量の日本の研修施設・日本の科学会認定能量の研修施設・日本の科学会認定能量の研修施設・日本の科学会認定能量の研修施設・日本の科学会認定能量の研修施設・日本の科学会認定を認知を必要などの関連を対したいを増加されば、対応したいを増加されば、対ないといの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しまれば、対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しまれば、まれば、対しないるの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しまれば、表に対しないるの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しているの表に対しないるの表に対しまれば、表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しまれば、表に対しないるの表に対しまれば、表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しまれば、表に対しないるの表に対しまれば、表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないるの表に対しないる		
が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患 群を順次、経験してゆくにしまって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを起います。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的規拠や自己省家をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院へ退院・適院)まで経時的に、診断・治療の流れを通して、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に入間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、解底が、接域してのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、解症、疾患が病態に特異的な診療技術や患者の力える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的規學や自己省家をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する配力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(約診・入院・金護院・通院・海療・療歴を学院であるの指導を引きることがの主演を選別を事件医22名、日本内科学会指の科専門医29名 日本消化器病学会専門医1名、日本内科学会総合内科専門医29名 日本神経学会専吸器専門医10名、日本内科学会総合内科専門医20名。日本神経学会専吸器専門医10名、日本内科学会経の有科専門医10名、日本神経学会専門医24名、日本神経学会専門医24名、日本神経学会専門医25名、日本神経学会専門医24名、日本神経学会専門医25名、日本神経学会専門医26名、日本神経学会専門医28名、日本神経学会専門医28名、日本神経学会専門医28名、日本神経学会専門医28名、日本神経学会専門医28名、日本神経学会専門医28名、日本がは一般を発生の事件を発展が会を開たないできます。 経験できる地域医療・ が常ないできます。 経験できる地域医療・ 資性財医療だけでなく、計問診療も行っており、地域に根さした医療、病診・病病連携なども経験できる地域医療・ 資性財医療だけでなく、計画診療・病病連携なども経験できると認定の施設 日本の科学会認定能設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定能 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認に施設 日本の科学会認定能 日本の科学会認に施設 日本の科学会認定能 日本の科学会認に対しているの科学の表に対しているの科学を表したができます。		
群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配虚することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を公ので記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践の能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院、破代初診・入院へ退院・通院法まで経時のに、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもつてサロフェッショナリズムとリサーティインドの素をも修得して可望性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の能力な多様な背景に配虚することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることに、表形や病態に特異的な診療技術や患者を必ずしたとして、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者を経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学の根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることにて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医10名、日本内科学全規管の各人日本内科学全総合内科専門医29名日本期保証にむます。名日本海に祭明有学会専門医2名、日本内科学全総内科専門医29名日本海に経験す会専門医2名、日本財職学会専門医2名と日本海に経験学会専門医3名日本神経学会神経内科専門医5名、日本財職学会専門医3名日本神経学会神経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 と解験できる技術・技能 と経験することができます。 急性別医療だけでなく、訪問診療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。		
病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省寮をみためて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーテマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的日景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくとによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配虚することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴更約として、科学的根拠の言義を単に記録するのではなく、病歴更約として、科学的根別の追案を入めて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践するのではなく、病歴更新として、科学の財務の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践でも内科専門医になります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・温院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践でも内科専門医になります。日本内科学会報専門医 10 名、日本開び会議専門医 20 名 日本潜化器神会会 再門医 20 名 日本常の報学会呼吸器専門医 5 名、日本内科学会総で自己名、日本の大学会専門医 3 名日本を実在学会専門医 2 名、日本加学学会専門医 3 名日本応染症学会専門医 2 名、日本加学学会専門医 3 名日本応染症学会専門医 2 名、日本加学学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 2 名、日本配味腫等学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 2 名、日本配味腫等学の 1 億点、経験することができます。 経験できる皮膚・ 24,700 名(2024 年度実績)をわかて稀な疾患を除して、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広に経験することができます。 経験できる地域医療・ 参加・経験できるとができます。 経験できる地域医療・ ・ 24,440 名(2024 年度実績) ・ 24,450 名(2024 年度実績) ・ 24,450 名(2024 年度実績) ・ 24,550 名(2024 年度実績) ・ 25,550 名(2024 年度実績) ・ 26,550 名(2024 年度実績) ・ 26,550 名(2024 年度実績) ・ 26,550 名(2024 年度実績) ・ 27,550 名(2024 年度実績) ・ 28,550 名(2024 年度実績) ・ 28,550 名(2024 年度実績) ・ 28,550 名(2024 年度実績) ・ 26,550 名(2024 年度実績) ・ 26,550 名(2024 年度実績) ・ 26,550 名(2024 年度実績) ・ 27,550 名(2024 年度実績) ・ 27,550 名(2024 年度実績) ・ 27,550 名(2024 年度実験)) ・ 28,550 名(2024 年度実験)) ・ 28,550 名(2024 年度・2024 日本のは、2024 年度・2024 日本のは、2024 日本のは、2024 日本のは、2024 日本のは、2024 日本のは、2024 日本のは、2024 日本のは、2024 日本のは、2024		
て、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも会人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院〜退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できたの科専門医になります。医を目指します。内科領域全般的診療能力として、知識や技能に信らずに、患者に人間時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践にまず。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的規拠や自己省察を入めら配載し、複数の指導医による指導を引けることによってリサーチでぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的規拠や自己省察を入めの医療を実践する能力を涵養することができまりするとによってリサーチンドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医(29名日本海県病学会専門医(2名日本内科学会器の内科専門医(2名日本海県病学会専門医(2名日本神経学会神経内科科専門医(24日本本海学会専門医(24日本本海学会専門医(24日本本海学会専門医(24日本本海学会専門医(24日本本海学会専門医(24日本本海学会専門医(24日本本海学会専門医(24日本本海等学会専門医(24日本本海等学会専門医)名、日本本経験学会専門医(24日本本海等学会専門医数な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 と対応にいるの内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 経験できる地域医療・物療連携 学会認定循環器専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら個広く経験することができます。 会性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できるが、種広く経験することができます。 全様などものなり、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども定義に指しるの内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例を施設日本の科学会認定能力を施設日本では対したいために対しているのでは対しているのでは、対しているのでは、対しないないないないないないないないないないないないないないないないないないない		
指導責任者		
全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・温院: 通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に配録するのではな、病歴要約として、科学的根拠か自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を洒養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・温院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 12 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本加液学会血液専門医 12 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本加液学会専門医 1 名、日本小洋化器内視聴学会専門医 9 名、日本監察症学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本临床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560.003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本のよびを施設 日本の発達を設定施設 日本の発音を設定施設 日本の発音を設定施設 日本の発音を設定施設 日本の発音を設定施設 日本の発音を設定施設 日本の経営学会認定加液研修施設 日本等職学会認定施設 日本の影響学会認定加液研修施設 日本の影響学会認定加液研修施設 日本を開業学会認定加液研修施設 日本解談学会び修施設 日本解談学会び修施設 日本解談学会び修施設		
至人的医療を実践の能力を過費す。ことが可能となります。主担当医として、人院がり退院(対診・入院・退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。 「内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己容をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践できる内科専門医になります。主担当医として、入院から退院(初診・入院・退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名日本端尿病学会専門医 24 名、日本所職学会・書門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本肝臓学会血液専門医 26、日本不服学会血液専門医 10 名、日本治経験学会神経の科専門医 5 名、日本上職等学会開医 10 名、日本治経療学会専門医 26、日本上、日本治、日本治、日本治、日本治、日本治、日本治、日本治、日本治、日本治、日本治	上 指道青任 者	くめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも
環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指にます。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高、様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単し記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を過費することが可能となります。主担当医として、入院から退院(、初診・入院・退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医 10 名、日本内科学会指院・国院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医 29 名日本消化器病学会専門医 10 名、日本体循環器学会衛環器専門医 22 名、日本明政器学会呼吸医療・実践できる内科専門医 10 名、日本呼吸器学会呼吸医毒門医 10 名、日本本循環器学会庸門医 10 名、日本呼吸器学会専門医 10 名、日本が銀学会専門医 10 名、日本が経験学会専門医 10 名、日本が職等会専門医 10 名、日本が経験学会専門医 10 名、日本が職等会専門医 10 名、日本が職等自動を専門医 10 名、日本が職等会専門医 3 名日本際染症学会専門医数 1 名、日本原・技術・技能を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広な経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 を持定を持ていている(2024 年度実績) ・さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広な経験することができます。 技術・技能調を療りている、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設 日本の科学会認定施設	加奇女工工	全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退
内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に配録するのではなく、病歴要約として、科学的模拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から食院、初診・入院~退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医 12 名日本消化器病学会専門医 24 名日本内科学会総合内科専門医 25 名日本消化器病学会専門医 26 名日本海洋化器病学会専門医 27 名日本海洋化器病学会専門医 28 名日本海洋化器内視鏡学会専門医 28 名日本加凌学会血液専門医 28 名日本神経学会神経内科専門医 58 名日本加凌学会血液専門医 28 名日本神経学会神経内科専門医 58 名日本加凌学会中門医 18 名日本神経学会神経内科専門医 58 名日本加凌学会専門医 18 名日本がレルギー学会専門医 28 名日本加凌学会専門医 3 名日本部保証学会専門医 3 名日本部保証学会専門医 3 名日本部保証学会専門医 3 名日本部保証等会専門医 3 名日本が能等になく経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる地域医療・方でおり、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる地域医療・対応設日本研験等会認定施設日本研験等会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器等中医研修施設日本研究等学会設定施設日本研究等学会認定施設日本研究等学会認定施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究等学会教育施設日本研究を記述した。		院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養
同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患 群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や 病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふ くめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも 全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退 院(初診・入院・退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養 環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医 29名 日本消化器病学会専門医 2名、日本内科学会総合内科専門医 29名 日本消化器病学会専門医 2名、日本内科学会総合内科専門医 29名 日本消化器病学会専門医 2名、日本血液学会車門医 10名、日本経経学会専門医 10名、日本経経学会専門医 2名、日本肝臓学会門医 10名、日本アレルド・経験・行りて多なの事門医 2名、日本臨床腫瘍学会専門医 3名 日本アレルギな疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できるとができます。 24.700名(2024年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できるとができます。 24.700名(2024年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 25.世界疾患を受験できるから 幅広く経験することができます。 26.世界疾患が定め、病療・疾患が病療・技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。 26.世界疾患を受験を表現できると対策を表現を表現して、対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和 アや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できるます。 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定に配設 日本循環器学会認定施設 日本循環器学会認定施設 日本循環器学会認定施設 日本循環器学会認定施設 日本循環等会認定加液研修施設 日本リウマチ学会教育施設		環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。医を目指します。
が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を洒養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診〉入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医 29名日本消化器病学会消化器専門医 10名、日本内科学会経合内科専門医 29名日本消化器病学会専門医 2名、日本腎臓学会専門医 10名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 10名、日本神経学会専門医 2名、日本肝臓学会専門医 10名、日本神経学会神経内科専門医 5名、日本川臓学会専門医 10名、日本神経学会専門医 2名、日本肝臓学会専門医 1名、日本アレルギー学会専門医 2名、日本肝臓学会専門医 1名、日本アレルギー学会専門医 2名、日本肝臓学会専門医 3名日本流化器内視鏡学会専門医 9名、日本脂味腫瘍学会専門医 3名日本感染症学会専門医数 1名 「外来・入院患者数 外来患者 560,003名 新入院患者 24,700名(2024年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる地域医療・診療連携 日本内科学会認定を制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本の研修施設日本順栄等会認定施設日本順栄等会認定施設日本の研修施設日本順栄等会認定施設日本の研修施設日本順栄等会認定施設日本の研修を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を		内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると
群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院〜退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会計理医 46 名、日本循環器学会循環器専門医 29 名、日本精尿病学会専門医 20 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本神経学会神吸器専門医 5 名、日本川炭学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本川炭学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本の人の大学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本水化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 9 名、日本麻藤学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 を持たいてきます。 を特別を療力である。大術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 と特別を療力である。大術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 日本内科学会認定を制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本研修施設日本学会認定施設日本研修施設日本学会認定施設日本研修施設日本学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学院を施設日本の学会の学院を検討を表しませばないませばなどの表しませばないませばないませばないませばないませばないませばないませばないませばない		同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性
群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院〜退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会計理医 46 名、日本循環器学会循環器専門医 29 名、日本精尿病学会専門医 20 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本神経学会神吸器専門医 5 名、日本川炭学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 5 名、日本川炭学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本の人の大学会専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本水化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 9 名、日本麻藤学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 を持たいてきます。 を特別を療力である。大術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 と特別を療力である。大術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 日本内科学会認定を制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本呼吸器学会認定施設日本研修施設日本研修施設日本学会認定施設日本研修施設日本学会認定施設日本研修施設日本学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会認定を研修施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学会の学院を施設日本の学院を施設日本の学会の学院を検討を表しませばないませばなどの表しませばないませばないませばないませばないませばないませばないませばないませばない		が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患
病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導をによる指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院(初診・入院〜退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名日本消化器病学会溥門医 10 名、日本福環器学会循環器専門医 22 名、日本無限病学会専門医 10 名、日本福環器学会専門医 10 名、日本平吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本平レルギー学会専門医 2 名、日本・財学会・財医・1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名日本部に基内視鏡学会専門医 9 名日本部に基内視鏡学会専門医 9 名日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本際染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名 (2024 年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 き性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できるが適解などの対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器学会認定 22 22 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 2 2 2 3 2 2 2 2 3 2 2 2 2 3 2 2 2 3 2 2 2 3 2 2 3 2 2 3 2 3 2 2 3 2 3		
て、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医「たります。日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本排尿病学会専門医 5 名、日本本師及学会血液専門医 6 名、日本年経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 10 名、日本部と学会専門医 9 名、日本本リンレギー学会専門医 9 名、日本財産学会専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本協康腫瘍学会専門医 10 名、日本が北部の神経学会専門医 9 名、日本財産が表専門医 3 名日本が北部の視鏡学会専門医 9 名、日本協康を計画を引しる、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本協康を計画を引しる、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本協康を計画を引しる、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本協康・学会専門医 3 名日本協康・学会専門医 5 60,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広(経験することができます。 技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広(経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる地域医療・できます。 日本内科学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本の経験を設定由液研修施設日本の機等会認定施設日本の機等会認定施設日本の機等を設定した。		
くめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも 全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院・退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 46名、日本内科学会総合内科専門医 29名 日本消化器病学会消化器専門医 10名、日本循環器学会循環器専門医 22名、日本糖尿病学会専門医 2名、日本解験学会専門医 10名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名、日本山液学会血液専門医 65名、日本神経学会神経内科専門医 5名、日本川で学会専門医 1名、日本アレルギー学会専門医 9名、日本肝臓学会肝臓専門医 10名、日本海が出来の視鏡学会専門医 9名、日本臨床腫瘍学会専門医 3名日本感染症学会専門医数 1名 外来・入院患者数 外来患者 560,003名 新入院患者 24,700名(2024年度実績)きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 接触できる疾患群 経験できる技術・技能 接触できるとができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器等会認定施設日本衛環器学会認定施設日本衛環器学会認定施設日本衛環路学会認定施設日本衛環路学会認定施設日本腎臓学会研修施設日本腎臓学会研修施設日本腎臓学会研修施設日本野職学会研修施設日本野職学会研修施設日本門職会		
全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器専門医 22 名、日本職床病学会専門医 2名、日本腎臓学会専門医 10 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本肝臓学会専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本肝臓学会専門医 10 名、日本流化器内視鏡学会専門医 9 名、日本監床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本監体腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 接験できる地域医療・診療連携 を決していていてきます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定施設日本体療学会認定施設日本体療学会認定施設日本の選挙会認定施設日本の選挙会認定施設日本の選挙会認定施設日本に対応した医療も行っており、また福祉を設などの関連を設とも経験できます。 日本内科学会認定を施設日本の経験できます。日本内科学会認定施設日本の経験できます。日本内科学会認定施設日本の経験できます。日本内科学会認定施設日本の経費会認定施設日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験できます。日本の経験を表しているの表しているのと表しているのものものものものものものものものものものものものものものものものものものも		
院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本解尿病学会専門医 2 名、日本下臓学会専門医 10 名、日本補環器学会で吸器専門医 5 名、日本加沙学会連門医 10 名、日本呼吸器学会呼吸器再門医 5 名、日本加沙学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 9 名、日本加沙マチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本脇床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名 (2024 年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 会性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定施設日本循環器等学会認定施設日本循環器学会認定施設日本所職器学会認定施設日本所職等会研修施設日本呼吸器学会認定施設日本配談等会認定施設日本配談等会認定施設日本配談等会認定施設日本所職等会研修施設日本可以等等会教育施設日本可以等等会教育施設		
環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 日本内科学会指導医46名、日本内科学会総合内科専門医29名 日本消化器病学会専門医2名、日本腎臓学会専門医10名、日本循環器学会循環器専門医22名、日本糖尿病学会専門医2名、日本不腎臓学会専門医10名、日本神経学会呼吸器専門医5名、日本山交学会血液専門医名5名、日本神経学会神経内科専門医5名、日本リウマチ学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医2名、日本肝臓学会肝臓専門医10名、日本消化器内視鏡学会専門医9名、日本臨床腫瘍学会専門医3名日本感染症学会専門医数1名外来・入院患者数外来患者560,003名新入院患者24,700名(2024年度実績) を験できる疾患群 を験できる疾患群にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 を験できる地域医療・診療連携・2に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定循環器専門医研修施設日本阿吸器学会認定施設日本循環器等会認定施設日本原吸器学会認定施設日本質、病野・病病連携などもを験できます。		
日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 10 名、日本華尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 10 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) を験できる疾患群 岩りのできます。 経験できる疾患群 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 接験できる地域医療・診療連携 会職を持つており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定循環器専門医研修施設日本血液学会認定循環器専門医研修施設日本可参議学会認定循環器等の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表		
日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 10 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医名 5 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本ルンレギー学会専門医 2 名、日本川崎学会肝臓専門医 10 名、日本パと器内視鏡学会専門医 9 名、日本協床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 経験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 経験できる地域医療・ 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本の液学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本門を研修施設日本門で施設日本門を研修施設日本門で発会教育施設		
日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 10 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本中吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 接験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 全験できる地域医療・診療連携 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器等会認定施設日本循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本所談告も表別できます。 「日本月科学会認定施設日本所の場合に表現している。」 「日本月科学会認定を制度教育病院日本月化器病学会認定施設日本所で表現できます。日本内科学会認定施設日本所できる。日本所で表現である。日本所で表現である。日本所で表現である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別である。日本の表別できまり、日本の表別である。日本の表別では、日本の表別である。日本の表別では、日本の表別である。日本の表別である。日本の表別では、日本の表別では、ままりの表別では、日本の表別では、ままりのは、日本の表別では、ままりのは、日本の表別では、日本の		
指導医数 (常勤医) 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) 経験できる疾患群 経験できる疾患群 経験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる地域医療・ 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本産職学会認定施設日本産産業専門医研修施設日本産産業専門医研修施設日本産産業専門医研修施設日本産産業・関係を設定を表していて、研修・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・		
日本神経学会神経内科専門医5名、日本リウマチ学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医2名、日本肝臓学会肝臓専門医10名、日本消化器内視鏡学会専門医9名、日本臨床腫瘍学会専門医3名日本感染症学会専門医数1名 外来・入院患者数 外来患者560,003名新入院患者24,700名(2024年度実績) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広(経験することができます。 経験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広(経験することができます。 経験できる地域医療・診療連携 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設日本の影学会認定施設日本の影学会認定施設日本の影学会認定施設日本の影学会認定施設日本の影学会認定施設日本の影響学会認定施設日本の影響学会認定施設日本の影響学会認定施設日本の影響学会認定施設日本の影響学会認定施設日本の影響学会認定施設日本の影響学会認定施設日本の影響学会認定が修施設日本の影響学会認定が変形を施設日本の影響学会認定が変形を施設日本の影響学会認定が変形を施設日本の影響学会認定が変形を施設日本の影響学会教育施設		
日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 接験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本所談等会認定施設日本所談等会認定施設日本所談等会認定施設日本所談等会認定施設日本所談等会認定施設日本所談等会認定施設日本所談等会認定施設日本所談等会認定が施設日本門と研修施設日本門と研修施設日本門と研修施設日本門と研修施設日本門と研修施設日本門でデータ教育施設	指導医数	
日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) を験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 接験できる技術・技能 経験できる技術・技能 経験できる地域医療・ 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器等会認定施設日本循環器等会認定施設日本可吸器学会認定施設日本可吸器学会認定施設日本可吸器学会認定施設日本可吸器学会認定施設日本可以表明を施設日本可以表明を表明を表明と明確によります。 「内科系」 「内科系」 「内科系」 「中央報告、表記を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	(常勤医)	日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、
日本感染症学会専門医数 1 名 外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) を験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 接験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 を判医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本所受務学会認定施設日本所受務学会認定施設日本所受務学会認定施設日本所受務学会認定施設日本所の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表		日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、
外来・入院患者数 外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。 接験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広〈経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器学会認定施設日本面液学会認定施設日本工作、程序、表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表		日本消化器内視鏡学会専門医9名、日本臨床腫瘍学会専門医3名
経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 接験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設日本四級学会認定施設日本四級学会認定施設日本可能完成。 日本の科学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本可能完成。		日本感染症学会専門医数 1 名
経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 接験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本門職学会研修施設日本門職学会研修施設日本門でチ会教育施設	外来•入院患者数	外来患者 560,003 名 新入院患者 24,700 名(2024 年度実績)
経験できる疾患群 幅広〈経験することができます。		
接験できる技術・技能 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 ②性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設日本循環器学会認定施設日本循環器専門医研修施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本呼吸器学会認定施設日本所被学会認定施設日本所被学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受器学会認定施設日本可受会教育施設	経験できる疾患群	
経験できる技術・技能 幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本山液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設		
経験できる地域医療・ 診療連携 急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定施設 日本血液学会認定施設 日本山液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設	経験できる技術・技能	
経験できる地域医療・		
経験できます。 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 学会認定施設 (内科系) 日本血液学会認定施設 日本角液学会認定施設 日本角液学会認定施設 日本角液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設		
日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 学会認定施設 (内科系) 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設		
日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 学会認定施設 (内科系) 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設		
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 (内科系) 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設		
学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 (内科系) 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設		
(内科系) 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設		, the training of the training
日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設		
日本リウマチ学会教育施設		
		日本腎臓学会研修施設
日本诱析医学会専門医制度認定施設		日本リウマチ学会教育施設
中午後77年1五寸11年中7人10人16以		日本透析医学会専門医制度認定施設

日本神経学会教育関連施設
日本救急医学会救急科専門医認定施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本病態栄養学会認定施設
日本急性血液浄化学会認定施設
日本アフェレシス学会認定施設
日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院
日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本認知症学会教育施設認定
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会認定指導施設
日本消化管学会胃腸科指導施設

昭和医科大学藤が丘病院

昭和医科大学藤が丘郷	MADE
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ハラスメントについても人権啓発推進委員会が昭和大学に整備されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	·内科専門研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に 設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理·医療安全·感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます。 ·CPC を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	井上 嘉彦 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は 8 つの附属病院及び 1 施設を有し、神奈川県・東京都を中心に近隣医療 圏の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	内科指導医 39 名 総合内科専門医 32 名
外来•入院患者数	外来: 947.1 人 入院: 477.4 人 (2024 年度一日平均患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、J-OSLER(疾患群項目表)にある 13 領域,70 疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設認定 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設 日本甲状腺学会専門医制度における認定専門医施設 日本第尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本力プセル内視鏡学会指導施設 日本アレルギー学会教育施設 日本アレルギー学会教育施設 日本アレルギー学会教育施設

日本透析医学会専門医制度認定施設
日本アフェレーシス学会認定施設
日本リウマチ学会教育施設
日本超音波医学会専門医研修施設
日本認知症学会認定専門医教育施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本血液学会認定専門研修施設
日本輸血·細胞治療学会指定施設認定

昭和医科大学横浜市北部病院

昭和医科大子傾浜巾	ic applying
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度期間型研修指定病院 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・労働環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・人権啓発・ハラスメントに対して、昭和医科大学に整備されている。 ・休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が13名在籍している(2024年5月1日). ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る. ・医療倫理・医療安全・感染対策等の講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けている. ・CPCを毎月に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための業務調整を行う. ・研修施設群あるいは地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に出席を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数の診療を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を指導し、行っている.
指導責任者	緒方 浩顕(内科研修プログラム 統括責任者) 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は東京都・神奈川県内に 8 つの附属病院及び 1 施設を有し、それらの病院が連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは 臨床研修修了後に大学各附属病院および連携施設の内科系診療科が連携して、質の高い内科医を育成することを目的としたものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、最良で最先端のチーム医療を担うことが出来る医師を育成することを目的としています。是非 このような研修環境を利用し 自らのキャリア形成の一助としてほしいと思います
指導医数 (常勤医)	指導医数(常勤医) 日本内科学会認定内科医 40 名、日本内科学会専門医 33 名、 日本内科学会総合内科専門医 29 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本消化器病学会消化器専門医 23 名、 日本腎臓病学会専門医 9 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医(内科)1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 2 名、 日本用状腺学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 22 名、日本肝臓病学会専門医 6 名、 日本透析医学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名、日本感染症学会専門医 1 名、 日本アフェレシス学会認定専門医 1 名
	外来: 1,150.3 人、入院: 592.7 人 (2024 年度 一日平均患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 11 領域, 59 疾患群の症例 を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会 認定施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設

日本アレルギー学会 認定教育施設
日本アフェレシス学会 認定施設
日本消化器病学会 認定施設
日本消化器内視鏡学会 専門医制度指導施設
日本心血管インターベンション学会 研修施設
日本循環器学会 循環器専門医研修施設
日本神経学会 専門医制度教育施設
日本腎臓学会 研修施設
日本透析医学会 専門医制度認定施設
日本臨床腫瘍学会 研修施設
日本がん治療認定医機構 認定研修施設
日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練
認定教育施設
日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設
日本緩和医療学会 認定研修施設
日本内分泌外科学会·日本甲状腺外科学会 専門医制度認定施設

日本高血圧学会認定施設 など

61

社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院

社会医療法人則也	石心会 川崎幸病院
認定基準	・院内にはインターネット環境が整備され、医療文献等データベース(UpToDate をはじめとした複数サー
整備基準 24】	ビスあり)が使用可能です. 図書室も 24 時間使用可能です.
1) 専攻医の環境	・常勤産業医も委員に含む衛生委員会によりメンタルヘルスや労働環境が常に適正化されています.ま た各種ハラスメント対策も講じられています.
	・女性専攻医が安心して勤務可能な休憩室,更衣室,仮眠室,当直室などが完備しています.
	・24 時間保育所が完備されています.
認定基準	· 指導医は 11 名在籍しています.
整備基準 24】	研修委員会が設置され院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理
2)専門研修プログラ	委員会と連携を図ります. - 医療安全, 感染対策, 医療倫理講習会を定期的に開催し受講する義務があります. また受講のために
ムの環境	
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	す。
	・ ・地域参加型カンファレンスを参画し, 専攻医は出席が義務化されており, そのための時間的余裕が与え
	られます.
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な
整備基準 24】	症例数を診療しています.専門研修に必要な剖検(2022 年度 7 件,2023 年度 9 件,2024 年度 4 件)を行っ
3)診療経験の環境	ています.
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会において年複数回学会発表を行っています.
整備基準 24】	倫理委員会を設置し,定期的に開催(年2回)しています.
4)学術活動の環境	
指導責任者	小向 大輔
	【内科専攻医へのメッセージ】
	現在内科系診療科は腎臓内科,循環器内科,消化器内科の3科が中心で構成されています.腎臓内科は透析導入数が年70名前後と多く川崎地区の腎不全地域医療を支えています.腹膜透析導入数も県下屈指です.また循環器内科は従来から積極的に行なわれてきたPCI,アブレーション治療に加え,最近はTAVI,経カテーテル左心耳閉鎖術の施行数も増加しています.消化器内科も内視鏡のスキルが高く,内視鏡検査は年15,000件以上,内視鏡治療は2,000件以上行われています.そして「断らない医療」の名のもと,当院は救急関連の症例が豊富です.以上,皆さんの期待に沿える充実した研修が可能だと私たちは信じています.
七道医 粉	日本内科学会指導医名 10 名, 日本内科学会総合内科専門医 10 名,
指導医数 (常勤医)	日本内科子云指导医右 10 右,日本内科子云総合内科导门医 10 右, 日本消化器病学会消化器専門医 6 名,日本消化器内視鏡学会専門医 5 名
市到区 <i> </i> 	口本用化舔病子去用化舔等门医 0 名,口本用化舔内悦戴子去等门医 0 名 日本肝臓病学会専門医 1 名、
	口本肝臓病子云等
	日本感染症学会専門医・指導医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医1名
	日本救急医学会救急科専門医 3 名
外来•入院患者数	外来患者 2,251 名(1 カ月平均) 入院患者 1,031 名(1 カ月平均)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳にある 13 領域,70 疾患群の症例を経験することができます.特に循
	環器,消化器,腎臓,救急においては専門医の指導のもと非常に多くの症例を経験することが可能です.
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する
能	ことができます.
経験できる地域医	急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経験できます.特
療∙診療連携	に循環器,消化器.腎臓.救急においては高度な急性期医療を経験し,地域での病診・病病連携の中核とな
	っています.
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連施設
内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
	日本カプセル内視鏡学会認定指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本大腸肛門病学会認定施設
	日本胆道学会認定指導医制度指導施設
	日本腎臓学会専門医制度認定施設
	日本透析医学会認定施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
	植込み型除細動器/ペーシングによる心不全治療認定施設
	日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設
	IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
	経力テーテル的大動脈弁置換術指導施設
	日本脈管学会認定研修指定施設
	部救急認定医·教育医制度認定施設
	左心耳閉鎖システム実施施設
	日本超音波医学会専門医制度研修施設
	日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設

独立行政法人国立病院	饿快 怕快凉冽炕
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	労働基準法、医療法を順守する。 基幹施設及び連携施設の就業環境(添付資料参照)に基づき、就業する。 国立病院機構相模原病院の整備状況: ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。 ・メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する窓口がある。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。 総括評価の際に専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価を行う。内容はプログラム管理委員会に報告され、適切な改善を基幹および連携施設に対して助言できるように図る。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・内科指導医が 212 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している(2020 年度実績医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 4 回、2024 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病、血液内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。 感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表 (2024 年度実績 1 演題)をしている。
指導責任者	森田 有紀子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、相模原地域の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える 一方で、免疫異常(リウマチ、アレルギー)の我が国の基幹施設として臨床研究センターを 併設した高度専門施設としての役割が期待されています。 それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑚を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医 の育成に努めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医(内科)8 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本血液内科学会 1 名、 日本内分泌学会1名、日本糖尿病学会1名、日本腎臓内科学会1名 ほか
外来·入院患者数	外来患者 6299.7 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした 医療、病診・病病連携など
診療連携	も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定應設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液内科学会認定教育施設

市立大町総合病院

- 中立人可総合病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN, Wi-Fi)があります。 ・当院専攻医として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として衛生委員会で設置されています。
	衛生委員会は産業医および看護師等で構成されており、いつでも声掛けできる体制が整っています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
	・敷地内に託児所、病児保育室があり、利用可能です。
	・指導医は1名在籍しています(下記)。
認定基準	・専門研修プログラム委員会にて、基幹施設との連携を図ります。
【整備基準 24】	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催
2)専攻医の環境	(2024 年実績 医療倫理 5 回, 医療安全 2 回, 感染対策 2 回)しています。 ・CPC を定期的に開催(2024 年実績 1 回)しています。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち一部分野で定常的に専門研修が可能な症例
【整備基準 24】	数を診療しています。
3)診療経験の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
【整備基準 24】	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学 会発表にも取り組める環境があります。
指導責任者	金子一明
	日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名
指導医数	日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名
(常勤医)	日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本アレルギー学会アレルギー専門医2名
	日本リウマチ学会リウマチ専門医1名、日本感染症学会専門医1名、ほか
外来•入院患者数	外来患者 2,565 名(1ヶ月平均) 入院患者 135 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例 を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
	日本内科学会認定医制度教育関連病院
	日本内科学会 教育病院
	日本救急医学会 救急科指定施設
	日本消化器病学会 認定施設
学会認定施設(内科 系)	日本循環器学会 研修施設
	日本呼吸器学会 認定施設
	日本血液学会 研修施設
	日本糖尿病学会 認定教育施設
	日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設(関連施設)
	日本消化器病学会関連施設
	日本東洋医学会指定研修施設(教育関連施設)
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 北アルプス家庭医療プログラム など

諏訪中央病院

諏訪中	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・医師臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・組合立諏訪中央病院の会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務人事課庶務係)があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・医師臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・組合立諏訪中央病院の会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務人事課庶務係)があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度 8 体、2024 年度 5 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置/開催しています。 ・臨床研修・研究センターを設置して研究に関するとりまとめを行っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	若林 禎正 【内科専攻医へのメッセージ】 患者のどのような訴えにも耳を傾け、その原因となる疾患を明らかにし、専門治療が必要 な場合には迅速に専門医へ紹介する能力を養います。先進医療だけではなく、回復期リハ ビリ病棟でのケアや慢性疾患に対する外来診療、通院ができない場合には訪問診療・往診 をし、シームレスで患者や家族の生活に寄り添う医療を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本感染症学会感染症専門医 2 名
外来•入院患者数	外来患者 17,040 名(全科 1ヶ月平均)(令和 5 年度実績) 入院患者 575 名(全科 1ヶ月平均)(令和 5 年度実績)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設

日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療専門研修プログラム施設
日本東洋医学会研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本静脈経腸栄養学会·NST稼動施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化器病学会関連施設
日本在宅医学会認定在宅医療研修プログラム施設
日本腎臓学会認定研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本リウマチ学会教育施設
日本感染症学会認定研修施設
日本臨床神経生理学会準教育施設 他

松波総合病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN, Wi-Fi)があります。 ・松波総合病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 仮眠室, 更衣室, 当直室が整備されています。 ・敷地内に 24 時間対応院内託児所があり, 利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	 ・指導医は33名在籍しています(下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年実績 医療倫理2回,医療安全2回,感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年実績12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記) ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境	 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	田上 真 【内科専攻医へのメッセージ】 松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	内科学会指導医 33 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名日本消化器内視鏡学会専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 6 名、日本内分泌学会専門医 7 名 日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会専門医 4 名 他
[2022 年度]	総入院患者数(実数)9,885 名、総外来患者数(実数)177,322 名
経瞄できん作用斑	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を 幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
	急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

	日本内科学会 教育病院
	日本救急医学会 救急科指定施設
	日本消化器病学会 認定施設
	日本循環器学会 研修施設
	日本血液学会 研修施設
	日本糖尿病学会 認定教育施設
	日本腎臓学会 研修施設
学会認定施設	日本肝臓学会 認定施設
(内科系)	日本臨床腫瘍学会 研修施設
	日本消化器内視鏡学会 指導施設
	日本呼吸器内視鏡学会 認定施設
	日本新血管インターベンション治療学会 研修施設
	日本不整脈学会 日本心電図学回認定 不整脈専門医研修施設
	日本がん治療認定医機構 認定研修施設
	日本透析医学会 認定施設
	日本高血圧学会 認定施設 他

伊東市民病院

伊果市民病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境(有線・Wi-Fi)があります. ・伊東市民病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(労働安全衛生委員会)及びハラスメンと委員会があり産業医及び認定心理士が相談窓口となっております。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,温泉大浴場,当直室が整備されています. ・敷地内に24時間対応の院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	指導医が5名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 度実績、医療安全2回(各複数回開催), 感染対策2回(各複数回開催))し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・医療倫理講習会については、地域医療振興協会研修センターでの受講又はeラーニングシステムを利用した受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPCを定期的に開催(2024 年度実績6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・地域参加型のカンファレンス(2024 年度実績年6回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。のうち、7つの分野(総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 7 つの分野(総合内科, 消化器, 循環器、神経、膠原病、感染症、救急)の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2024 年度実績 2 演題)を行っております。
指導責任者	川合 耕治 【内科専攻医へのメッセージ】 伊東市民病院は救急医療の充実とそれを支える各診療機能の連携を通して、伊東市ならびに伊豆東海岸の急性期医療を担う病院として機能を高めてきました。更に地域医療振興協会関連の6診療所、1病院と連携して伊豆半島の包括的医療について関わりたいと努力しております。 臨床研修ではそういった背景の中で総合的・実践的な診療の力を身につけたい方のための研修プログラムを実施して、地域医療で活躍できる人材の育成に力を注いでいます。 内科は現在循環器内科と消化器内科が独立していますが、呼吸器内科、リウマチ内科、神経内科、内分泌内科を含め、総合内科として包括的な診療を基本としております。 救急診療は年間5,742件、救急車搬入件数年間4,470件、CPA受入数年間138件と、所謂"2.5次医療機関"として多種多様な疾患に対応しています。CPCを隔月で開催し、多職種を交えた総合カンファレンス、臨床検討会・勉強会を実施しています。スローガンは『みんなを元気にしたい』です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名, 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名(うち 1 名は外科) 日本循環器学会循環器専門医 1 名, 日本神経学会専門医1名 日本アレルギー学会専門医1名 日本リウマチ学会専門医 2 名, (うち 1 名は整形外科)ほか
	外来患者 34,446 人/年 入院患者 38,674 人/年 (2024 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会関連病院 日本リウマチ学会教育施設

静岡県立静岡がんセンター

肝岡宗立肝岡かんでク	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	 ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・常勤医として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ハラスメント相談窓口を設置している。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が6名在籍している。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催(2022 年度実績: 医療安全 10 テーマ2回、感染対策2回)し、専攻医に講習会の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。医療倫理講習会は基幹施設で行う講習会の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的に開催(2022 年実績3回)し、専攻医に当院又は基幹施設もしくは日本内科学会が行うCPCの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・地域参加型のカンファレンスを毎月開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器の分野を中心に定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室等を整備している。 倫理委員会を設置し、定期的に開催(月1回)している。 臨床研究支援センター 治験管理室を設置し、受託研究審査会を開催している。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしている。
指導責任者	副院長 高橋 利明 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡県立静岡がんセンターは、全床 615 床、都道府県がん診療拠点病院、特定機能病院の資格を有するがんの高度医療機関です。 経験できる疾患群は、13 領域のうち、がん専門病院として 11 領域 49 疾患群の症例を経験することができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医6名 日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名 日本消化器内視鏡学会専門医 13 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医9名 日本血液学会血液専門医8名 日本感染症学会感染症専門医1名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 10 名 ほか (2024.4 現在)
外来•入院患者数	外来延べ患者 327,097 名(2024 年度)、入院延べ患者 203,474 名(2024 年度)
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として主に5領域 27 疾患群の症例を、最大 11 領域 49 疾患 群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・ 診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携 なども経験できる。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本内分泌外科学会専門医制度関連施設	笙
	~

在宏福征法人望球福祉	:事業団 総合病院聖隷浜松病院
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・聖隷浜松病院医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署(聖隷福祉事業団本部に委員会)があります。 ・ハラスメントに関する相談・苦情受付体制は聖隷福祉事業団本部に事務局,施設に担当窓口が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・隣接敷地外に院内保育園があり、利用可能です. ・指導医 49 が名在籍しています(下記). ・内科専門研修プログラム管理委員会[統括責任者(副院長・循環器科診療部長),プログラム管理者(総合診療内科主任医長)(ともに指導医);基幹施設、連携施設に設置されている研修管理委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会を設置し、設置済の人材育成センターとともに、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度開催実績 1 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度開催実績 1 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、日本救急医学会認定 ICLS コース、AHA 認定ACLS コースなども受講可能です。・日本専門医機構による施設実地調査に人材育成センターが対応します。・特別連携施設の浜松市国民健康保険佐久間病院での専門研修では、メールや電話で指導医がその施設での研修指導を行います。特別連携施設の坂の上ファミリークリニック/坂の上在宅医療支援医院での専門研修では、電話や 2 週 1 回程度で聖隷浜松病院での面談や基幹施設でのカンファレンスへの参加などにより指導医がその施設での研修指導を行
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	います. ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記). ・70 疾患群のほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)を研修できます(上記). ・専門研修に必要な剖検(2022 年 9 体, 2023 年 12 体, 2024 年 13 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境(電子ジャーナル)などを整備しています。 ・学術広報室・フォトセンターがあり、学会ポスター作成の支援が受けられます。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 2 回)しています。 ・臨床研究管理センターを設置し、定期的に臨床研究審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会(2021 年度実績 6 演題)ならびにサブスペシャルティ学会での学会発表を含めると年間計 10 演題以上行っています。 浜松医科大学社会人大学院に入学が可能であり、研究活動を行うことができます。
指導責任者	杉浦 亮(循環器科部長) 【内科専攻医へのメッセージ】 聖隷浜松病院は、急性期病院として、高度な先進医療を提供するとともに、豊富な症例や 指導者により、多く人材の育成を行っています。また地域の病院や開業医と病病・病診連携 を行い、さらに聖隷三方原病院という系列病院や遠州病院いう地域の拠点病院と連携する ことで、地域医療の充実を図っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に地域の医 療機関が連携し、内科専門医を育成するものです。聖隷浜松病院の理念である患者本位の 医療サービスを学び、安全な医療や高度医療に触れることで、単に内科専門医を養成する

	だけでなく、より質の高い医療を提供できる内科医の育成を図ります.さらに、多くのサブス
	ペシャルティの指導医と学ぶことで、内科専門医からサブスペシャルティ専門医への経験を
	積むことができます. 先進的な医学に触れ, 医学の進歩に貢献し, 日本の医療を担える医
	師を育成することを目的とするものです。
	日本内科学会指導医 49 名,日本内科学会総合内科専門医 31 名
	日本消化器病学会消化器病専門医 10 名,日本消化器病学会指導医 2 名
	日本循環器学会循環器専門医 10 名,
	日本呼吸器学会呼吸器専門医8名,日本呼吸器学会指導医4名
	日本血液学会血液専門医 3 名,日本血液学会指導医 2 名,
	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医2名,日本内分泌学会指導医1名
指導医数	日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名,日本糖尿病学会研修指導医 1 名
(常勤医)	日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名,日本腎臓病学会指導医 2 名,
	日本肝臓学会肝臓専門医 4 名,日本肝臓学会指導医 1 名,
	日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)2名,
	日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本神経学会指導医 3 名,
	日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名, 日本リウマチ学会指導医 1 名,
	その他:(日本救急医学会救急科専門医,日本リハビリテーション医学会リハビリテーション
	科専門医など幅広く在籍しています.)
外来•入院患者数	外来患者 2,682 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,733 名(1ヶ月平均)
クダーナスナ 中平	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
経験できる疾患群	経験することができます.
4= FA - 1 = 11 4 = 11 4 1	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
経験できる技術・技能	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
10 MAZ 103	日本内科学会認定医制度認定教育病院
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
	口本吁吸給于去認定/// 日本神経学会認定医教育施設
	日本仲柱子去認定医教育應該 日本血液学会認定研修施設
	1 12 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	日本リウマチ学会教育施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本内分泌学会認定教育施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本アレルギー学会準教育施設
** A =7 - 16 = 0	日本救急医学会救急科専門医指定施設
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
	日本心血管インターベンション学会認定研修施設
	経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
	日本高血圧学会専門医認定施設
	不整脈専門医研修施設
	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院
	日本てんかん学会認定研修施設
	日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
	日本甲状腺学会認定専門医施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設
	日本栄養療法推進協議会認定 NST(栄養サポートチーム)稼動施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

日本緩和医療学会認定研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本臨床薬理学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST(栄養サポートチーム)稼動施設
日本開脈性協衆後子会 NST(未後サポード) 一公/稼動施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など

社会医療法人宏潤会 大同病院

社会医療法人宏潤会 大同病院	
	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	·社会医療法人宏潤会常勤医師または非常勤医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。
	・ハラスメントに適切に対処する部署があります。
	·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	·敷地に隣接し院内保育所(「大同保育所おひさま」)があり、入所対象は職員(パートタイム職
	員を含む)の子で、延長保育、夜間保育、病児・病後児保育にも利用可能です。
	・指導医は22名在籍しています。
	・飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会委員(副院長、腎臓内科部長,総合内科専門
	医かつ指導医)は、大同病院院内に設置されている飯塚病院内科専門研修委員会委員長を
	兼務しており、基幹施設、連携施設との連携を図ります。
	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後研修支
	援センターを設置しています。
	・医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に年度2回の受講
	を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024年度実績 医療倫理2回、医療安全
	2回、感染対策2回)
	·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。
2)専門研修プログラムの	·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(開
環境	催実績: 2024 年度 9 回)
	・ ・ ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。(基幹施設開催実績:例年 20 回前後開催 病診連携の会,消防合同カン
	ファレンス, 感染症症例検討会, 専攻医セミナー症例検討 など)
	·全内科専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(基本毎年度
	1 回開催 開催実績:2015~2024 年度受講者合計 55 名)
	·日本専門医機構によるサイトビジット(施設実地調査)に大同病院卒後臨床研修支援センタ
	一が対応します。
	·大同病院の外来診療部門であるだいどうクリニックでは、大同病院での研修時の外来研修を
	行い、外来から入院への一連の診療の流れに沿った研修が可能となるよう研修指導を行い
	ます。
	・志望する Subspecialty にかかわらず、内科各科のローテーション研修を可能としています。
	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を
	診療しています。
3)診療経験の環境	·70 疾患群のうちほぼ全疾患群(最少でも 56 以上の疾患群)について研修できます。
	・専門研修に必要な内科剖検(2022 年度実績 15 体、2023 年度 9 体、2024 年度 14 体)があり
	ます。
	教育活動
	・初期臨床研修医や医学部学生の指導には、専攻医必須の役割として関わります。
	・後輩専攻医の指導機会があります。
	・メディカルスタッフへの指導機会があります。
	学術活動
4)学術活動の環境	・内科系の学術集会や企画(日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講
	演会、および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会等)に年 2 回以上参加す
	るための参加費補助があります。
	・筆頭演者または筆頭著者として、3年間で2件以上の学会発表あるいは論文発表を行うた
	め、内科系の学術集会や企画への参加費補助があります。
	・症例報告作成や基礎研究を行うために必要な図書室を整備しています。
	・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023年度実績12回)しています。
	・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度実績 12 回)しています。

指導責任者	志水 英明
	【内科専攻医へのメッセージ】
	大同病院は、名古屋市南部から知多半島北部医療圏の中心的な急性期病院です。中規
	模病院であるが故に、内科系の各領域間に垣根はなく、横断的な研修が可能です。また内科
	13 領域のうち、12 領域で専門医が存在し幅広い研修が可能です。
	院内では各科のカンファレンスや各種セミナー・勉強会を頻回に開催しており、さらに多職種
	合同カンファランスなども実施しています。大同病院における研修では、各科ローテンション中
	にそのローテーション科以外の科や総合内科の患者を同時に主担当する事が可能です。ま
	た週に1日「サブスペ研修日」を設ける事が可能で、general な研修を行いながらも
	subspecial な研修を並行して行う事ができます。
	大同病院での研修では、多様な形態の内科診療を通して必要に応じた可塑性のある、地域
	医療にも貢献できる内科専門研修を行います。主担当医として、入院から退院 (初診・入院~
	退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括
	する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
	日本内科学会指導医 22 名、総合内科専門医 17 名、消化器病専門医 5 名、
[15 sat - 15]	消化器内視鏡専門医4名、肝臓専門医2名、日本胆道学会指導医2名、
指導医数	日本膵臓学会指導医 2 名、循環器専門医 4 名、内分泌代謝科専門医 2 名、
(常勤医)	糖尿病専門医2名、腎臓専門医5名、呼吸器専門医4名、血液専門医1名、
	神経内科専門医3名、リウマチ専門医6名、感染症専門医1名、がん薬物療法専門医1名
	内科専門医 11 名
外来•入院患者数	(2024 年度)
[2023 年度]	内科系外来患者 2,606 名/月、(外来部門だいどうクリニック 7,015 名/月)、
	内科系入院患者実数 629 名/月
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
	経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
経験できる技術・技能	広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	
療連携	経験できます。
<i></i>	日本内科学会認定医制度教育病院
	日本神経学会専門医制度教育施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
	日本肝臓学会関連施設
	日本膵臓学会認定指導施設
	日本胆道学会認定指導施設
一类人包含于	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
学会認定施設	日本内分泌学会認定教育施設
(内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本透析医学会認定教育関連施設
	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本アレルギー学会認定教育施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 など

一宮西病院

一名四炳阮	
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です
認定基準 【整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります
	・メンタルストレスに適切に対処する部署があります
1)専攻医の環境	・ハラスメントを取り扱う委員会があります
7. 子久区以深光	・無料職員駐車場、更衣室、当直室が整備されています
	・提携した保育所があり、利用可能です
	・内科指導医は23名在籍しています。
	・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者;循環器内科副部長)、プログラム管理
認定基準	者(ともに総合内科専門医かつ指導医)が
【整備基準 24】	基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります
2)専門研修プログラム	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けます。
の環境	・CPC を定期的に開催し(2024 年度実績 6 回)、専攻医に受講を義務付けます。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に研修管理委員会が対応します。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野は、定常的に専門研修が可能な症例
【整備基準 24/31】	数を診療しています。
3)診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準	・倫理委員会を設置しています。
【整備基準 24】	・治験に適切に対応する部署(経営企画課)があります。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
	田中 伸享
	【内科専攻医へのメッセージ】
指導責任者 指導責任者	一宮西病院は、愛知県尾張西部医療圏の中心的な急性期病院であり、愛知県もしくは全
拍导貝缸伯	国各地にある連携施設と協力して研修を行ないます。主担当医として,入院から退院<初
	診・入院~退院・通院>まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調
	整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、
	日本消化器学会消化器病専門医 19 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、
指導医数	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 10 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、
(常勤医)	日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、
	日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、
	日本リウマチ学会リウマチ専門医2名、日本感染症学会感染症専門医2名
外来·入院患者数	来患者 1,075 名(1 日平均) 入院患者 759 名(1 日平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳にある 12 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験するこ
性級できる状態件	とが出来ます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
性寒くさる技術 技能	幅広く経験することが出来ます
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験出来ます
	日本消化器病学会認定施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会認定施設
学会認定施設 (内科系)	日本血液学会血液研修教育施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本神経学会教育施設
	日本頭痛学会 認定教育施設
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設

公立陶生病院、

公立阿王病院、	
記定基準 【整備基準 24】 を 1)専攻医の環境 ・	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・公立陶生病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課)があります。また、メンタルヘルスに関する相談窓口を設けています。産業医が在籍しています。 ・ハラスメントの相談窓口を設けハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に保育所があり利用可能です。病児保育も可能です
記定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境 ・	・指導医が31名在籍しています.(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図っています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023年度実績2回)しています。専攻医は受講が義務ですが、そのために時間的余裕を確保します. ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医は受講が義務ですが、そのための時間的余裕を確保します. ・CPCを定期的に開催(2023年度実績6回)し、専攻医は受講が義務ですが、そのための時間的余裕を確保します. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医は受講が義務ですが、そのための時間的余裕を確保します.
【整備具准74/31】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症 例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2023 年度実 績4演題)を行っています
	浅野博 【内科専攻医へのメッセージ】 公立陶生病院は、最重症の内科救急を最先端医療で対応しドクターへリ患者搬送の受け入れも行う3次救急病院であるとともに、慢性・難治性疾患にも対応し、がん診療拠点病院でもあります。内科における 13 領域すべての専門医と緩和ケア専従医が在籍し、豊富な症例数から、全領域において必要十分な内科専門医としての修練が可能です。代々培われた
5 C 7	屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に着けられます。 Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。 連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。
指導医数(常勤医)	屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に着けられます。Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。 日本内科学会指導医 31 名,日本内科学会総合内科専門医 30 名、日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科) 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名
指導医数(常勤医)	屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に着けられます。 Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。 連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。 日本内科学会指導医 31 名,日本内科学会総合内科専門医 30 名,日本消化器病学会消化器病専門医 6 名,日本循環器学会循環器専門医 6 名,日本腎臓学会専門医 4 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名,日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名,日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名,日本神経学会神経内科専門医 4 名,日本肝臓学会肝臓専門医 2 名,日本血液学会血液専門医 5 名,日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科) 2 名,
指導医数 (常勤医) (常勤医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群	屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に着けられます。Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。 日本内科学会指導医 31 名,日本内科学会総合内科専門医 30 名、日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 5 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本アレルギー専門医(内科) 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本教急医学会教急科専門医 3 名 外来患者 1595 名(1 日平均)、入院患者 521 名(1 日平均) きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
指導医数 (常勤医) (常勤医) 外来・入院患者数 経験できる疾患群 経験できる技術・技能	屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に着けられます。Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。 日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名、日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科) 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本教急医学会教急科専門医 3 名 外来患者 1595 名(1 日平均)、入院患者 521 名(1 日平均) きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験

診療連携	経験できます.
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本神経学会専門医制度教育施設
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本東洋医学会研修施設
	日本心血管インターベーション治療学会研修施設
	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
学会認定施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
(内科系)	日本腎臓学会研修施設
	日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本内分泌学会認定教育施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本認知症学会専門医制度認定教育施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本カプセル内視鏡学会指導施設
	日本膵臓学会指導施設

三重県立志摩病院

二里県立芯摩病院	
認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・県立病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当、外部カウンセラー)があります。 ・ハラスメント委員会が県立志摩病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラ ムの環境	・指導医が3名在籍しています。 ・研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 医療倫理 1回(複数回開催)、医療安全2回(各複数回開催)、感染対策2回(各複数回開催)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2024年度実績1 演題)を予定しています。
指導責任者	堀井 学 (内科専攻医へのメッセージ) 三重県立志摩病院は、三重県志摩地域の中心的な急性期病院であり、東京ベイ・浦安市川医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。 ・医師1人あたりの診療患者数は、適度かつ多種多様な疾患を経験することができます。救急や一般外来の時点から、入院中、さらに退院後フォローまで患者さんを一貫して対応可能です。さらに希望者には内視鏡、心臓カテーテル検査・治療や腹部・心エコーの技術研修も可能です。 ・各科に分化していない内科なので、出会える疾患は多岐に渡ります。各指導医の得意分野も、消化器疾患、循環器疾患、糖尿病・内分泌、神経内科と分かれており、より深い指導を受けることもできます。 ・週に1回カンファレンスを行い、全員の入院症例についてディスカッションする機会を設けています。研修病院として研修医、学生実習を受け入れており、後輩の指導にも関わることができます。また、他の診療科、医療スタッフとも相談しやすい環境にあります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医1名、日本循環器学会認定循環器専門医2名、 日本心血管インターベンション治療学会認定専門医1名ほか
外来•入院 患者数	外来患者 14659 名·入院患者 2572 名(2024 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳(疾患群項目表)</u> にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます
	口土山利尚春到中医制度教育服体 亭腔
学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連病院

(内科系)	日本循環器学会専門研修関連施設
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
	日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設
	日本東洋医学会研修施設

国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室担当)があります。 ハラスメント委員会が人事課に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠 室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専攻医の環境	 ・指導医は82名在籍しています(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023年度実績各2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し(2023年度実績8回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(病病、病診連携カンファレンス 2023年度実績2回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専 門研修が可能な症例
【整備基準 24】	数を診療しています。
3)診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検を行っています。(2023 年度 21 体)
認定基準	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2023年度実
【整備基準 24】	「
4)学術活動の環境	(2023 年度 383 演題).
指導責任者	野口暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院 であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた 可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 77 名, 日本内科学会総合内科専門医 42 名, 日本循環器学会循環器専門医 39 名, 日本糖尿病学会専門医 12 名, 日本内分泌学会専門医 6 名, 日本腎臓病学会専門医 4 名, 日本神経学会神経内科専門医 21 名, 日本老年医学会専門医 2 名, 日本感染症学会専門 医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来·入院患者数	外来患者 164,222 名 入院患者 158,364 名(2023 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 5 領域、24 疾患群の症例を 経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます。
学会認定施設(内科 系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設

日本脳卒中学会研修施設
日本高血圧学会研修施設など

明石医療センター

明石医療センダー	
1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。研修に必要な図書室とインターネット環境があります。明石医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスメント委員会として労働安全衛生委員
	会が病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。
	(申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します)
	・日本内科学会指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(年間 4 回程度)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(感染防止対策地域カンファレンス 2 回、地域医療連携の会 1 回等)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	四等/を足病的に開催し、等攻医に支誦を義務がり、そのための時間的宗裕を与えより。 カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)字術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表を予定しています。 レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会 を設けています。 症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師 による英文校正の指導を受けることができます。
指導責任者	中島 隆弘 【内科専攻医へのメッセージ】 明石医療センターは「患者さんを中心に、その期待に応える医療を行い、地域との連携を密にして、社会に貢献します」という理念のもと、明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っています。専門内科(呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科)および総合内科の指導医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です。2019 年度から救急科専門医が赴任し、コモンディジーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました。外科系の診療科は、心臓血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、産婦人科が活発に診療しており垣根の低い連携が可能です。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、学会発表・論文作成の指導体制も整っており、毎年研修医・専攻医の英語論文がアクセプトされています。症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能であり、3 年間で 13 領域、70 疾患群の症例を十分に経験することができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、日本循環器学会専門医 7 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、日本消化器病学会専門医 12 名、日本消化器内視鏡学会専門 11 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 5 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌代謝科専門医 2 名 ほか
外来·入院患者数 [2023 年度]	外来患者 7,405 名(1ヶ月平均)入院患者 6,797 名(1カ月平均)

	-
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経
療連携	験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本透析医学会専門医教育関連施設 社団法人日本感染症学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本解尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設(呼吸器内科)など

天理よろず相談所病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラ ムの環境	 ・指導医が38名在籍しています(下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 医療安全・感染対策 E-learning開催)します。 ・CPC を定期的に開催(2024年度実績5回)します。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表(2019年度実績 10演題)をしています。
指導責任者	羽白 高 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の1つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患 の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有 が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和51年よりレジデント制度を開始し、昭和 53年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急 性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではな く、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく 患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本内分泌学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)3 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来•入院 患者数	外来:約 1,800 名(1 日平均) 入院:約 500 名(1 日平均延)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,70 疾患群の症例を 経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本神経学会専門医教育施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本感染症学会専門医研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
ステントグラフト実施施設(胸部)
ステントグラフト実施施設(腹部)
日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設
日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本内分泌・甲状腺外科学会専門医制度認定施設 など

島根県立中央病院

島根県立中央病院	
	専攻医の環境
	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	・島根県立中央病院の医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルヘルスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。
	・ハラスメント委員会が院内に整備されています。
	ハラスアンド委員会が院内に霊儡されているす。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
	専門研修プログラムの環境
	·内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、基幹施設、連携施設に設置されている
	研修委員会)との連携を図ります。
	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育・研
1) 専攻医の環境	修支援センターを設置しています。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えます。
	·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。
	·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます
	・地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、地域救急医療合同カンファレンス、出雲
	市内科医会循環器研究会、出雲市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会)を定期的
	に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育・研修支援センターが対応します。
	・・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の島根県立中央病院での面談・カンファレ
	ンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
	専門研修プログラムの環境
	·内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、基幹施設、連携施設に設置されている
	研修委員会)との連携を図ります。
	・
	本年記念と列このことでいる。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えます。
。 ま 田 エエ ト は 	·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間は A Mark Production
2)専門研修プログラムの	,
環境	·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます
	・地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、地域救急医療合同カンファレンス、出雲
	市内科医会循環器研究会、出雲市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会)を定期的
	に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	·日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育·研修支援センターが対応します。
	·特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の島根県立中央病院での面談・カンファレン
	スなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を
○☆病奴蛉a℡埣	診療しています。
3)診療経験の環境	·70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます。
	・専門研修に必要な剖検を行っています。
	・臨床研究に必要な図書室、インターネットなどを整備しています。
4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
·/ 1 11111 201 45 50K-20	・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
	/Lin/A 日本土で以座し、た河H II C X LL 例 八田 日本で開催しているが。

	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	小田強(プログラム責任者 循環器科 副院長)、 井本宏治(島根県立中央病院 循環器科 診療科部長)、藤代浩史(島根県立中央病院 消化 器科 診療科部長)、他
指導医数 (常勤医)	J-osler 指導医一覧に登録されている指導医 22名 (R7.4.現在)
外来·入院患者数 [2023 年度]	外来患者 4,462 名(1ヶ月平均)内科のみ 12,937 名 全体 入院患者 520 名(1ヶ月平均実数)内科のみ 1,468 名 全体
経験できる疾患群	1)専門知識【整備基準 4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照] 専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。 「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。 2)専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照] 内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力が加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。
経験できる技術・技能	島根県立中央病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。 島根県立中央病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験します。
経験できる地域医療・診 療連携	島根県立中央病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、 高次病院や地域病院との 病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験します。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育施設(教育病院) 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設(内分泌代謝科) 日本腎臓学会認定医制度研修施設 日本肝臓学会認定を制度研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本川ウマチ学会認定教育施設 日本川ウマチ学会認定教育施設 日本川ウマチ学会認定教育施設 日本川ウマチ学会認定教育施設 日本川ウマチ学会認定教育施設 日本川で学会冒腸科指導施設

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

五重别 凹	倉敷中央医療機構
	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	·倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています。
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事部)があります。
1)専攻医の環境	・ハラスメント委員会が当院内に整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	型調でするとものである。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
	・指導医が 77 名在籍しています(専攻医マニュアルに明記)。
	・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委
	員会との連携を図ります。
	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを
	一番軒心以内に350・と前後する中央区の前後を自任する前後安貞去と臨床前後ピングで
	「医療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	す。
2) 専門研修プログラムの	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間は人がなります。
環境	間的余裕を与えます。 GDG まご期待に関係と年間中は 40 同とし、また医に必嫌も美変とし、そのための時間から
	・・CPC を定期的に開催(年間実績 10 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余
	裕を与えます。
	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。 プーパライ・エラー・ストライラ・カンファンス フェルカサブケイ・・・スラー・バライ・ストラー・
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 - 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15
	・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスな
	どにより研修指導を行います。
->=A -+- / FA	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼
3)診療経験の環境	吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可
	能な症例数を診療しています。
	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2023 年度実績
4)学術活動の環境	5 演題)をしています.又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります(2023
	年度実績 240 演題)
	石田 直
	【内科専攻医へのメッセージ】
	倉敷中央病院は、岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており、地域の救急医療を支え
	ながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です。
	内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり、又内科領域 13 分野
指導責任者 指導責任者	には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています。
旧守具江石	内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密
	着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ、地域医療の充実に向けての様々な活動を行
	います。
	初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います、又内科系救急医療
	の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキ
	ュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しなが
	ら、医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします。
	日本内科学会指導医 76 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、
指導医数	日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、
	日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、
指導医数	
指導医数 (常勤医)	日本腎臓病学会専門医7名、日本呼吸器学会呼吸器専門医8名、

	日本感染症学会専門医3名、日本救急医学会専門医2名、
	日本肝臓学会専門医 7 名、日本老年医学会専門医 3 名、
	臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか
外来•入院患者数	外来患者延べ数 270,734 人/年(2023 年度実績)
77木"八阮思白釵	入院患者数 13,126 人/年(2023 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を
在級できる状忠研	経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
控験できる技術・技能	広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経
療連携	験できます。
	日本内科学会認定医制度教育病院
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
	日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設
	日本胆道学会認定指導医制度指導施設
	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設
	日本神経学会専門医制度教育施設
	日本呼吸器学会専門医制度認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
 学会認定施設	日本感染症学会認定研修施設
(内科系)	日本アレルギー学会準教育施設
(内行示)	日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設
	日本老年医学会認定施設
	日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本脳卒中学会認定研修教育病院
	日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
	日本甲状腺学会認定専門医施設
	日本リウマチ学会認定教育施設
	日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	など

宇部中央病院

于即个人构队	
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
1)専攻医の環境	・図書室、インターネット環境(有線 LAN,Wi-Fi)があります。
	・文献、症例検索のデータベース等の利用環境があります。
	・健康管理、相談窓口に健康管理室を設置しており、産業医および職員が常駐しています。
	また、メンタルストレスに対する相談窓口を設置しています。
	・女性医師のために更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。
	・敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育所を設置しています。
	・専門研修プログラム管理委員会において、専攻医ごとの研修手帳及び最良作品型ポートフ
	ォリオの内容確認と、今後の専門研修の進め方について検討します。
2)専門研修プログラムの	・専門研修プログロム事務局を置き、定期的な会議を開催し、プログラムの日常的な実施・運
環境	営・改善を行います。
2456	・専門研修中には1回以上の筆頭演者として演台発表と必須とします。そのために、プログラ
	ム1年目にリサーチに関する基本知識の教授を指導医陣より行います。
	・医療倫理、医療安全、院内感染対策等の講習会を定期的に開催しています。
	・臨床研究に必要な図書室、文献データベースを整備しています。
4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
	・指導医のもと、各内科系学会での学会発表に取り組める環境があります。
	井本 忍
指導責任者 指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】
итхии	当院の内科専門研修は総合内科が中心となりますが、プライマリケア、コモンディジーズ、高
	齢者医療を入院、外来(日当直)、在宅で対応できるように指導を行います。また学生や初期
	研修医への教育を分担してもらうことで専門医資格だけでなく指導的立場や能力の習得を目
	指します。より厚みのある研修ができると思います。
	日本内科学会指導医 2 名、日本消化器病学会指導医 2 名
	日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 2 名
指導医数	日本糖尿病学会専門医1名、日本血液学会専門医1名、
(常勤医)	日本内科学会専門医 2 名、日本消化器病学会専門医 4 名、
	日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本循環器学会専門医 4 名、
	日本総合内科学会専門医3名、日本肝臓学会専門医3名、ほか
│ │ 外来·入院患者数	外来患者 2,833 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
	入院患者 2,507 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	・研修手帳にある症例を幅広く経験することができます。
 経験できる技術・技能	研修手帳に示されている「研修目標と研修の場」を活用し、専門医に必要な診察及び検査・治
神子が入っている (文神) 「文中と	療手技を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	 地域特有の健康課題に多職種と連携しながら取り組むことができます。
療連携	20%11日の庭原体医に多項性に足150%がつれり組むことができます。
	日本内科学会認定医制度教育関連病院
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会専門医研修施設
	日本神経学会専門医制度教育関連施設
	日本消化器病学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
	日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設

綜合病院山口赤十字病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.

	・常勤医師(正規職員)としての待遇が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として臨床心理士、産業 医、ハラスメント相談員等の対応があります。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されて
	「女は守女区が女心して動物できるように、文仏主、ファラー主、ヨ直主が正備されて います。
	・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また、希望すれば育児短時間勤務を
	取得可能です。
	・内科指導医が 10 名在籍しており、その他指導医もいます。(下記)
	・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修
	委員会との連携を図ります。
	・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理するため、内科専門研修委員会を設置し、
	年6回程度(隔月)委員会を開催し、円滑な内科専門研修の実施を図ります。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年実績 医療倫理1回、
	医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を
2)専門研修プログラムの	与えます。
環境	・CPC を定期的に開催(2024 年実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。
	・プログラムに所属する専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための
	時間的余裕を与えます。
	・日本専門医機構による施設実地調査については、教育研修推進室が対応します。
	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、
	腎臓、呼吸器、神経、
3)診療経験の環境	膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していま
	す。
	・専門研修に必要な剖検(2024年度実績1体)を行っています。
	・臨床研究に必要な図書研修室を整備しています。
	・倫理委員会を設置し、不定期的に開催しています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1題以上の学会発表を行って
	います。
	・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
	末兼 浩史
	【内科専攻医へのメッセージ】
	内科スタッフはチームワーク良く初期診療から専門領域まで皆協力分担して診療しており、
 指導責任者	少数精鋭で密度の濃い研修が可能です。分野間の垣根が低く、common disease から希少な 難病・特定疾患まで豊富な症例の治療が専門医の指導下で経験可能で、的確な判断が要求
旧等具证旧	無柄・特定疾患より受量な延例の治療が専門医の指導下で経験可能で、的確な判断が要求される救急の場では一人で悩むことなくマンツーマンで上級医に相談し迅速な対応が可能で
	される秋志の場では一人で図むことは、マンケーマンで工板医に相談し迅速な対応が可能です。
	ョ。 総合病院として、すべての専門医師・医療スタッフの力を結集して、一人ひとりの患者さんの
	命に向き合い、他職種の医療スタッフにも恵まれ、職種を超えた NST, ICT などのチーム医療
	も盛んです。
	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、
	日本消化器病学会消化器病専門医 4名、日本循環器学会循環器専門医 1名、
14. 1 4. 17. 14.	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4名、
指導医数 (常勤医)	日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、
	日本腎臓学会腎臓専門医 2名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1名、
	日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか
外来•入院患者数	内科系外来患者 214.8 名(1 日平均)
[2023 年度]	内科系入院患者 73.9 名(1 日平均)
経験できる疾患群	・研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群のうち、領域においては、すべて幅広
11月75 CC 37大芯件	く経験することが できます。

	・疾患群については、一部を除き多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広
	く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科の受け持ちは臓器別ではなく内科全般の疾患を担当しますが、各診療科の専門医がいるため、適宜相談しながら主治医として診療可能です。そのため、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 2) 高齢化のすすむ圏域をカバーしていることからも、患者の約6割は高齢者であるので、患者の急変に対応する機会は往々に発生します。そうした事例については終末期ケアも含めた経験を積むことができます。
経験できる地域医療・診	訪問看護ステーションを有し、小児から末期がん患者の訪問緩和ケアまで、広範な地域医
療連携	療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本専門医機構 内科領域基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本専門医機構 消化器内科領域基幹施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本専門医機構 膠原病・リウマチ内科領域基幹施設 日本専門医機構 膠原病・リウマチ内科領域基幹施設 日本糖尿病学会教育関連施設 I 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本海経学会専門医制度准教育施設 日本神経学会専門医制度者育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本紹音波医学会認定超音波専門医研修施設

社会医療法人財団大樹会 総合病院回生病院

	会 総合病院四生病院
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院(基幹施設)です。 ・施設内には、インターネット環境があり、図書室も24時間利用可能です。 ・専攻医として労務環境は保障されています。 ・メンタルストレスに対して、健康管理室が窓口となり、各相談に対応しています。ハラスメントについても窓口を設けています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、当直室、仮眠室、休憩室、更衣室、シャワー室を整備しています。 ・敷地内に院内保育所を整備しており病児保育も可能となっています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は3名在籍しています。 ・当院で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設定されるプログラム管理委員会と連携を図っています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており、専攻医の受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスが開催される折には、専攻医の受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し(2024 年度実績 2 回)、専攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスが開催される折には、千九おいの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 7 分野において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を積極的に行っています。
指導責任者	件川文彦 【内科専攻医へのメッセージ】 回生病院は、香川県中讃医療圏の基幹病院であり、内科領域は救急から腫瘍及び高齢 者疾患まで種々の急性期疾患を経験できます。全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科 的医療の実践を志す内科専門医志望者を丁寧に育てていきたいと考えています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医3名、日本内科学会総合内科専門医2名、 日本消化器病学会消化器病専門医2名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医2 名、日本肝臓学会肝臓専門医1名、日本糖尿病学会糖尿病専門医2名、 日本血液学会血液専門医1名
外来•入院患者数	外来患者 573 名(1ヶ月平均)入院患者 82 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	13 領域のうち 11 領域において経験することができます。
経験できる技術・技能	地域に根差す第一線の病院であり、common disease の経験はもちろん、超高齢化社会を 反映し複数の病態をもった患者の診療経験もできます。
経験できる地域医療・ 診療連携	高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携が経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 教育関連病院 日本消化器内視鏡学会 指導連携施設 日本消化器病学会 認定施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本脳卒中学会 認定一次脳卒中センター 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本救急医学会 救急科領域専門研修プログラム基幹施設

松山赤十字病院

松山亦十字病院	
	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。
	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
1) 専攻医の環境	・松山赤十字病院常勤医師として労務環境が保障されている。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。
	・ハラスメント委員会が整備されている。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されている。
	・敷地内に院内保育所があり、利用可能。
	・指導医は28名在籍している。
	・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員
	会との連携を図る。
	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し教育
	研修推進室と連携して研修の質を担保する。
	以下のカンファレンス、講習会等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための
~\ + == +	時間的余裕を与える。
2)専門研修プログラムの	① 医療倫理・医療安全・感染対策等の講習会
環境	② 研修施設群合同カンファレンス
	③ CPC
	④ 地域参加型のカンファレンス
	⑤ JMECC
	日本専門医機構による施設実地調査には教育研修推進室が対応する。
	特別連携施設研修では、電話や面談、カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修
	指導を行う。
	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の少なくても 12 分野で常時専門研修が可能な症例数
	を診療している。
3)診療経験の環境	70 疾患群のうち少なくても 58 以上の疾患群について研修できる。
	専門研修に必要な剖検数を確保している。
	臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。
小兴华江北西西拉	医療倫理委員会を設置し、定期的に開催している。
4)学術活動の環境	治験管理センターを設置し,定期的に治験審査委員会を開催している。
	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の発表をしている。
	藤﨑智明
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】
	松山赤十字病院は、松山医療圏の中心的な地域医療支援病院であり、当プログラムでの内
	科専門研修で、将来にわたり愛媛の地域医療を支える内科専門医育成を目指します。
	日本内科学会総合内科専門医 31 名, 日本内科学会指導医 28 名,
	日本消化器病学会消化器専門医 10 名, 日本循環器学会循環器専門医 6 名,
	日本糖尿病学会専門医3名,日本腎臓病学会専門医6名,
	日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本血液学会血液専門医 6 名,
₩. ★ Œ ₩.	日本神経学会神経内科専門医 1 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名,
指導医数	日本感染症学会専門医3名,日本老年医学会専門医2名
(常勤医)	日本肝臓学会専門医 6 名
	日本高血圧学会専門医1名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医1名
	日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 1 名
	日本救急医学会救急科専門医 2 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 9 名
	日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 1 名, 日本認知症学会認定認知症専門医 1 名, ほか
外来·入院患者数 [2023 年度]	外来患者数 150,097 人/年 入院患者数 7,304 人/年(令和 6 年度実績)
	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
経験できる疾患群	幅広く経験することができます。

	-
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅 広く経験することができます。
夕吹ったり 地景原序 参	
	急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経 ***********************************
療連携 療連携	験できます。
	日本内科学会認定医制度教育病院
	日本老年医学会認定施設
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本呼吸器学会専門医制度認定施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本透析医学会専門医制度認定施設
W A	日本神経学会専門医制度准教育施設
学会認定施設	日本救急医学会専門研修連携施設
(内科系)	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本高血圧学会専門医認定施設
	日本感染症学会認定研修施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	など

愛媛県立中央病院

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス(ハラスメント含む)に適切に対処する部署(総務医事課担当)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
※県非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス(ハラスメント含む)に適切に対処する部署(総務医事課担当)があります。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワ一室、当直室が整備されています。・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・指導医は35名在籍しています。・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
1)専攻医の環境 ・メンタルストレス(ハラスメント含む)に適切に対処する部署(総務医事課担当)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
ます。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
環境 ・CPC を定期的に開催(2024年度9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・CPC を定期的に開催(2024 年度 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
す。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門
研修が可能な症例数を診療しています(上記)。
3)診療経験の環境 -70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上
記)。
・専門研修に必要な剖検(2024 年度実績 13 体、2022 年度実績 10 体)を行っています。
・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
4)学術活動の環境 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 9 回)していま
す。
副院長(消化器内科) 二宮 朋之
【内科専攻医へのメッセージ】
愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急セ 指導責任者
^{拍辱員吐伯} ンターを併設しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診 │
断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科
専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指し
ます。
日本消化器病学会消化器専門医数 13、日本循環器学会循環器専門医数 8、
日本内分泌学会専門医数 2、日本糖尿病学会専門医数 5、日本腎臓病学会専門医数 3、
指導医数 日本呼吸器学会呼吸器専門医数 7、日本血液学会血液専門医数 8、
(常勤医) 日本神経学会神経内科専門医数 5、日本アレルギー学会専門医(内科)数 2、
日本リウマチ学会専門医数 0、日本肝臓学会専門医 8、臨床腫瘍学会専門医 2、
消化器内視鏡学会専門医 13、日本感染症学会専門医数 2、日本老年学会専門医数 3 ほか
外来·入院患者数 外来患者 25,754 名(1 ヶ月平均) 入院患者 15,217 名(1 ヶ月平均)
きわめて稀か疾患を除いて、研修手帳(疾患群項日表)にある13 領域 70 疾患群の症例を
経験できる疾患群にいるとができます。
横広へ住家することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
- 2015/1014 12 12 11 11 11 12 11 12 12 12 12 12 12
経蛹できる技術・技能
広く経験することができます。
経蛹できる技術・技能

日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 (内科系) 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本感染症学会連携研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間骨髄移植認定施設 非血緣者間末梢血幹細胞採取(移植)認定施設 日本輸血·細胞治療学会認定医制度指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定 総合診療医・家庭医後期研修プログラム認定施設 日本東洋医学会研修施設

ステントグラフト実施認定施設など

近森病院

近森病院	
	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。
1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
	・適切な労務環境が保障されている。
	・メンタルストレスに適切に対処する環境(健康管理センター・メンタルヘルスケアサポート
	連絡会)が整っている。
	・ハラスメント委員会が整備されている。
	・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。
	・敷地内に院内保育所があり、24 時間 365 日利用可能である。
	・指導医が30名在籍している。
	・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置さ
	れるプログラム管理委員会と連携を図る体制が整っている。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その
	ための時間的余裕を与えている。
環境	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えている。
	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
	・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
ᅅᄎᄷᄱᄡᄼᄪᄷ	的余裕を与えている。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。 (2024 年実績 5 演題)
	指導責任者:細田勇人 【内科専攻医へのメッセージ】
指導責任者	当院内科は約 30 年にわたり大内科制をとっており、救急病院としての救急医療の中核を担
旧守貝山石	っている。そのため、高知県全域から様々な疾患を持った救急患者・重症患者が当院に紹介
	され救急搬送されており、内科医としての Generality が求められるため、専門性に偏ることな
	くあらゆる内科疾患の主治医として入院患者に対応している。
	30名
	日本内科学会総合内科専門医 28 名
	日本消化器病学会指導医 6 名/専門医 13 名
	日本消化器内視鏡学会指導医 5 名/専門医 10 名
	日本循環器学会専門医 18 名
	日本心血管インターベンション治療学会専門医 5 名/認定医 9 名
	日本心臓病学会心臓病上級臨床医FJCC 2 名
	日本動脈硬化学会指導医 2 名
	日本不整脈心電学会不整脈専門医3名
	日本高血圧学会指導医 1 名
	日本呼吸器学会指導医 2 名/専門医 2 名
指導医数	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1 名/専門医 1 名
(常勤医)	日本血液学会指導医2名/専門医2名
(市到区)	日本内分泌学会指導医 1 名/専門医 2 名
	日本糖尿病学会指導医 1 名/専門医 3 名
	日本腎臓学会指導医 1 名/専門医 2 名
	日本透析医学会指導医 1 名/専門医 2 名
	日本肝臓学会指導医 2 名/専門医 2 名
	日本感染症学会指導医1名/専門医1名
	日本老年医学会指導医 4 名/専門医 7 名
	日本神経学会指導医 4 名/専門医 5 名
	日本脳卒中学会指導医 5 名/専門医 6 名
	日本リウマチ学会指導医 2 名/専門医 3 名
	日本救急医学会救急科専門医7名
	日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 1 名

	JMECC ディレクター2 名/インストラクター5 名 ほか
	外来患者 10,612 名(2024 年度) 入院患者 11,730 名(2024 年度)
	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
経験できる疾患群	経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
	広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
療連携	広く経験することができます。
77.223	救命救急センター
	地域医療支援病院
	災害拠点病院
	基幹型・協力型臨床研修病院
	卒後臨床研修評価機構認定
	日本医療機能評価機構 機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.1/付加機能(救急医療機能
	Ver.2.0)
	日本内科学会 教育病院
	日本循環器学会 循環器専門医研修施設
	日本神経学会 教育施設
	日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア
	日本脳卒中学会 研修教育施設
	日本老年医学会 認定施設
	日本消化器内視鏡学会 指導施設
	日本消化器病学会 認定施設
	日本消化管学会 胃腸科指導施設
	日本呼吸器学会 認定施設
学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会 認定施設
(内科系)	日本高血圧学会 研修施設 I
	日本動脈硬化学会教育病院
	超音波医学会 超音波専門医研修施設
	日本心エコー図学会 認定心エコー図専門医制度研修関連施設
	日本不整脈心電学会 不整脈専門医研修施設
	MRI対応植込み型デバイス患者のMRI検査の施設基準
	IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設
	日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設
	日本循環語子芸程及的信帽并接口小主修復プステム美胞胞設 経力テーテル的大動脈弁置換術 専門施設
	日本心血管インターベンション治療学会 潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施
	日本心血管インタ ・シンコン 石原子会 自西住脳伎奉に対する卵 11 開行閉頭剛夫心心 設
	因 日本糖尿病学会認定教育施設 I
	日本リウマチ学会教育施設
	日本肝臓学会関連施設
	日本腎臓学会認定教育施設
	日本透析医学会 教育関連施設
	日本感染症学会 研修施設 など

福岡市民病院

福岡市民病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人福岡市立病院機構有期職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課担当)があります。 ・セクシュアル・ハラスメントの対策等に関する委員会が機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・同一機構である福岡市立こども病院敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が 11 名在籍しています(下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催。専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・本院での CPC,または九州大学形態機能病理学教室で実施される病理解剖の参加を専攻医に義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています
指導責任者	小柳 年正 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市民病院は、高度救急・高度専門医療を提供する地域の中核病院であり、内科専門 研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医14名、日本循環器学会専門医7名、日本消化器病学会指導医2名、日本消化器病学会専門医5名、日本肝臓学会指導医1名、日本肝臓学会専門医3名、日本消化管学会胃腸科指導医1名、日本消化管学会胃腸科専門医1名、日本消化器内視鏡学会指導医1名、日本消化器内視鏡学会専門医2名、日本心血管インターベンション治療学会専門医1名、日本神経学会専門医2名、日本神経学会専門医3名、日本腎臓学会指導医1名、日本腎臓学会専門医2名、日本糖尿病学会指導医1名、日本透析医学会専門医2名、日本財分泌学会指導医1名、日本内分泌学会専門医2名、日本リウマチ学会指導医2名、日本リウマチ学会非導医2名、日本リウマチ学会専門医2名、日本脳卒中学会指導医2名、日本脳卒中学会専門医3名
外来·入院患者数	外来患者 4,428 名(1ヶ月平均延数) 入院患者 5,369 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある8領域の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

日本肝臓学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設(新制度)
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設(旧制度)
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本神経学会専門医制度教育関連施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本病態栄養学会認定栄養管理·NST実施施設
日本感染症学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本腎臓学会研修施設
特定行為研修指定研修機関
日本臨床衛生検査技師会・日本臨床検査標準協議会 精度保証施設
日本脳卒中学会一次脳卒中センター

日本脳卒中学会一次脳卒中センター(PSC)コア施設

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

国家公務員共済組合連	日本 供の門柄院
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・浜の町病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ・ハラスメント委員会が浜の町病院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は 11 名在籍しています(下記). ・臨床研修センター(教育部内に設置、担当:統括責任者・診療部長)が内科専門研修プログラムの管理を行い、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を臨床研修センターが統括管理します。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPC を定期的に開催(2024 年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・地域参加型のカンファレンス(福岡地域救急医療合同カンファレンス、福岡市内科医会、福岡市中央区内科医会、福岡市中央区消化器病症例検討会など)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度実績2回:受講者 12名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度実績2回:受講者 12名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・日本専門医機構による施設実地調査に教育部が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記). ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上記). ・専門研修に必要な剖検(2022 年度実績 6 件, 2023 年度 5 件, 2024 年度 1 件)を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室, 写真室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催(2024 年度実績 2 回)しています. ・治験管理室を設置し, 定期的に治験審査委員会を開催(2024 年度実績 10 回)しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表(2024 年度実績 8 演題)をしています.
指導責任者	衛藤徹也 【内科専攻医へのメッセージ】 浜の町病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり、福岡・糸島医療 圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地 域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流 れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医 になります。 内科ほぼすべての分野において、専門学会の指導医あるいは専門医の資格を持つ部長 が指導に当たり、幅広い研修が可能です。シミュレーションラボセンターを併設しているた め、高度なシミュレーターを使用して技術指導を受けることが可能です。急患や総合診療症 例も多く、急性疾患から慢性疾患まで幅広く研修することが可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名,日本内科学会総合内科専門医 25 名,日本消化器病学会消化器専門医 11 名,日本肝臓学会専門医 3 名,日本循環器学会循環器専門医 6 名,日本感染症学会専門医 2 名,日本糖尿病学会専門医 2 名,日本腎臓学会専門医 3 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名,日本血液学会血液専門医 4 名,日本神経学会神経内科専門医 2 名,日本リウマチ学会専門医 4 名,

	日本救急医学会救急科専門医 1 名, ほか
外来•入院患者数	外来患者 6,470 名(1ヶ月平均) 入院患者 509 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
診療連携	幅広く経験することができます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会内科専門研修基幹病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度専門医研修施設認定 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設認定 日本脳卒中学会研修教育病院認定施設 日本期京病学会認定教育施設 日本期京病学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など

米の山病院

木の山病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する委員会、「こころの相談室」を設置、および臨床心理士・公認心理師を配置しています。 ・ハラスメント委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地近くに託児所、保育園があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は5名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、内科研修委員長、ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回・感染対策 2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2023年度実績 2回、2024年度実績 1回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(有明地区合同カンファレンス年 1回開催)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2015年度より院内にて年 1回開催)を義務付け、そのための時間的保障を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2015年度より院内にて年 1回開催)を義務付け、そのための時間的保障を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設(みさき病院や中友診療所や神野診療所)の専門研修では、米の山病院での合同カンファレンスや、テレビでの会議システム運用も視野に入れ、指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度 2 体、2024 年度 0 体)を行っています。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度 2 体、2024 年度 0 体)を行っています。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度 2 体、2024 年度 0 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。・治験委員会を設置し、定期的に研究審査会を開催する体制を整えています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	崎山 博司 【内科専攻医へのメッセージ】 米の山病院内科専門研修プログラムは、福岡県有明医療圏の急性期病院である米の山病院を基幹施設として、内科専門医はもちろんのこと、内科系各領域の subspecialty にも共通で必要とされる総合性を身に着けることを重視しています。また高齢率が 38.4%(2025 年4月1日時点)と急速な高齢化が進む有明医療地区において、地域と時代における役割と

	求められる医療について理解した上で、そのニーズに応えうる総合的な力量と必要な専門性を習得するプログラムです。「地域に出て、地域に学び、育つ」地域基盤型教育を重視し、
	またヘルスプロモーション活動など住民と共同の場を研修の特徴としており、様々な取り組
	みへの参加を通じて、専門性と倫理性、そして利他主義の視点を身につけることを目指して
	います。
指導医数	日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、
	日本消化器病学会消化器病専門医1名、日本睡眠学会総合専門医1名、
(常勤医)	日本東洋医学会漢方専門医 1 名
外来•入院患者数	総外来延患者(実数)84,514 名、総入院患者(実数)2,724 名
	血液内科疾患をはじめ、きわめてまれな疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13
経験できる疾患群	領域、70疾患の症例を広く経験することができます。
	不足する分野においては、連携施設にて研修可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
	幅広く経験することができます。
奴段できる地域医療。	高齢化率が高い福岡県南部の有明医療圏に位置する急性期病院であるとともに、回復期リ
経験できる地域医療・	ハビリテーション病棟・維持期病棟もあり、大牟田市内において医療、介護の中核的な病院
診療連携	です。また地域における病病連携、病診連携医療を経験できます。
	・内科専門研修プログラム基幹施設
	・総合診療専門研修プログラム基幹施設
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	•日本循環器学会研修施設
学会認定施設	・日本呼吸器学会特別連携施設
(内科系) 	•日本肝臓学会特別連携施設
	•日本東洋医学会教育関連施設
	・日本病理学会登録施設 など

健和会大手町病院

性们去入于可构成	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健和会本部人事部福利厚生課)があります。 ・「ハラスメント防止に関する規程」に基づき、相談窓口は法人統括責任者として健和会本部人事部長、健和会大手町病院は事務長と総師長が担当しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は 11 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者,プログラム管理者(総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修課が設置されています。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(基幹施設 2023 年度実績 医師対象講習会 2 回, eーラーニング 4 回)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2022 年度 7 件、2023 年度 9 件)し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(基幹施設:北九州総合診療研究会,北九州ER critical CareConference)等を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設(戸畑けんわ病院,大手町リハビリテーション病院,健和会京町病院,健和会町上津役診療所,大分健生病院,くわみず病院)の専門研修では、電話や月 1 回の健和会大手町病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても35 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2022 年度7件、2023 年度9件)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023年度実績4回)しています。 ・治験委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	築島直紀 【内科専攻医へのメッセージ】 健和会大手町病院は福岡県の北九州市地区における中心的な急性期病院です。近隣医療圏にある連携施設,特別連携施設と内科専門研修を実施し,総合的な医療の展開と地域医療でも貢献できる内科専門医の育成を目指しています。 一般外来および救急外来にて初診患者を中心に診療をおこないます。また,入院診療では一般内科病棟に加えて、集中治療室や療養型病床での研修も可能であり,幅広い状況で研修がおこなえます。また定期的な他職種カンファレンスを通して、患者の社会的・心理的な側面へのアプローチを行い、チーム医療での研修を行います。

	日本内科学会指導医 4 名, 日本内科学会認定内科医 8 名,
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医3名,日本循環器学会循環器専門医2名,
	日本呼吸器学会呼吸器学会専門医 1 名,日本糖尿病学会専門医 1 名,
	日本神経学会神経内科専門医2名,日本感染症学会専門医2名,
	日本消化器内視鏡学会専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 5 名
外来•入院患者数	総外来延患者数 58440 名 総入院患者数 7611 名 2024 年度実績
奴段でも7点生野	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を
経験できる疾患群 	幅広く経験することができます。
奴段云土乙廿代。廿出	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
経験できる技術・技能 	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本呼吸器学会関連施設
学会認定施設	日本環境感染症学会認定教育施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本感染症学会認定研修施設
(内科系)	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本リウマチ学会教育施設
	日本糖尿病学会教育関連施設(宇部協立病院)
	日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療後期研修プログラム
	など

北九州市立医療センター

北九州市立医療センダー	_
	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	・※※市非常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準	・メンタルストレスに適切に対処する窓口(機構本部人事給与課)があります。
【整備基準 24】	・ハラスメントに関する苦情の申し出および相談はハラスメント対策専門官が受け付けていま
1)専攻医の環境	す。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
	・指導医は 21 名在籍しています(下記)。
	・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(内科統括
	部長)(総合内科専門医かつ指
	導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
	・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しま
	す。
	^ ° ·医療倫理·医療安全·感染対策講習会を定期的に開催(2023 年度実績 5 回)し、専攻医に
初中甘淮	医療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
認定基準	
【整備基準 24】	一・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024 年度 1 回予定)し、専攻医に受講を
2)専門研修プログラム	義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
の環境	·CPC を随時開催(2024 年度実績 3 回 8 症例)し、専攻医に受講を義務付け、そのための
	時間的余裕を与えます。
	·地域参加型のカンファレンス(北九州市立医療センター研修会;2024 年度実績 11 回)を定
	期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	- 日本専門医機構による施設実地調査に内科臨床研修管理委員会)が対応します。
	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 9 分野以上)で定常的に専
認定基準	門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。
【整備基準 24/31】	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上
3)診療経験の環境	記)。
0/ログ7京小士河大 0/ノンネ・5元	
=n + + + +	・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績 9 体、2024 年度 10 体)を行っています。
認定基準	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
【整備基準 24】	・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023 年度実績 2 回)しています。
4)学術活動の環境	·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度実績 12 回)しています。
	大野 裕樹
	【内科専攻医へのメッセージ】
	北九州医療圏・近隣医療北九州市立医療センターは、福岡県北九州医療圏の一翼を担
上 消 走 / ユ	う急性期病院であり、圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性の
指導責任者	ある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
	主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流
	れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医
	になります。
	日本内科学会認定医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、
	日本内科子云誌定送 21 石、日本内科子云誌日内科等
	1
	日本消化管学会胃腸科専門医1名、日本肝臓学会専門医3名、
指導医数	日本超音波医学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、
(常勤医)	日本心血管インターベンション治療学会専門医1名、日本超音波学会専門医1名、
(田利区/	日本心エコー図学会 SHD 心エコー認定医 1 名、日本周術期経食道心エコー認定医 1 名、
	日本日本糖尿病学会専門医1名、日本内分泌学会専門医1名、
	日本老年医学会専門医1名、日本肥満学会専門医1名、日本骨粗鬆症学会認定医1名、
	日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名、

	日本結核・非結核性抗酸菌症学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 5 名、
	日本造血・免疫細胞療法学会認定医3名、日本リウマチ学会専門医3名、
	日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 5 名、
	日本心身医学会認定心療内科専門医 1 名、日本臨床栄養代謝学会専門医 1 名、
	日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名
外来·入院患者数	外来患者数(6,574 名 1 ヶ月平均延数) 入院患者数(4,461 名 1 ヶ月平均延数)
奴段不去7.庆 史联	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
経験できる疾患群 	幅広く経験することができます。
奴段不去去世份,世纪	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
経験できる技術・技能 	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
	日本内科学会認定医制度教育病院
	日本感染症学会認定研修施設
	日本肝臓病学会認定施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本リウマチ学会教育施設
学会認定施設	日本消化器病学会指導施設
(内科系)	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本循環器学会認定専門医研修施設
	日本臨床腫瘍学会認定施設
	日本血液学会認定専門研修教育施設

九州大学病院

九州大学病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります. ・ハラスメント委員会が九州大学に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように,更衣室,仮眠室,シャワ一室,当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり,病児保育,病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が(2024 年度)151 名在籍しています(下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績 医療倫理 1 回(4 月に就職時に参加が必須。今後は年度内に複数回の定期開催を予定)、医療安全 40 回,感染対策 40 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 17 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを(2015 年度実績 6 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, リウマチ, 膠原病, 感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2021 年度実績 35 演題)をしています。
指導責任者	桑原 綾子 【内科専攻医へのメッセージ】 九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて 様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学 病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医 の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患 者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成 することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 151 名, 日本内科学会総合内科専門医 127 名 日本消化器病学会消化器専門医 38 名, 日本循環器学会循環器専門医 27 名, 日本内分泌学会専門医 14 名, 日本糖尿病学会専門医 15 名, 日本腎臓病学会専門医 12 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名, 日本血液学会血液専門医 10 名, 日本神経学会神経内科専門医 19 名, 日本アレルギー学会専門医(内科)7 名, 日本リウマチ学会専門医 4 名, 日本感染症学会専門医 10 名, 日本救急医学会救急科専門医 5 名, 老年医学会 5 名, 肝臓学会 14 名, 消化器内視鏡学会 25 名, 臨床腫瘍学会 8 名 他
外来•入院患者数	内科系外来患者 16,570 名(1ヶ月平均)内科系入院患者 10,885 名(1 か月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を 経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
経験できる技術・技能	幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設

日本救急医学会救急科専門医指定施設

など

日本心血管インターベンション治療学会研修施設

独立行政法人国立病院	2機構 九州医療センター
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・国立病院機構九州医療センターの就業規則に基づき就業する。 1)研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 2)非常勤医師として労務環境が保障されている。 3)メンタルストレスに適切に対処する部署(管理課職員担当)がある。 4)ハラスメント委員会が整備されている。 5)女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 6)敷地近辺に職員保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が34名在籍している。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績 医療倫理1回, 医療安全2回, 感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・合同カンファレンスを定期的に参画(2024年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的に開催(2024年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎
【整備基準 24/31】	臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, リウマチ, 膠原病, 感染症および救急の全ての分野
3)診療経験の環境	で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表をしている。 2021年度実績 第333回九州地方会2題、第336回九州地方会2題の計4題 2022年度実績 第119回日本内科学会総会2題、第338回九州地方会1題、 第339回九州地方会3題、第340回九州地方会4題の計10題 2023年度実績 第120回日本内科学会総会1題、第340回九州地方会1題、 第343回九州地方会1題、第344回九州地方会2題の計5題
指導責任者	宮村 知也 九州医療センターは九州内の大学や協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に 3 つのコースを設け、総合力の高いリサーチマインドを持ち、サブスペシャリティにも強い質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患者に寄り添う医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 34 名, 日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名, 日本循環器学会循環器専門医 13 名, 日本内分泌学会専門医 3 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本血液学会血液専門医 8 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 8 名, 日本感染症学会専門医 6 名, 日本救急医学会救急科専門医 4 名, 日本臨床腫瘍学会専門医 3 名ほか
外来•入院患者数	内科系外来患者 8330 名(1ヶ月平均)内科系入院患者 677 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を 経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども 経験ができる。
学会認定施設 (内科系)	日本専門医機構認定内科専門研修プログラム基幹施設 日本専門医機構認定消化器内科領域研修基幹施設 日本専門医機構認定呼吸器内科領域研修連携施設 日本専門医機構認定血液内科領域研修基幹施設

日本専門医機構認定内分泌代謝 糖尿病内科領域研修基幹施設 日本専門医機構認定脳神経内科領域研修基幹施設 日本専門医機構認定膠原病・リウマチ内科領域研修基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

日本心血管インターベンション治療学会研修施設

など

九州がんセンター

, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(管理科職員担当)があります。 ・監査・コンプライアンス室が国立病院機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が8名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、肝臓、代謝、呼吸器および血液の分
【整備基準 24/31】	野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
3)診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	杉本理恵 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は九州で唯一のがん専門病院です。がんの早期発見やステージングの為の様々なデバイスを用いた適格な診断方法、標準的化学療法や放射線治療などを組み合わせた集学的治療、希少がんの診断と治療、薬物や内視鏡治療などを含めた多面的な緩和治療、さらに在宅支援や緩和ケア病院との地域連携、様々な治験や臨床研究、がんの栄養療法などがんに関する様々な事を学び、技術を習得できます。またがん診療のみならず付随しておこる感染症や代謝性疾患などの内科疾患についても幅広く経験することができます。当院で研修することで内科専門医のみならず subspeciality の資格を得るためにも必要な症例を担当することができます。ぜひ我々と一緒にがんの hign volume center で研修してみませんか。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 8名,日本内科学会総合内科専門医 15名 日本消化器病学会消化器専門医 7名,指導医 4名、日本循環器学会循環器専門医 1名, 日本肝臓学会専門医 4名、指導医 3名 日本血液学会血液専門医 6名、指導医 4名 臨床腫瘍学会薬物療法専門医 5名、指導医 4名,日本内視鏡学会専門医 2名 がん治療認定医 6名、日本膵臓学会指導医 4名、老年医学会指導医1名 ほか
外来•入院患者数	外来患者 7,492 名(1ヶ月平均) 入院患者 651 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	1)研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 全ての固形癌, 血液腫瘍の内科治療を経験でき, 付随するオンコロジーエマージェンシー, 緩和ケア治療, 終末期医療等についても経験できます. 2)研修手帳の一部の疾患を除き, 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について, がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です.
経験できる技術・技能	1)日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療(標準治療、臨床試験・治験)、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2)技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます

診療連携 験できます。 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設	経験できる地域医療・	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経
日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会專門医制度認定施設	診療連携	験できます.
学会認定施設 (内科系) 日本乳癌学会認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 など	学会認定施設	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会認定施設 日本取射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会教育研修施設

福岡県済生会飯塚嘉穂病院

福 阿宗済生芸販 多	en eige
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・職員用図書室とインターネット環境(有線 LAN, Wi-Fi)があります. ・ハラスメントに関する適切な研修を受けた相談員による相談窓口があります。 ・ハラスメント事案に対応するハラスメント防止委員会を設けております。 ・男女それぞれの更衣室、仮眠(当直)室、シャワー室を整備しております。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・医療安全、感染対策に関する講習会を開催しております。(各年2回) ・受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち(総合内科,消化器,内分泌,代謝,呼吸器,内科系救急)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 内科領域 13 分野(総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および 類縁患者、感染症、内科系救急)
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 当病院は内分泌糖尿病、呼吸器内科、消化器内科、心療内科などの内科系専門医が在籍 しており、十分に専門的研修をうけれるよう体制を整備しています。また当院の特徴として 専門的な治療だけでなく内科系のジェネラリストとして疾患のみでなく病める患者さん本人 を包括的に診察していけるような指導を心掛けています。 緩和ケア医療、終末期医療、回復期医療、包括ケア医療などの地域医療・診療連携につい ても 専門医の指導の下、十分に経験をすることができます。
指導医数 (常勤医)	日本糖尿病学会研修指導医 2 名、日本内分泌学会専門医·指導医1名 日本高血圧学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、 日本消化器病学会指導医 1 名、日本心療内科学会登録指導医1名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1 名、 日本結核非結核性抗酸菌症学会指導医 1 名
外来·入院患者数	外来患者 3,625 人(全科・昨年度 1 ヶ月平均) 入院患者 4,979 人(全科・昨年度 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群のうち, common disease である内分泌糖尿病、呼吸器、心身疾患の治療を経験でき, 緩和ケア治療, 終末期医療、包括ケア医療、回復期医療等についても経験できます
経験できる技術・技能	1)内分泌・糖尿病、呼吸器、消化器疾患の診断、治療 2)技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づき ながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療からの後方支援連携のほか、医療から介護へ繋いでいく連携が経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会 連携施設 日本消化器内視鏡学会 指導連携施設 日本消化器病学会専門医制度 関連施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医研修認定施設 日本心療内科学会 登録研修施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設

医療法人幸善会 前田病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	 ・臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・前田病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内託児所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	 ・内科専門医・腎臓専門医・透析専門医・糖尿病専門医・東洋医学会漢方専門医・血液専門医等の教育施設です。 ・指導医が4名在籍しています(下記)。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2023 年実績1回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全てにおいて、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2017 年 1 演題)をしています。
指導責任者	前田 篤宏 【内科専攻医へのメッセージ】 長時間透析をはじめ、オーバーナイト透析・在宅血液透析・腹膜透析・腹膜+血液のハイブリッド透析・入院個室透析のすべてを行っている九州で唯一の病院です。 とはいえ、透析にならない事が最優先と考え、糖尿病・高血圧・高脂血症・保存期腎不全の管理に力を入れております。 【型】型糖尿病を含むすべての CKD ステージに対応した管理も可能です。 また、シャント作成(30 件/年)・シャント PTA(240 件/年)・透析導入(40 件/年)・維持透析(300 名)管理等まで一貫して学べる環境が整っており、各専門医指導のもとで、幅広い内科疾患への対応力や専門資格の取得も目指せます。 さらに、漢方専門医も在籍しており、現代医療と統合した漢方療法の実践と知識習得も可能です。
指導医数 (常勤医)	日本透析医学会指導医1名、日本透析医学会透析専門医3名、 日本腎臓学会腎臓専門医3名、日本内科学会指導医4名、 日本内科学会総合内科専門医5名、日本内科学会総合内科認定内科医2名 日本臨床腎移植学会腎移植認定医1名、日本東洋医学会漢方専門医1名、 日本東洋医学会漢方認定医1名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本血液学会認定血液専門医2名、日本血液学会認定血液指導医1名、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医1名、 日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医1名ほか
外来•入院患者数	外来患者 4,774 名(1ヶ月平均) 入院患者 55 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	シャント手術、PTA、CPAP 管理、上部・下部内視鏡検査、エコー検査(頚部血管・心・腹部) 長時間透析管理、オーバーナイト透析管理、腹膜透析管理、運動療法・栄養指導を用いた 糖尿病管理を経験することができます。証を理解した上での漢方診療の習得も可能です。

経験できる地域医療・	性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・連携なども経験で
診療連携	きます。
	日本腎臓学会 認定教育施設
	日本内科学会 認定医制度教育関連施設
 学会認定施設	日本血液学会 専門研修教育施設
	日本透析医学会 専門医制度認定施設
(内科系)	日本東洋医学会 専門医制度指定研修施設
	日本糖尿病学会 教育関連施設
	透析バスキュラーアクセスインターベーション治療医学会 教育研修施設

佐賀県医療センター好生館

佐賀県医療センダー好き	
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	・研修に必要な図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。
認定基準	・佐賀県医療センター好生館医員として労務環境が保障されています。
【整備基準 24】	・メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署および相談窓口があります。
1)専攻医の環境	・休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
1/寻以区の垛坑	
	・職員宿舎があります。
	・敷地内にこども園分園があります。
	・ 朝カンファレンス:朝、患者申し送りを行い、指導医からフィードバックを受け、指摘された
	課題について学習を進めます。
	・ 総回診:受持患者について指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症
	例についても見識を深めます。
	・ 症例検討会(毎週):新規入院症例、診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻
	医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。
	・CPC:死亡・剖検例についての病理診断を検討します。
認定基準	・内科カンファレンス(毎週):重要な症例や各領域のトピックスを内科全体で発表します。
【整備基準 24】	
2)専門研修プログラム	・ Weekly summary discussion:週に 1 回、指導医と行い、その際、当該週の自己学習結果
の環境	を指導医が評価し、研修手帳に記載します。
	・学生・初期研修医に対する指導:病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を
	指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、
	専攻医の重要な取組と位置づけています。
	・医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
	(基幹施設 2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 2 回)
	・ 当院および連携施設である佐賀大学で開催される JMECC(内科救急講習会)受講
	・各種指導医講習会/JMEC 指導者講習会など
	専攻医 3 年修了時で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なく
認定基準	そも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登
【整備基準 24/31】	録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾
3)診療経験の環境	
	患群、200 症例以上の経験を目標とします。
	患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います
認定基準	(evidence based medicine の精神)。最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して
【整備基準 24】	学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するた
4)学術活動の環境	め、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する
4/子州沿到仍琭垷	深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価
	されます。
	緒方 伸一
	【内科専攻医へのメッセージ】
	本プログラムは、佐賀県の佐賀県医療センター好生館を基幹施設として、主に佐賀県内
	の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。
	内科専門医としての基本的臨床能力獲得後に、さらに高度な総合内科の Generality を獲
	得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、内科専門医の
上	育成を行います。
指導責任者	初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間(主に
	基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下
	で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、
	標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。 内科領域全
	一般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる
	基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接する
	基礎的な診療能力を指しより。また、知識や技能に帰らりに、患者に人間住をもつて接りる と同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性
110 124 101	が高く、様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。
指導医数	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名
(常勤医)	日本消化器病学会消化器病専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名

	T
	日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名
	日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 6 名
	日本神経学会神経内科専門医2名、日本アレルギー学会アレルギー専門医2名
	日本感染症学会専門医 2 名、ほか
外来•入院患者数	外来患者 14,367 名 入院患者 13,167 名(2024 年度実績)
経験できる疾患群	主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験を目標とします。
	本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医とし
	て、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れ
経験できる技術・技能	を通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医
	療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の
	修得をもって目標への到達とします。
 経験できる地域医療・	佐賀県医療センター好生館を基幹施設として、主に佐賀県内医療圏をプログラムとして守備
診療連携	範囲とし、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように
砂原廷汤	訓練されます。
	日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設
	日本感染症学会認定研修施設
	日本内科学会認定教育病院
	日本肝臓学会認定施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本救急医学会専門医指定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
	日本循環器学会認定専門医研修施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本消化器病学会指導施設
学会認定施設	日本神経学会認定専門医教育施設
(内科系)	日本腎臓学会認定教育施設
	日本透析医学会認定施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本内分泌学会認定教育施設
	日本脳卒中学会認定研修教育施設
	日本高血圧学会専門医認定施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本臨床細胞学会教育研修施設
	日本臨床細胞学会認定施設
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本血液学会認定血液研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼動施設 など

佐賀大学医学部附属病院

佐負大字医字部附属病	196
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されています ・適切な労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できます。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されています。 ・敷地内外を問わず保育施設等が利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が 42 名以上在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理 委員会と連携を図ることができます。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しています。 開催にあたっては専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能 な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会の学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	宮園 素明 【内科専攻医へのメッセージ】 本年度より佐賀大学医学部附属病院内科学講座は飯塚病院の専門研修連携施設として登録されました。 自施設の「オール佐賀 内科専門研修プログラム」にてこれまでも多くの内科専門医を輩出してきた実績があります。 「オール佐賀 内科専門研修プログラム」でも充実した指導医・教育施設で generality と subspeciality の調和のとれたより良い内科専門医を育成を行っており、飯塚病院の専門研修連携施設として実りのある研修を行えるよう努めて参ります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 42 名、日本内科学会総合内科専門医 51 名 日本消化器病学会消化器病専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 14 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 12 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来•入院患者数	外来患者 19,676 名(1ヶ月平均) 入院患者 13,948 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	佐賀県医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的医療も経験します。
学会認定施設 (内科系)	日本肝臓学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本糖尿病学会認定教育施設 (I) 日本内分泌学会認定教育施設 血液研修施設

成人白血病治療共同研究機構(JALSG)施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本リウマチ学会教育施設

アレルギー専門医教育研修施設

日本感染症学会研修施設

日本気管支学会認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設

浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

植込型補助人工心臓管理施設

経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設

左心耳閉塞システム実施施設

循環器専門研修施設

成人先天性心疾患専門医連携修練施設

日本胸部疾患学会認定制度認定施設

日本高血圧学会専門医制度認定施設

日本心血管インターベンション治療学会研修施設

日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

日本老年医学会認定施設

日本臨床薬理学会専門医制度研修施設

日本炎症性腸疾患学会 IBD 指導施設

日本カプセル内視鏡学会指導施設

日本消化管学会胃腸科指導施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本消化器病学会認定医制度認定施設

日本肥満学会認定肥満症専門病院

日本神経学会専門医制度教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設

日本認知症学会教育施設認

日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院

日本腎臓学会認定教育施設

日本透析医学会専門医制度認定施設

日本内科学会認定医制度認定大学病院

臨床修練指定病院

日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 		
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・レジデントとして労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(当院精神科医長担当)があります. ・ハラスメント委員会が院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり,利用可能です.	
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医が 24 名在籍しています(下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習を e-lerning を用いて受講(2024 年度実績医療倫理1回,医療安全4回,感染対策4回)します. ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績5回)しています. ・毎月、指導医とともに研修を振り返る時間を確保しています.	
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。	
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に、内科系の学会で年間で一人計 1 演題以上の学会発表をしています。	
指導責任者	和泉 泰衛 【内科専攻医へのメッセージ】 長崎医療センターは、長崎県県央医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります.一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、Common disease の経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます.	
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名, 日本循環器学会循環器専門医 4 名, 日本内分泌学会専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本腎臓学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本血液学会血液専門医 6 名, 日本神経学会神経内科専門医 3 名, 日本アレルギー学会専門医 0 名, 日本リウマチ学会専門医 3 名, 日本感染症学会専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 12 名, ほか	
外来•入院患者数	内科系外来患者 4,931 名 入院患者 6,895 名(令和 6 年度実績)	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。	
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども	
診療連携	経験できます。	
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会專門医修練施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器專門医研修施設	

日本肝臓学会認定施設
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
日本透析医学会認定医制度認定施設
日本血液学会認定研修施設
日本急性血液浄化学会認定施設
日本大腸肛門病学会認定関連施設
日本甲状腺学会認定専門医施設
日本神経学会認定専門医制度准教育施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院・一次脳卒中センター
日本呼吸器内視鏡学会認定専門医制度認定施設
日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医専門研修プログラム基幹施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本高血圧学会高血圧専門医認定施設
胸部・腹部ステントグラフト実施施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設

など

熊本赤十字病院

熊本赤十字病院	
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	・研修に必要な図書室、自習室、インターネット環境があります。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課)があります。
 	・ハラスメント相談員を配置し、適切に対応しています。
1)専攻医の環境	・医療の質の維持・管理・向上に継続的に取り組む組織としてMQCセンターがあります。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、医師室、仮眠室、シャワー室、リラクゼー
	ションルーム、当直室が整備されています。
	・院内に保育所と病児病後児保育室を完備しています。
	・指導医は25名在籍しています。
	1942年は20~10年間のでもより。 -内科専門研修プログラム管理委員会:基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と
	の連携を図ります。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その
	では、一般の一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、
	にめの時間的宗悟と子んより。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員
	会と教育研修推進室を設置します。 団体性記載会員もシファレンスを実現的に主催し、東な医に妥議を美致なは、そのための時
	一研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間のの数を見ませま。
	間的余裕を与えます。
	CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
2)専門研修プログラムの	・地域参加型のカンファレンス研究会
環境	熊本東部地区(内科系持ち回り)内科 Grand Rounds (月1回)
	*院内 Grands Rounds を開業医の先生方にも開放する
	* 時に院外講師を招き、KUMAMOTO GIM などの企画
	菊池 Medical クロスカンファレンス 年 2~3 回
	阿蘇 Medicla クロスカンファレンス 年 1~2 回
	* 内科専攻医が経験した症例の検討およびスタッフの解説・討論の方式
	日本医師会生涯教育講座(病診連携体験学習)
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。 ローキBR
	・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。
	・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の熊本赤十字病院での面談・カンファレンス
	などにより指導医がその施設での研修指導を行います。
	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診
	療しています。
3)診療経験の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
	- 専門研修に必要な剖検(2022 年度 3 体、2023 年度 10 体、2024 年度 8 体)を行っていま
	す。
	・・臨床研究に必要な図書室、自習室などを整備しています。
	·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
4)学術活動の環境	·治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催し、受託研究を行っています。また、
	臨床研究の事務的補助を行っています。
	·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
	内科統括責任者
	加島雅之
指 道青任 <i>者</i>	【内科専攻医へのメッセージ】
	熊本赤十字病院はER型救命救急センターを中心とした医療を展開する急性期病院です。
	100 床を有する、総合内科では臓器別にとらわれることなく、内科診療技能養成に重点を置
	き、総合内科医の育成を目指します。
	主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを
	通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になり
	ます。
	また、当院の特徴であるER型救急の経験を積み、地域住民によく見られる内科疾患から複
	数の症例を抱えたICU管理の必要な重症例まで、幅広く対応できることを目標とします。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本救急医学会救急科専門医 21 名 ほか
外来•入院患者数	総外来患者(実数):70,547 名/年
[2024 年度]	総入院患者(実数):15.826 名/年
[2024 平度]	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を
,	幅広く経験することができます。
 経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
程級できる技術・技能	広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	急性期医療を中心に、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経
療連携	験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターペンション治療学会研修施設 日本事の器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器学会気管支鏡専門医認定施設 日本神経学会専門医認定制度研修教育病院 日本 教急医学会指導底 とおります おりまず ありまず ありまず ありまず ありまず ありまず ありまず ありまず あ

済生会熊本病院

済生芸熊本病院	
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります
認定基準	・常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署(職員健康管理室)があります
【整備基準 24】	
1)専攻医の環境	・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています
	・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整
	備されています
	・敷地内に院内保育園があります
	・指導医は43名在籍しています
	・当院にて研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と人材開発室を設
	置します。また、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その
	ための時間的余裕を与えます
認定基準	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための
【整備基準 24】	時間的余裕を与えます
2)専門研修プログラム	・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 5 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時
の環境	間的余裕を与えます
	・地域参加型のカンファレンス(基幹施設:胸部 X 線を読み解く会, 熊本消化器カンファレン
	ス,熊本消化器画像診断研究会,済生会熊本病院緩和ケア研修会等)を定期的に開催し,
	専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度開催実績 2 回:受講者 10 名) を義務付け、そのための時間的余裕を与えます
	を義務的け、そのための時間的未格を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に人材開発室が対応します
	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 9 分野以上で定常的に専門研修が
認定基準	「つりイエノムに小り内径関域 13 万野のフラダくとも 9 万野以上 C足吊的に等门場 18 万里のフラグなくとも 9 万里以上 C足吊りに等门場 18 万里のフラグなくとも 9 万里のエラグない 18 万里のフラグなくとも 9 万里のエラグは 18 万里のフラグなくとも 9 万里のエラグは 18 万里のフラグなくとも 9 万里のエラグない 18 万里のフラグない 18 万里の 1
	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 50 以上の疾患群)について研修できます
3)診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検(2022 年度:4 体, 2023 年度:1 体, 2024 年度:2 体)を行っていま
0/027泉小工河穴 0/22泉 2九	す 明
	- ^ ・臨床研究に必要な図書室、オンライン図書などを整備しています
認定基準	・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催しています
【整備基準 24】	・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています
	一門和哉
	◆研修の特徴
	当院は、熊本県熊本医療圏にあり、救命救急センターを有する急性期病院であり、国際病
	院機能評価 JCI を取得しています.
	重症・救急患者はもちろん、コモンディジーズから複数の病態を持つ患者の診療など幅広く
	経験を積むことができます、併せて、様々なキャリアや資格を有する指導医が多数在籍して
指導責任者	いるため、サブスペシャルティ領域まで踏み込んだ専門的な知識・技術も修得することがで
	きます.
	また、地域における急性期病院であるため、それぞれの役割を担う施設との病病連携や病
	診連携も多数経験します.
	当院では、医師のみならず、各職種が専門性を発揮しながら診療にあたります. 内科系・外
	科系問わず各診療科の垣根も低く、複数の診療科、多職種にて行われるチーム医療は自
	慢できる特徴の一つです。
	日本内科学会総合内科専門医 43 名
	日本消化器病学会消化器専門医 11 名
指導医数	日本消化器内視鏡学会 10 名
(常勤医)	日本循環器学会循環器専門医 20 名
	日本腎臓学会専門医3名
	日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名
	日本血液学会血液専門医 2 名

	<u></u>
	日本神経学会神経内科専門医 6 名
	日本感染症学会専門医 2 名
	日本糖尿病学会専門医 1 名
	日本肝臓学会専門医 5 名
	日本臨床腫瘍学会専門医3名 ほか
以本 100年之米	総外来患者数(実績):137,362 名
外来·入院患者数 	総入院患者数(実績):134,717 名
タFAマキュ rt 中 #¥	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 12 領域, 70 疾患群の症例を
経験できる疾患群 	幅広く経験することができます.
/DEAーナフサ/に サイト	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
経験できる技術・技能	幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます.
	日本消化器病学会認定医制度認定施設
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
	日本集中治療医学会専門医研修施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設(CVIT)
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本脈管学会認定研修指定施設
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本腎臓学会研修施設
	日本透析医学会認定医制度認定施設
	日本腹膜透析医学会認定 CAPD 教育研修機関
学会認定施設 学会認定施設	日本急性血液浄化学会認定指定施設
(内科系)	日本神経学会専門医制度教育施設
(FITTIN)	日本脳卒中学会認定研修教育病院
	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター(PSC)
	日本脳卒中学会 - 次脳卒中センター(PSC)コア施設
	日本感染症学会研修施設
	日本糖尿病学会認定教育施設 I
	日本肝臓学会認定施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本血液学会認定専門研修教育施設
	日本組織子去認定等门听修教育施設日本緩和医療学会
	口平板和医療子云 日本臨床細胞学会認定施設
	日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 など

大分県立病院

大分県立病院	
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大分県非常勤医師として「大分県病院局職員就業規程」及び「大分県病院局職員服務規程」に従います。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は大分県立病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	1)内科領域の救急対応、2)最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4)医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5)専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。 (1)定期的(毎週1回程度)に開催する各診療科での抄読会 (2)医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会(基幹施設 2021 年度実績6回) ※内科専攻医は年に2回以上受講します。 (3) CPC(基幹施設 2021 年度:解剖症例が対象の CPC2回) (4) JMECC 受講(基幹施設:2021 年度開催実績2回:受講者12名※内科専攻医は必ず専門研修1年もしくは2年までに1回受講します。 (5) 内科系学術集会 (6) 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会など
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	大分県立病院内科専門研修施設群は基幹・連携病院のいずれにおいても、 ①内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します(必須)。※日本内科学会本部または 支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講 演会・講習会を推奨します。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。 ③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。 ④内科学に通じる基礎研究を行います。 以上を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。内科専攻医 は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。 なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、大分県立病院内科専門研修プロ グラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	柴富 和貴 【内科専攻医へのメッセージ】 大分県立病院は内科、外科、産婦人科、小児科、麻酔科、形成外科は基幹施設として専攻医を募集します。また他の多くの診療科は連携施設として参加します。専門医を目指す皆さんは新しい制度であるため何かと不安が多いことと思われます。当院は各領域に経験豊富で、教育に情熱のある多くの指導医が在籍しています。専攻医のみなさんの希望を尊重し、さまざまな相談にのりながら、どこに行っても十分に通用する専門医を育成していきます。多くのみなさまの応募を待っています。
指導医数 (常勤医)	37 名
外来•入院患者数	外来患者名 1,573 名(1ヶ月平均) 入院患者 1,097 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	基幹施設である大分県立病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間(専攻医 3 年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、 J-OSLER に登録できます。可能な限り、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。

経験できる技術・技能	大分県立病院内科専門医研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
経験できる地域医療・ 診療連携	大分県立病院は、大分県中部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	専門研修プログラム(内科領域)基幹施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定施設 日本س液学会認定施設 日本血液学会認定施設 日本解臓学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本神経学会教育施設 日本鴻化器学会認定研修施設 日本消化器学会胃腸科導連携施設 日本消化管学会胃腸科導連携施設 日本呼吸器行ンターベーション治療学会研修施設 日本地道学会認定定的 日本地道学会認定指導應設 日本地道学会認定指導施設 日本地道学会認定教育関連施設 日本透析医学学会研修教育施設 日本透析医学学会研修 日本施床細胞学会認定施設 日本統分治療認定医機構認定研修施設 日本常義治療学会 NST 稼働施設 日本常義治療学会 NST 稼働施設 日本認知症学会教育施設 日本認知症学会教育施設 日本認知症学会教育施設 日本認知症学会教育施設 日本認知症学会教育施設

社会医療法人同心会 古賀総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 事攻医の環境 ・ か作らの東欠国産金とインターネット環境があります。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	社会医療法人同心会	<u>古貨総合病院</u>
(整備基準 24) 1)専攻医の環境		・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
1)事攻医の環境	認定基準	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
整備されています。	【整備基準 24】	・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。
指導医は7名在籍しています(下記)。 (内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 - 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 - 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 - 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度 天産)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - OPC を定期的に開催(2022 年度 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - プログラムに所属する全事攻医に JMECO 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - フログラムに所属する全事攻医に JMECO 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1)専攻医の環境	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が
・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。		整備されています。
・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。		
会との連携を図ります。 - 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 - 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 一 「物修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。		
基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。		
京。医療倫理・医療安全・密染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 12 回)し、専攻医に受験を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 「研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 「研修施設群合同カンファレンスを実期的に主催(2024 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 「伊く を定期的に開催(2022 年度 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の救急医療合同カンファレス、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器病療例検討会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全事攻医にJMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全事攻医にJMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設(美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古質総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修計画を行います。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察上でいます。 ・連門番に必要な副検(2022 年度3 体)を行っています。 ・施理委員会を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理を設置し、定期的に関係しています。 ・治験管理を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理を設置しています。 ・治験管理を対しています。・治験では、変渉を表をと問しています。 ・治験管理を対しています。・おりに表述を表表をしています。 ・治験管理を対しています。・おりに表述を表表をしています。・市中病院でありながら、日本全国で脾機計測に使用される「古質の式(臍競長軸×短軸・次の)と提唱しています。・おりに表示を表表をしています。・市中病院でありながら、と問いています。・おりに表述を対しています。・市中病院であり込がら、日本全国で解散計算別にある「13 領域 70 疾患群の症例を軽いてる疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験できる疾患にいて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験できる疾患にいて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を		
医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 12 回)し、専攻医に受護を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (整備基準 24] 2)専門研修プログラム の環境 「整備基準 24] 2)専門研修プログラム とでを実期的に開催(2022 年度 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (PC を定期的に開催を与えます。) (PC を定期的に開催を与えます。) (PC を定期的に開催を与えます。) (PC を定期的に開催を与えます。) (PC を定期的に開催を与えます。) (PC を定期的に開催を受害、(PT のための時間的余裕を与えます。) (PC を定期的に開催を受害、(PT のための時間的余裕を与えます。) (PT のための時間の余されのの時間的余裕を主す。) (PT のための時間の余されのの時間の余さを表が付いるといのの時間の余さを表が付いるの時間の余されのの時間の余さを表が付いるの時間の余されのの時間の余されのの時間の余されのの時間の余されのの時間の余されのの時間の余されのの時間の余されのの時間をではのいるの時間の余されのの時間をではのいるの時間をではのいるの時間をではのいるの時間の余されののに関係のではのいるのはのいるのはのいるのはのいるのはのいるのはのいるのはのはのいるのはのはのはのいるのはのはのいるのはのはのはのは		
図定基準 [整備基準 24] 2)専門研修プログラム の環境		
研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。つけ、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の教急医療合同カンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の教急医療合同カンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の教急医療合同カンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の教急医療合同カンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の教急医療合同カンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の教急医療合同カンファレンスに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・		
設定基準 付け、そのための時間的余裕を与えます。		
(空) 中	認定基準	
29早門動参フロクフム の環境	【整備基準 24】	1
・地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の救急医療合同カンファレンス、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器病症例検討会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。・特別連携施設 美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古質総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。・カンキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診験しています。・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。・専門研修に必要な割核(2022 年度 3 体)を行っています。・協理委員会を設置し、定期的に開催しています。・治験管理室を設置し、定期的に開催しています。・治験管理室を設置し、定期的に開催しています。・治験管理室を設置し、定期的に関係しています。・治験管理室を設置し、定期的に関係しています。・1 法験管理室を設置し、定期的に関係しています。・2 (2024 年度実積 4 演題) 構元 寿典 [内科専門医へのメッセージ] 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。東院でありがら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×09)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前を負力かる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医をもた、他の発育を行たいと思っています。病院一同 昔さんを心からお待ちしています。 日本内科学会能合内科専門医 2 名、日本精深病学会専門医 3 名、日本制深等会専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本和液学会・専門医 3 名、日本地族学会神経内科専門医 2 名 ほか 外来患者 10.472 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 548 名 (1 ヶ月平均) を制なく患さるより、「新藤、野頂目表」にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅は、経験できる疾患群 (疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を 幅に気を終するとができます。きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を 幅に気を終することができます。きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を	2)専門研修プログラム	
フファレンス、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器病症例検討会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設(美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古質総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設で研修指導を行います。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な部域(2022 年度 3 体)を行っています。 ・ 論理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治験管理をを設置し、定期的に関係しています。 ・ 治験管理を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治験管理を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治理委員会を設置と対しており、主がの主がを表しています。 ・ 市病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古質の式(脾臓長軸×短軸× 0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 ・ 中病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 ・ 中病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 ・ 中病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 ・ 中病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 ・ 中病院全体で「内科専門医」を名、日本衛環器学会循環器専門医 3 名、日本規に経験学会専門医 1 名、日本関係病学会専門医 3 名、日本規定会会専門医 2 名、日本荷環器学会循環器専門医 3 名、日本規に経験学会専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか 外来患者 10.472 名(1 ヶ月平均)入院患者 548 名(1 ヶ月平均) ・ およ群の症例を確な経験できる疾患群 個様に疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を確など終するとができます。 ・ きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を確なくないます。 ・ されています。 ・ およれています。・ およれています。・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の環境	=
次医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。・特別連携施設(美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古質総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 ・ かリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 市・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・		
・プログラムに所属する全専攻医に JMECO 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設(美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古質総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 10 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。・専門研修に必要な剖検(2022 年度 3 体)を行っています。 ・ 施味研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期のに関係しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・ 2(2024 年度実績 4 演題) 構元 寿典 【内科専門医へのメッセージ】 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。 市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古質の式(脾臓長軸×短軸× 0.9)」を提唱とした病院であり、患かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本衛環器学会権で発の科専門医 6 名、日本消化器専門医 2 名、日本循環器専門医 6 名、日本循環器等専門医 3 名、日本加入科学会集前医 7 名、日本循環器等専門医 2 名、日本加入科学会権内科専門医 2 名 ほか 外来・入院患者数 4 名(1 ヶ月平均)を 古ので稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 を除むできる疾患群 塩素の発酵・大き機能できる様・大き		
ます。		
・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設(美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古質総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。・専門研修に必要な剖検(2022 年度 3 体)を行っています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に関係しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に関係しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。 ・ 1 日本内科学会講演会を別に同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。 ・ 1 日本内科学会講演会を関係しています。 ・ 1 日本内科学会講演会を関係しています。 ・ 1 日本内科学会講演会を関係しています。 ・ 1 日本内科学会議演会を関係しています。 ・ 2024 年度実績 4 演題) ・		
・特別連携施設(美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古質総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。・専門研修に必要な剖検(2022 年度 3 体)を行っています。 ・ 20 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。・専門研修に必要な図書室などを整備しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審告会を開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審告会を開催しています。 ・ 1 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。(2024 年度実績4 演題) ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。(2024 年度実績4 演題) ・ 場所は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。市中病院でありな時によりながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古質の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医/を育てたいと思っています。病院一同皆さんを心からお待ちしています。日本内科学会指導医7名、日本科学会総合内科専門医3名、日本湘尿病学会専門医1名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本湘尿病学会専門医1名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本湘尿病学会専門医1名、日本循環器学会循環器専門医2名 ほか ・ 外来・入院患者数 終験できる疾患群 10.472名(1ヶ月平均)入院患者 548名(1ヶ月平均) ・ さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広、経験することができます。 ・ 特別で表述では、特別で表述の証明を記録ができまず。・ 13 領域 70 疾患群の症例を幅広、経験することができます。 13 領域 70 疾患群の症例を		
会病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。		
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境 - 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。 - 9 再門研修に必要な割検(2022 年度 3 体)を行っています。 - 2 に臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 - 2 に臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 - 3 に無理委員会を設置し、定期的に開催しています。 - 3 に無理委員会を設置し、定期的に開催しています。 - 3 に無理委員会を設置し、定期的に開催しています。 - 3 に 3 に 4 に 4 に 4 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5		
窓定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2022 年度 3 体)を行っています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・2024 年度実績 4 演題) 楠元 寿典 【内科専門医へのメッセージ】 ・当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広〈経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな意味研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員かかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 ・理念のもと、顔も名前も全員かかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 ・日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本規定等会専門医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本規定等会専門医 7 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか外来・入院患者数 10.472 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 548 名 (1 ヶ月平均) ・さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を		合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境 - 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。 - 専門研修に必要な割検(2022 年度 3 体)を行っています。 - 1 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 - 1 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 - 1 治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 - 1 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 - 1 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 - 1 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。(2024 年度実績 4 演題) - 1 満元 寿典 - [内科専門医へのメッセージ] - 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広〈経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。 市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 - 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会専門医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本規定会論で表別である。第一次の強力を開てまた。日本施尿病学会専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか外来・入院患者数 10.472 名(1ヶ月平均)入院患者 548 名(1ヶ月平均) - きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広〈経験することができます。きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を	認宁其淮	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数
3)診療経験の環境		を診療しています。
・ 専門団修に必要な制模(2022 年度 3 体)を行っています。 ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。(2024 年度実績 4 演題) 楠元 寿典 【内科専門医へのメッセージ】 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。 市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本育職病学会専門医 3 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本制尿病学会専門医 3 名、日本権尿病学会専門医 3 名、日本権尿病学会・事門医 3 名、日本権尿の主教を専門医 3 名、日本権尿病学会・事門医 3 名、日本権尿の強力専門医 3 名、日本権尿病学会・事門医 3 名、日本権尿の主教を表を持て、、 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日		・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。
記定基準	3/19/15/14/15/15/15	・専門研修に必要な剖検(2022 年度 3 体)を行っています。
 【整備基準 24】 ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。(2024 年度実績 4 演題) 楠元 寿典 【内科専門医へのメッセージ】 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。 市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本内科学会指導医 7 名、日本 所科学会総合内科専門医 6 名、日本 清化器病学会 専門医 1 名、日本 循環器学会循環器専門医 3 名、日本 糖尿病学会専門医 1 名、日本 循環器学会循環器専門医 3 名、日本 糖尿病学会専門医 1 名、日本 循環器学会循環器専門医 2 名 ほか外来患者 10.472 名 (1ヶ月平均) 入院患者 548 名 (1ヶ月平均) 経験できる疾患群 を対めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例ををはないできる技術・技能 		・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
4)学術活動の環境	認定基準	・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
す。(2024 年度実績 4 演題)	【整備基準 24】	・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。
構元 寿典 【内科専門医へのメッセージ】 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同皆さんを心からお待ちしています。日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医6名、日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医2名、ほか外来・入院患者数外来患者10,472名(1ヶ月平均)入院患者548名(1ヶ月平均) を験できる疾患群 を験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域70疾患群の症例を幅広く経験することができます。	4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしていま
【内科専門医へのメッセージ】 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同皆さんを心からお待ちしています。日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医6名、日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本糖尿病学会専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名 ほか外来・入院患者数外来患者10.472名(1ヶ月平均)入院患者548名(1ヶ月平均) を験できる疾患群 を経験できる疾患群 を経験できる疾患群 をおのて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域70疾患群の症例を幅広く経験することができます。きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域70疾患群の症例を		す。(2024 年度実績 4 演題)
【内科専門医へのメッセージ】 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同皆さんを心からお待ちしています。日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医6名、日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本糖尿病学会専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名 ほか外来・入院患者数外来患者10.472名(1ヶ月平均)入院患者548名(1ヶ月平均) を験できる疾患群 を経験できる疾患群 を経験できる疾患群 をおのて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域70疾患群の症例を幅広く経験することができます。きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域70疾患群の症例を		
当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。 市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同皆さんを心からお待ちしています。日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医6名、日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名 ほか外来・入院患者数外来患者10.472名(1ヶ月平均)入院患者548名(1ヶ月平均)を経験できる疾患群ないて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域70疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
接験できる疾患群 医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同皆さんを心からお待ちしています。日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医6名、日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本施尿学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名 ほか外来・入院患者数 外来患者10,472名(1ヶ月平均)入院患者548名(1ヶ月平均)をわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域70疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
指導責任者 身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。 市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸× 0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか外来・入院患者数 外来患者 10.472 名(1ヶ月平均)入院患者 548 名(1ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
日得真任者 入れた内科専門医を目指すことができます。 市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸× 0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均)入院患者 548 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸× 0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本施液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均)入院患者 548 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。	指導責任者	
0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均) 入院患者 548 名(1ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 経験できる技術・技能 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を		
理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本施済学会直液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほかりまる大阪患者数り、水・、入院患者数り、水・、入院患者数り、水・、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、大の、		
門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか 外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均) 入院患者 548 名(1ヶ月平均) を験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 を発発できる技術・技能 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を		
日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均) 入院患者 548 名(1ヶ月平均) をわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を		
指導医数 (常勤医) 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか 外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均) 入院患者 548 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。		
(常勤医) 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか 外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均) 入院患者 548 名(1ヶ月平均) をわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を	七治压光	
日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名 ほか 外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均) 入院患者 548 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 をおできる技術・技能 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を		
外来・入院患者数 外来患者 10,472 名(1ヶ月平均) 入院患者 548 名(1ヶ月平均) 経験できる疾患群 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 を称できる技術・技能 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を	(吊勤医)	
経験できる疾患群 さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 さわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を		
経験できる疾患群 幅広く経験することができます。 経験できる技術・技能 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を	外米•人院患者数	
幅広く経験することができます。 経験できる技術・技能 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を	経験できる疾患群	
経験できる技術・技能()	1237 00 000041	
幅広く経験することができます。	経験できる技術・技能	
	『中工物大 く ご (ひ) 又 [刊] 「] 又 引し	幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども
診療連携	経験できます。
	日本内科学会認定医制度教育関連施設
	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本血液学会認定血液研修教育施設
	日本腎臓学会研修施設
学会認定施設	日本透析医学会専門医認定施設
(内科系)	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本甲状腺学会認定専門医施設
	日本肝臓学会認定施設

宮崎市郡医師会病院

呂崎市郡医師会病院	
	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	·宮崎市郡医師会病院医師として労務環境が保障されています。
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・メンタルヘルスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります。
1)専攻医の環境 	・ハラスメント委員会が宮崎市郡医師会に整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
	・指導医は20名在籍しています。
	内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員
	会との連携を図ります。
	- ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修セ
	金弁/// おびにおいています。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えます。
。 ま四班 <i>は</i> - <i>に</i> 1 の	一研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間はないがある。
2)専門研修プログラムの	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
環境	·CPC を定期的に開催(2024 年度実績 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	・地域参加型のカンファレンス(宮崎心臓病研究会、地域連携で心不全を考える会、心エコー
	研究会、宮崎健康フォーラム 2024 年度実績 14 回)を定期
	的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(開催実績無し)を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。
	日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会及び臨床研修
	センターが対応します。
	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 4 分野以上)で定常的に専門
3)診療経験の環境	研修が可能な症例数を診療しています(上記)。
0/100 /永小工両人 00 30米/元	-70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。
	·専門研修に必要な剖検(2023 年度 10 例、2024 年度 6 例)を行っています。
	·臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。
	·倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 12 回)しています。
4)学術活動の環境	·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2021 年度実績 12 回)しています。
	·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2021 年度実績
	4 演題)をしています。
	宮崎市郡医師会病院 副院長 柴田 剛徳
	【内科専攻医へのメッセージ】
北洋主に力	宮崎市郡医師会病院は宮崎県宮崎東諸県医療圏における急性期基幹病院として近隣の
指導責任者	病院、医院、救急隊と密に連携をとり、宮崎市民から求められる最善の医療を心がけていま
	す。また指導医のもと主担当医として、患者一人一人に対して入院から退院までの適切な診
	療だけでなく、患者の社会的背景をも包括する全人的医療と患者に思いやりを持った医療を
	目指し、実践しています。
指導医数	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、
	日本循環器学会循環器専門医 16 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、
	日本福珠研子会福珠研寺 佐 10 4、日本自城州子会寺 佐 1 4、 日本不整脈心電学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、
	日本不量脈心電子云寺 医 3 日、日本呼吸器子云呼吸器等 医 1 日、 日本高血圧専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、
(常勤医)	日本高皿圧等 医 1 名、日本ワフェデチ云等 医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、
	口本教总医子云教总科等门医 3 名、日本呼吸器内倪覡子云等门医 1 名、 日本集中治療医学会専門医 3 名、米国集中治療専門医 1 名、米国麻酔科専門医 1 名
	日本集中治療医学会専門医 3名、木国集中治療専門医 1名、木国麻酔科専門医 1名 など
以 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	/°4℃
外来•入院患者数	外来患者 2591 名(1ヶ月平均) 入院患者 740 名(1ヶ月平均)
[2023 年度]	

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
 経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
小工場及してものう文中に「文化	広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経
療連携	験できます。
	日本内科学会認定医制度教育関連病院
	日本消化器病学会認定施設
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
学会認定施設	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
(内科系)	日本動脈硬化学会教育病院
	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本臨床細胞学会認定施設
	日本高血圧専門医研修認定施設
	日本集中治療医学会専門医研修施設 など

公益財団法人慈愛会今村総合病院

公益財団法人慈愛会今	<u>村総合病院</u>
認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・今村総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が今村総合病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・企業主導型保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラム の環境	・指導医は10名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者,プログラム管理者(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024年度開催実績1回:受講者5名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024年度開催実績1回:受講者5名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても35 以上の疾患群)について研修できます。・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表をしています。
指導責任者	西垂水 和隆 【内科専攻医へのメッセージ】 総合内科では屋根瓦の中心となって救急・病棟・集中治療・感染症・膠原病診療について 研修、指導を行う。その他血液内科・脳神経内科・消化器科・循環器科などの専門性の高い 診療科での研修も可能。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 14名 日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本循環器学会循環器専門医 4名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2名、日本血液学会血液専門医 6名、 日本神経学会神経内科専門医 4名 ほか
外来·入院患者数	外来患者 12,926 名(1 ヶ月平均) 入院患者 10,702 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども 経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設
日本リウマチ学会教育施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設)
日本臨床神経生理学会認定施設準教育施設(筋電図・神経伝導分野)
日本臨床細胞学会認定施設
日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 など

霧島市立医師会医療センター

・初期臨床研修制度基幹型所替指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネッは環境有線 LAN、Wi-Fi があります。 ・霧島市立医師全医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切すが息しています。 ・メンタルストレスに適切する的書およびハラスメント窓口として労働安全衛生委員会があります。産業医および心理が対応しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眼室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・数地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。 ・粉本専門医体でのでして、動物できるように、休憩室、更衣室、仮眼室、シャワー室、当直室が登場されています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会企の連携を包以ます。 ・ 格特施院内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会会を設置します。 ・ 医療機理・医療安全・感染対策清調会を定期的に開催(2024 年実績、教育急理 2 回し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 方面グラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムにによる定期的な電話が動間での面談・カンファレンスなどにより原格指導を行います。 ・ 自中専門機構による態度兼理動者に医療秘書課が列のします。 ・ 自中専門機構による態度兼理動者に医療秘書課が列のします。 ・ 自・中海経域域は、2 年期のうちを分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 市門線に必要な創験を行っています。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 市門線に必要な創験を行っています。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	務局巾立医師会医療で	<i>-</i>
・ 祭島市立医師金医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として労働安全衛生委員会があります。産業医および心理師が対応しています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワ一室、当直室が整備されています。 ・ 数地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。 ・ 散地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。 ・ 指導医は8名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会会の選携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・原染対策議督会を実施的に開催と2024 年実板、教育倫理と回、医療安全、原染学対策議督会を実期的に開催と2024 年実板、教育倫理と回、医療安全と、原染学対策議督会を実施的に関係できます。 ・ の (
・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハマスメント窓口として労働安全衛生委員会があります。産業医および心理師が対応しています。 ・ 女性専攻医が安心して動務できるように、株憩室、更衣室、仮眼室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 教地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。 ・ 新地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。 ・ 府科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との選携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策論習を定規的に開催(2024 年実積、教育倫理・2回、医療安全・感染管理 2回し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 佐衛健・医療安全・起染対策論習を定規を支援を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 作別連携能設の専門研修では、症例指導医と飯塚会院院の日当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより所を指導をのり担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより所を指導をがで、まず、・ 特別連携能設の専門研修では、症例指導医と飯塚会院院の担当指導医が連携しています。・ 1 日本専門医機構による施度発き調査に医療秘書課が対応します。・ 1 中本専門医機構による施度発き調査に医療秘書課が対応します。・ 7 の 失患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。専門新修に必要な割検を行っています。 ・ 専門新修に必要な割検を行っています。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN, Wi-Fi)があります。
1) 専攻医の環境 があります。産業医および心理師が対応しています。		・霧島市立医師会医療センター専攻医として労務環境が保障されています。
・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眼室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に 24 時間対応院内にども圏、院内学童保育があり、鶏児保育も含め利用可能です。 ・ 指導医は 8 名在籍しています ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で開修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績、教育倫理 2 回、医療安全・2 ・感染管理 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECO 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医が連携し研修指導を行います。なり、中の大力アレンスなどにより研修指導を行います。・ カルキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。。 ・ カッキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。・ カルキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。・ カの表に必要な図書室などを整備しています。・ 海門研修に必要な創後を行っています。・ 海門研修に必要な創後を行っています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期のに対験審査委員会を開催しています。・ 治験事務局を設置し、定期のに対験審査委員会を開催しています。・ 治験事務局を設置してきた自治医療とのの作用を持続を対しています。更にしまが表が変しています。更にしまが表が変に、看りまのの定期医療と全見で対応でいます。 現まが表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表があり、表別やア海域・地域包括ケア病球を備え、在宅医療支援診療がと連携し、名、日本関係を図を、第1を生期ののとり、表別ののとり、表別のでで、中でアット・エーです。 日本内科学会総を研究を構造しる、18 中、年、手術的、18 日本日、4 日本関係を登記を確実器専門医 1 名、日本が大学会専門医 2 名、10 日本 内が必要を開度 1 名、日本 ルド・学会専門医 2 名、10 日本内外必等会専門医 1 名、日本衛に保護等のの、18 日本 日本原理を開き 1 名、日本衛に保護を開き、1 名、日本衛に保護を開き、1 名、日本衛に保護を開き、1 名、日本衛に関連を開き、1 名、日本衛に関係を関係で、1 名、日本衛に関係を関係で、1 名、日本衛に関係を開きないないな症が、1 2 日本内科学会認を確定を見る。 1 名、日本衛に関係を関係を対しています。 1 名、日本衛に関係を関係を対しています。 1 名、日本衛に関係を関係を対しています。 1 名、日本衛に関係を表しています。 1 名、日本衛に関係を関係を対しています。 1 名、日本衛に関係を関係を開び、1 2 日本のののでは、1 2 日本ののでは、1 2 日本ののでは、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののででは、1 2 日本ののででは、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本のでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本ののでが、1 2 日本のでが、1 2 日本ので、1 2 2 日本ので、1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として労働安全衛生委員会
整備されています。 ・ 熟地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。 ・ 指導医は8 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修プログラムの研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療機理 医療安全・感染対策講習会を実期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回、医療安全 2. 感染管理 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ (PC を要時開催(2024 年実績 2 回)し、車攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・ プログラムに所属する全専攻医に JMECO 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 持別連携施設の専門研修では、症例指導医と版環病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。 ・ 古本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・ 1 中本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち金分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち金分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。・ 専門研修に必要な制検を行っています。・ 第一にでは、1 中海の学生を構造しています。・ 海門研修に必要な制をを行っています。・ 治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。・ 治理内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 お 一 本内科学会設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 また、1 内科専攻医へのゲッセージ 1 当院の施床研修では、原内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療指域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在第し研修指導の中心的役割を果たしています。 第「内科事攻医へのゲッセージ」 当院の施床研修では、原内トップクラスの外科系内科系指導医が前で活り、いつでも気軽にの料に観ぎをきてできます。 第「内科事效医の外の内科系内科系指導医の情報を発のしました。 1 本の科学会設での科医 8 名、 初期臨床研修を8 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に使用を得しまる。 1 本の科学会設で内科医 8 名、 日本河北路管理を1 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本河北路管学会認定を1 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本河北路管学会認定に第4 日本内科学会認定内科医 8 名、日本ブライマリ・ケア連合学会規定 1 名、日本版保護学会構選整理門医 1 名、日本成子学会専門医 2 名、ICD1 名、日本衛と登全・専門医 1 名、日本衛と標等・研修連と 1 名、日本衛教教学の研修性神等と 1 名、日本内科学会専門医 1 名、日本衛院の会議を開発と 1 名、1 日本の大学会認定専門医 1 名、日本衛院病学学 4 名、1 日本商の会議を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開始を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開始を開始を開始する 1 日本の科学会認では、1 日本の保護・1 日本の科学会認では、1 日本の科学会認では、1 日本の保護・1 日本の大学会に対する 1 日本の本学会に対する 1 日本の大学会に対する 1	1)専攻医の環境	があります. 産業医および心理師が対応しています。
・ 敷地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。 ・ 指導医は8名在籍しています ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理 医療女全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2回 医安全 2. 感染管理 2回 DL、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムの環境 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。 ・ ・ ・ ・ 本専門医機構による施設を地調査に医療秘書課が対応します。 ・ ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。 ・ ・ ・ ・ 専門研修に必要な創験を行っています。 ・ ・ ・ ・ ・ 専門研修が可能な症例数を診察しています。 ・ ・ ・ ・ ・ 専門研修に必要な創験を行っています。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
す。		整備されています。
す。		- ・敷地内に 24 時間対応院内こども園 院内学童保育があり 病児保育も含め利用可能で
・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理と医療安全・原染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回) L。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムの環境 ・プログラムの関係を修理する。内科専門研修では、変換に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問で面談、カンファレンスなどにより研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問で面談、カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても45以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な図書室などを整備しています。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		す 。
・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理と医療安全・原染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回) L。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムの環境 ・プログラムの関係を修理する。内科専門研修では、変換に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問で面談、カンファレンスなどにより研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問で面談、カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても45以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な図書室などを整備しています。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		・指導医は8名在籍しています
具会との連携を図ります。 - 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 - 医療倫理・医療会全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回、医療安全・原株倫理・医療会生・原染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回、医療安全・原株倫理・医療会生・原染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回、医療安全・原株倫理・医療会生・原味会・感染管理 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 - ・日本専門医機構による施設実地類者に医療教書課が対応します。 - ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 - ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 - ・専門研修に必要な図書室などを整備しています。 - ・・専門研修に必要な図書室などを整備しています。 - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
- 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 - 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回)、医療安全・感染管理 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - 2)専門研修プログラムの 環境		,
 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年実績 教育倫理 2 回, 医療安全 2、感染管理 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を要時間性(2024 年実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ サフログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。・ 日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ カルチュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 市研修に必要な割検を行っています。 ・ 海門研修に必要な割検を行っています。・ 海門研修に必要な割検を行っています。・ 油酸事務局を設置し、必要時に治検審者委員会を開催しています。・ 油酸事務局を設置し、必要時に治検審者委員会を開催しています。・ 治検事務局を設置し、必要時に治検審者委員会を開催しています。・ 治検事務局を設置し、必要時に治検審者委員会を開催しています。・ 日本内科学会議演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 「内科専攻医へのメッセージ」当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。更に診療数目のよりに診療を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,42 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科目の・12 時間体制管理の HCU 病たもあり、緩和のア病様、地域包括ケア病様を備え、在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広(学へる環境にあり医局の雰囲 気は表もか)、緩和の回復期医療、慢性期医療など極広(学へる環境にあり医局の雰囲 気に大変膨わかアカバールで・1 日本内科学会総定に対しての、1 日本内科学会認定を 1 名、日本内科学会認定を 1 名、日本内科学会認定を 1 名、日本内科学会び産業等を 2 名、日本ガライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本内科学会等間医 2 名、日本 1 本 1 年 1 日本 1 日本 1 日本 1 日本 1 日本 1 日本		
安全 2. 感染管理 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を要時開催 (2024 年実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 方のでのとで要時開催 (2024 年実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンフレンスなどにより研修指導を行います。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。・ 専門研修に必要な到検を行っています。 ・ 16 無事務局を設置し、定期的に開催しています。 ・ 16 無事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。・ 16 由本内科学会議演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 ・ お時事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会議演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 ・ おり 浩 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常動医師が在籍し研修指導の中心的役割を果指導責任者 ・ 指導責任者 ・ 指導責任者 ・ おり ・ 日本 ・ 日		
2) 専門研修プログラムの		
環境 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な副検を行っています。 ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 治験事務局を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常動医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に取り返済があります。 花程、254 床、常動医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に敬じな。256 件/年、手術約 1.442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療、561 内科専門医 5名、日本内ルとの速機や会指導医・専門医 1名、日本海域器学会で発見、1名、日本市の発送定内科医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本海で経営学会指導医・現た日、経験をマンモジアの対策を応じています。25 日本、16 日本・17 ライマリ・ケア連合学会認定医 1名、日本・18 日本・18 日本・	2) 恵門研修プログラムの	
・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。・日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・海門研修に必要な図書室などを整備しています。・施味研究に必要な図書室などを整備しています。・治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・治験事務局を設置し、定期的に開催しています。・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 ・お田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常動医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 東に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよ、救急車約3,333 件/年、内視鏡検査約6,356 件/年、手術約1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療、支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性知め包括りで消棟を備え、在宅医療、受性別医療の受期気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医5名、日本内科学会認定内科医8名、日本内科学会認定の環境時間と1名、日本内科学会認定で演覧と指導医1名、日本の清報器専門医1名、日本の清報器専門医1名、日本面環器等全の研修指導医1名、日本面環器等会認定で重視器専門医1名、日本衛環器等空島配定衛環路専門医1名、日本衛環器等で会専門医2名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本語療病学会研修指導医1名、ICD1名、日本語が開始する場合に対しませばればればればればればればればればればればればればればればればればればればれ		
ます. ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います.なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います. ・日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します. ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。 ・ 適に研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会議演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。更に診療利間わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟、地域包括ケア病棟、地域包括ケア病棟、地域包括ケア病棟、地域包括ケア病棟、地域包括ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療を規管診所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復括でア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復括でアットホームです。日本内科学会総を開入を開入を構造を表し、日本消化器内執験学会指導医・専門医 1 名 超音波学会認定情報と認定信報と認定信報器・認定医 2 名、日本ブライマリ・ケア連合学会記定信報器・認定医 2 名、日本西福環器学会認定信頼器専門医 1 名、日本循環器学会認定信頼器専門医 1 名、日本循環器学会の電環器専門医 1 名、日本循環器学会の定義で書専門医 1 第2 日本 日本循環器学会認定信頼器専門医 1 名、日本循環器学会の定義理器専門医 1 名、日本語の研究・経済を持定・認定を名によれています。 日本 1 日本	*****T	
・特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・海門研修に必要な剖検を行っています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治理委員会を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また。国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内・ップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。病床数254 床、常勤医師58 名、初期臨床研修医8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、教急車約3,333 件/年,内視鏡検査約6,356 件/年、手術約1442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問が24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和力ア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療を援診療所と連携し終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医5名、日本内科学会認定病の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医5名、日本消化器内領域学会指導医・専門医1名超音波学会認定所遺歴を1名、日本活化器内領域学会指導医・専門医1名超音波学会認定所遺歴を1名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本循環器学会研修指導医1名、日本流波学会研環器専門医1名、日本流域器学会研修指導医1名、日本流波学会専門医1名、日本流波学会研環器専門医1名、日本高環器学会研修と名、日本流波学会専門医1名、日本語環報学会研修指導医1名、日本高環器学会研環器専門医1名、日本語環器学会研環器専門医1名、日本語環器学会研環器専門医1名、日本語環器学会研環器専門医1名、日本語環器学会専門医2名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本病分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本病分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ICD1名、日本病分泌学会専門医(内科)1名、日本語環報学会研修指導医1名、ICD1名、日本語環報学会研修指導医1名、ICD1名、日本語域を対しませばないる。 「中国などの対しますないるのは、ICD1名		
行います、なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な削検を行っています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・倫理委員会を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問かす 24 時間体制管理の HOU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会記定医 1 名、日本海に環器学会配定を 1 名、日本海に環器等専門医 1 名、日本施環器等専門医 1 名、日本施環器等専門医 1 名、日本本循環器等専門医 1 名、日本本循環器等専門医 1 名、日本本循環器等専門医 1 名、日本本の金融で発展書専門医 1 名、日本の分泌学会専門医(0,种科)名、日本維尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な割検を行っています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治維事務局を設置し、必要時に治験審委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、教育の中心的役割を果たしています。看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、教育の中心の役割を果たしています。 看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、教育の中心の役割を果たしています。 看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、政策の中心ので入事、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学へる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会 1年の科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名、超音波学会認定医・指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名、日本ブライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本循環器学会認定を1 名、日本循環器等専門医 1 名、日本循環器等専門医 1 名、日本循環器等専門医 2 名、日本循環器等専門医 2 名、日本循環器等専門医 2 名、日本不便会専門医 2 名、ICD1 名、日本の分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本都原病学会研修指導医 1 名、IEか		
- 日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 - 10 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 45 以上の疾患群)について研修できます。 - 専門研修に必要な剖検を行っています。 - 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 - 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 - 治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 - 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また,国内外の内科系学会での学会発表をもいいます。 - 日本内科学会議演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また,国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき。看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療利問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和カア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会会合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器向環線学会間と第1・記で医 1 名、日本消化器内検学会表情導医・専門医 1 名 超音波学会認定医・指導医 1 名、日本海に器内対験学会指導医・専門医 1 名、日本海に環器等学属環幕専門医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ISD1 名、日本内分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ISD1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ISD1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ISD1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ISD1 名、IB本糖尿病学会研修指導医 1 名、ISD1 名、IB本糖尿病学会研修指導医 1 名、IBD1 A、IBD1 A A A A A B A A B A A B A A B A B A B		
診療経験の環境		
3)診療経験の環境 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても45以上の疾患群)について研修できます。・専門研修に必要な剖検を行っています。 ・協床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。・ 治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています,病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、他で記を持続を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末別の入院・在宅医療、急性期の回復期医療・慢性期医療など幅広く学へる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、にの1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、にの1 名、日本循環器学会専門医 2 名、にの1 名、日本福環器学会補環器専門医 2 名、にの1 名、日本福環器学会循環器専門医 2 名、に01 名、日本病療器学会研修指導医 1 名、にの1 名、日本相環器学会研修指導医 1 名、にの1 名、日本相環路学会研修指導医 1 名、に01 名、日本内分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、に01 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本種環路学会研修指導医 1 名、に01 名、日本格尿病学会研修指導医 1 名、に01 名、に01 名、日本格尿病学会研修指導医 1 名、に01 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、に01 名、に01 名、日本格尿病学会研修指導医 1 名、に01 名、に01 名、日本格尿病学会研修と1 名、日本格尿病学会研修と1 名、日本格尿病学会研修を1 名、日本格尿病学会研修と1 名、日本格尿病学会研修と1 名、日本格尿病学会研修と1 名、日本格保療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格尿病学会研修と1 名、日本格保療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修性学会研修と1 名、日本格療学会研修を1 名、日本格療学会研修を1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修を1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、日本格療学会研修と1 名、1 名、1 名、1 名、1 名、1 名、1 名、1 名、1 名、1 名、		
・専門研修に必要な図書室などを整備しています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟・地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療・慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本運賃器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会高環器専門医 2 名、日本循環器学会高環器専門医 2 名、ICD1 名、日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、IGD1 名、日本内分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、IGD1 名、日本内分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、IGD1 名、日本内分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、IGD1 名、日本病院器学会研修指導医 1 名、IGD1 名、日本病院器学会研修指導医 1 名、IGD1 名、日本内分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、IGD1 名、IBから対容が表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する場所に対容を表する。	3)診療経験の環境	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本ガライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本オライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本でラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導を1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本加液学会認定哺環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、日本の分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ICD1 名、日本格成務等		
・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本の決定を認定を変とる、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本加液学会認定専門医・指導医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本施環器学会循環器専門医 1 名、日本の分泌学会専門医 2 名、ICD1 名、日本の分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本非尿病学会研修指導医 1 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ICD1 名、日本統定は、ICD1 名、日本統定は、ICD1 名、日本統定は、ICD1 名、日本統定は、ICD1 名、日本統定は、ICD1 名、ICD1 名、日本統定は、ICD1 名、ICD1 名、日本統定は、ICD1 名、ICD1 A ICD1 A		
・治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年,内視鏡検査約 6,356 件/年,手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変脈やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会開湯料認定医 1 名、日本消化器の学会指導医・専門医 1 名 超音波学会認定医・指導医 1 名、人本消化器の会議を受き指導医・名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 2 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本ブライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本の分泌学会専門医・指導医 1 名、日本を師会認定産業医 2 名、日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本都環器学会循環器専門医 1 名、日本の分泌学会専門医 (内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療・慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名 超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会記定医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会認定専門医 2 名、ICD1 名、日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか	小労先活動の理接	
科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。 杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本内視鏡学会指導医・専門医 1 名 超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会領環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科) 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、IEか	4/子們/11到707現現	
杉田 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床, 常勤医師 58 名, 初期臨床研修医 8 名の中規模病院で, いつでも気軽に他科に相談でき, 看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく, 救急車約 3,333 件/年, 内視鏡検査約 6,356 件/年, 手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟, 地域包括ケア病棟を備え, 在宅医療支援診療所と連携し, 終末期の入院・在宅医療, 急性期の回復期医療。慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会記定医 2 名、日本流影認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、ICD1 名、日本の分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
【内科専攻医へのメッセージ】 当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名起音波学会認定医・指導医 1 名、段診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療・慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会記定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会記定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本循環器学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。 病床数 254 床, 常勤医師 58 名, 初期臨床研修医 8 名の中規模病院で, いつでも気軽に他科に相談でき, 看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく, 救急車約 3,333 件/年, 内視鏡検査約 6,356 件/年, 手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています. 更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療。慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです. 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、段診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
指導責任者 たしています、病床数 254 床、常勤医師 58 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本の大マリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本の大マリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会調理器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、日本の分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
病床数 254 床,常勤医師 58 名,初期臨床研修医 8 名の中規模病院で,いつでも気軽に他科に相談でき,看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく,救急車約 3,333 件/年,内視鏡検査約 6,356 件/年,手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています.更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え,在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療。慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本循環器学会認定産業医 2 名、日本加液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,333 件/年、内視鏡検査約 6,356 件/年、手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療。慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか	指導責任者	
鏡検査約 6,356 件/年, 手術約 1,442 件/年などの急性期医療に全員で対応しています. 更に診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟, 地域包括ケア病棟を備え, 在宅医療支援診療所と連携し, 終末期の入院・在宅医療, 急性期の回復期医療. 慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです. 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会同理器専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
診療科問わず 24 時間体制管理の HCU 病床もあり、緩和ケア病棟, 地域包括ケア病棟を備え, 在宅医療支援診療所と連携し, 終末期の入院・在宅医療, 急性期の回復期医療. 慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです. 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会同医 2 名、日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
え,在宅医療支援診療所と連携し,終末期の入院・在宅医療,急性期の回復期医療.慢性期 医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです. 日本内科学会総合内科専門医5名、日本内科学会認定内科医8名、 日本消化器管学会胃腸科認定医1名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医1名 超音波学会認定医・指導医1名、検診マンモグラフィ読影認定医1名、 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医2名、 (常勤医) 日本プライマリ・ケア連合学会認定医1名、日本医師会認定産業医2名、 日本加液学会認定専門医・指導医1名、日本循環器学会循環器専門医1名、 日本循環器学会認定循環器専門医1名、日本アレルギー学会専門医2名、ICD1名、 日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ほか		
医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。 日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、 日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名 超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、 (常勤医) 日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、 日本加液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、 日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本内科学会認定内科医 8 名、 日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名 超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、 (常勤医) 日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、 日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、 日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
日本消化器管学会胃腸科認定医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 1 名超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
超音波学会認定医・指導医 1 名、検診マンモグラフィ読影認定医 1 名、 指導医数 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、 (常勤医) 日本プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名、日本医師会認定産業医 2 名、 日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、 日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
指導医数 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医2名、 (常勤医) 日本プライマリ・ケア連合学会認定医1名、日本医師会認定産業医2名、 日本血液学会認定専門医・指導医1名、日本循環器学会循環器専門医1名、 日本循環器学会認定循環器専門医1名、日本アレルギー学会専門医2名、ICD1名、 日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ほか		
(常勤医) 日本プライマリ・ケア連合学会認定医1名、日本医師会認定産業医2名、 日本血液学会認定専門医・指導医1名、日本循環器学会循環器専門医1名、 日本循環器学会認定循環器専門医1名、日本アレルギー学会専門医2名、ICD1名、 日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ほか		
日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、 日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ICD1 名、 日本内分泌学会専門医(内科)1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、ほか		
日本内分泌学会専門医(内科)1名、日本糖尿病学会研修指導医1名、ほか		日本血液学会認定専門医・指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、
外来・入院患者数 外来患者 2,983 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)		
	外来·入院患者数	外来患者 2,983 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)

[2023 年度]	入院患者 3,011 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域,
	70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら
か	幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などに
療連携	加え緩和ケアも経験できます。
	第二種感染症指定医療機関
	肝疾患診療連携専門医療機関
	エイズ治療協力病院
	先進医療「内視鏡的大腸粘膜下層剥離術」届出医療機関
	消化器がん検診精密検査医療機関
	大腸がん検診精密検査実施協力医療機関
	小児慢性疾病指定医療機関
	特定疾患医療承認医療機関
	結核指定医療機関
	日本内科学会教育関連施設
学会認定施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
(内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設
	日本超音波医学会超音波専門医制度研修施設
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本循環器学会循環器専門医研修関連施設
	日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
	全国国民健康保険診療施設協議会・全国自治体病院協議会認定地域包括医療・ケア施設
	総合診療専門研修プログラム認定施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
	日本糖尿病学会認定教育施設I

中部徳洲会病院

中部徳洲会病院	
	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	·中部徳洲会病院常勤医師として労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当および、外部委託機関)がありま
1)専攻医の環境	च 。
1/4/2002/30	・ハラスメント委員会が中部徳洲会病院に整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
	・指導医は3名在籍しています(下記)。
	内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置
	されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
	- -基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床研
	修室を設置します。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 12 回)し、専攻医に
	受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	一・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2026 年度予定)し、専攻医に受講を義務付
2)専門研修プログラムの	け、そのための時間的余裕を与えます。
環境	-CPC を定期的に開催(2024 年度実績10回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
24.20	的余裕を与えます。
	・地域参加型のカンファレンス(中部合同カンファレンス、年一回に「ゆんたく会」)を定期的に開
	催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター(2026 年度予定)が対応します。
	·特別連携施設(徳之島徳洲会病院、沖永良部徳洲会病院)の専門研修では、電話や週1回
	の中部徳洲会病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行
	います。
	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門
の砂点奴段の理性	研修が可能な症例数を診療しています(上記)。
3)診療経験の環境	·70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。
	·専門研修に必要な剖検(2024 年度実績4体、2023 年度 6 体)を行っています。
	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
	・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 12 回)しています。
4)学術活動の環境	・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 12 回)しています。
	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2026年度実績
	3 演題)を発表予定しています。
	轟 純平
	【内科専攻医へのメッセージ】
	中部徳洲会病院は、沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり、沖縄医療圏・近隣
指導責任者 指導責任者	医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内
JATRE I	科専門医を目指します。
	主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを
	通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になり
	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、
指導医数	日本神経学会神経内科専門医1名、 日本循環器学会循環器専門日本リウマチ学会指導医1名、
(常勤医)	日本リウマチ医1名、医5名、日本血液学会血液専門医1名、
	日本リウマチ学会指導医1名、日本リウマチ学会専門医1名、日本地会医学会地会区、ほか
	日本救急医学会救急I名、ほか
外来•入院患者数	外来患者 5,300 名(1ヶ月平均) 入院患者 5,769 名(1ヶ月平均)

 経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を		
性残してるが心中	幅広く経験することができます。		
│ 経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅		
社談できる技術・技能	広く経験することができます。		
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経		
療連携	験できます。		
	日本内科学会教育支援(関連)病院認定施設		
	日本循環器学会専門医研修施設		
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設		
学会認定施設	日本集中治療医学会専門医研修施設		
(内科系)	日本消化器病学会関連施設		
	日本血液学会認定専門研修教育施設		
	日本神経学会専門医制度准教育施設		
	消化器内視鏡学会指導連携認定施設など		

沖縄県立中部病院

冲桶県立中部病院	
	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	·沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。
	・ハラスメントを担当する委員会が沖縄県立中部病院に整備されています。
	·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
	·指導医は27名在籍しています。
	·内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者:喜舎場朝雄(医療部長), プログラム管理
	者:宮城唯良(循環器内科副部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)、内科研修委員会委
	員長:耒田善彦)にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図りま
	す。
	·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と初期研修、
	他科のプログラムを含む全体研修全体を管理するハワイ大学中部病院卒後臨床研修プログ
	ラムの共同でプログラム運営します。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023 年度実績院内開催 1 回、2024
	年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 2 回、医療安全 2 回)し, 専攻医に受講を義務
	付け、そのための時間的余裕を与えます。
環境	一研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。
	-CPC を定期的に開催(2024 年度実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
	的余裕を与えます。
	・地域参加型のカンファレンス(別紙参照)を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのため
	の時間的余裕を与えます。
	プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度開催実績 1 回:受講者 6 名)を義
	務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
	・特別連携施設の専門研修では、電話やカンファレンスの配信、インターネットなどにより指導
	医がその施設での研修指導を行います。 カルキュラルにラオウ科の様 12 ハ豚のられるハ豚の中間の 佐藤田田佐藤司能な病例数す
	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を 診療しています(上記)
3)診療経験の環境	杉原しています(エ記) -70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 56 以上の疾患群)について研修できます(上記)。
3/砂獄在級切圾児	70 疾患群のうらはは主疾患群(少なくとも 30 以上の疾患群)に ういて研修できまり(工能)。 ・専門研修に必要な剖検(2022 年度実績 1 体, 2023 年度 8 体,2024 年度実績 4 体)を行って
	「守」切形に必安な可快(2022 年度美積1体, 2023 年度6体,2024 年度美積4体)を1] つしいます。
	います。 ・臨床研究に必要な図書室,写真室などを整備しています。
	・端床切光に必要な図書至, ラ具至などを登開しています。 ・研究倫理審査委員会を設置し, 定期的に開催(2023 年度実績 1 回※迅速審査 2024 年度実
	切え 怪番重安員云で設直し、足朔的に開催(2023 年度美積 回次迅速番重 2024 年度美 績 41 件)し、臨床研究内容の審査などをしています。
4)学術活動の環境	積 41 円/し、臨床研究内谷の番査などをしています。 :治験管理室を設置し. 定期的に治験審査委員会を開催(2024 年度実績 4 回)しています。
	「石級自母主で設置し、足効的に石級番直委員会で開催(2024 年度美積4回/している9。 -日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 12 演題、その他内科系学会にて計 10
	ロ本内付子去講演去めるいは同地ガムに午间で計 12 演題、その他内付来子去にで計 10 演題(研修医が筆頭演者または筆頭著者は計 7 件)発表をしています。
	東密 朝雄
	音音物 初雄 【内科専攻医へのメッセージ】
	縄県立中部病院は、沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり、歴史的に、連携施
指導責任者	過宗立中的病院は、汗縄宗中的医療圏の中心的な思性痴病院であり、歴史的に、建榜他 設である、沖縄県立北部、宮古、八重山病院と深く連携し、救急、総合内科的研修を中心とし
	改
	に研修を1]し、多くの総合内科等 」医を重出してさました(沖縄県の総合内科等 」医の制 1/3 弱が当院での初期、または後期研修経験者です)。「Specialist である前に良き generalist
	「バる弱が当院での初朔、または後朔研修経験省です)。「Specialist でめる前に良さ generalist であれ」を合言葉に、内科専攻医を育てます。幅広く内科全般を学びたい研修医に適した病
	このれ」を古言案に、内件等及医を自てより。個広へ内件主版を手びたい切修医に過じた例 院です。
	日本内科学会指導医 27 名, 日本内科学会総合内科専門医 18 名
指導医数	日本内科子云相等医 27 年,日本内科子云彩日内科等 18 10 年 日本消化器病学会消化器専門医 6 名,日本肝臓学会専門医 4 名,
(常勤医)	日本作に結構子会作に結構 100 0 4, 日本制 111 11 11 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 4 7 12 4 7
	日午旧水时于女相來证す

	日本腎臓病学会専門医 5 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名,			
	日本血液学会血液専門医 1 名,日本神経学会神経内科専門医 2 名,			
	日本リウマチ学会専門医 5 名, 日本感染症学会専門医 1 名,			
	日本救急医学会救急科専門医 6 名ほか			
外来•入院患者数	外来患者 7,267 名(1ヶ月平均)			
[2022 年度]	入院患者 521 名(1ヶ月平均)内科のみの人数			
夕 FA マキフェ 中 HY	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を			
経験できる疾患群	経験することができます。			
47 FA + 7 ++ 4= ++ 4+	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅			
経験できる技術・技能	広く経験することができます。			
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経			
療連携	験できます。			
	日本呼吸器学会認定施設			
	日本消化器病学会専門医制度認定施設			
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設			
	日本循環器学会循環器専門医研修施設			
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設			
	日本脈管学会認定研修指定施設			
	日本腎臓学会研修施設			
	日本透析医学会専門医制度認定施設			
	日本リウマチ学会教育施設			
	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関			
学会認定施設	日本 IVR 学会専門医修練施設			
(内科系)	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設			
	日本認知症学会専門医制度教育施設			
	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設			
	日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設			
	日本神経学会専門医制度准教育施設			
	日本病理学会病理専門医制度研修認定施設(B)			
	日本臨床細胞学会教育研修施設			
	日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士実地修練認定教育施設			
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設			
	日本栄養療法推進協議会NST稼働施設			
	卒後臨床研修評価機構認定			

社会医療法人かりゆし会	・ハートライフ病院
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1)専攻医の環境	・メンタルストレスに適切に対処する部署(衛生委員会および産業医)があります。
	・ハラスメント委員会(セクシャルハラスメントパワーハラスメント等)が整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、女性専用の更衣室(休憩室)、シャワー室、当直
	室が整備されています。
	・近隣に法人運営の保育施設があります。また、隣接する同法人クリニック内にある院内保育
	所で病児保育も可能です。
	指導医は 11 名在籍しています。
	・内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委
	員会との連携を図ります。
	・基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。
	・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績: 医療安全 2 回, 感
	染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	• CPC を定期的に開催(2024 年度実績: 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。
2)専門研修プログラムの	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
環境	ます。
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	間的余裕を与えます。
	・地域参加型のカンファレンス(2024年度実績:救急症例検討会3回)を定期的に開催し、専
	攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・特別連携施設の専門研修では、症例指導医とハートライフ病院の担当指導医が連携し研
	修指導を行います.なお,研修期間中はハートライフ病院の担当指導医による定期的な電話
	や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専
	門研修が可能な症例数を診療しています。
o) = 0, ++ /27 = 0, o = = 1 +	・専門医の常勤がいない内分泌、代謝、腎臓、神経、膠原病、感染疾患は救急病院であるこ
3)診療経験の環境	とから少なからず経験することが出来ます。
	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
	・専門研修に必要な剖検(2024年度実績:5件)を行っています。
	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
	・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会学術総会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2024年度
	実績:5回)をしています。また、専攻医が国内・国外の学会に参加、発表する機会がありま
	す。
	秋元 芳典
	【内科専攻医へのメッセージ】
	ハートライフ病院は 308 床の急性期病院であり、幅広い内科疾患を経験することができま
北洋まなま	す。中でも消化器、循環器疾患については症例数、指導医ともに充実しています。消化器領
指導責任者	域では肝臓領域の患者数が多く、肝がんの症例に対するラジオ波焼灼療法などは沖縄でも
	多くの症例を行っています。循環器では ECMO を含め、救急と共に急性期症例の経験をする
	ことができます。また、2025 年度より総合診療専門研修プログラムを立ち上げ、総合内科を
	中心に内科を幅広く学ぶ教育にも力を入れています。内科の基礎から応用まで研修できるシ
	ステムで先生方を迎えたいと考えています。
	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、
指導医数	日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、
(常勤医)	日本感染症学会専門医2名、日本消化器病学会専門医7名、
	日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 2,566 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
[2024 年度]	入院患者 3,587 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を		
	幅広く経験することができます。		
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅		
作詞 (ころ) 文明 1文化	広く経験することができます。		
経験できる地域医療・診	2 次救急指定病院としての急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根差した		
療連携	医療、地域医療支援病院としての病診・病病連携なども経験できます。		
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設		
	日本感染症学会研修施設		
	日本呼吸器学会関連施設		
	日本消化器病学会専門医制度認定施設		
学会認定施設 学会認定施設	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設		
子云認足	日本肝臓学会認定施設		
(內件表)	日本透析医学会教育関連施設		
	日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設		
	日本救急医学会救急科専門医指定施設		
	日本病院総合診療医学会認定施設		
	日本アレルギー学会専門医準教育研修施設		

中頭病院

中與病院 ————————————————————————————————————	
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。(健康サポートセンター)
1) 専攻医の環境	・ハラスメント委員会が整備されています。
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が
	整備されています。
	・近隣に保育所があり、利用可能です。
	指導医20名在籍しています(下記)
	・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(副院長)
	にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年実績 6 回)し、専攻医に受
	講を
	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。(2023 年度実績 1 回)
	・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
2)専門研修プログラムの	的
環境	
	- ハロミ ティスティー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	ナー、消防合同力ンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます。
	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え
	ます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育開発研修センターが対応します。
	・特別連携施設での専門研修では、中頭病院担当指導医と連携をとり、定期的な面談・カンフ
	アレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を
	診療して
3)診療経験の環境	います。
-745 774 1237 14 14 55	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
	・専門研修に必要な剖検を行っています。
	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
4)学術活動の環境	・治験管理室を設置し、定期的に開催しています。
7 7 1111222 3 31172	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を目標にしてい
	ます。
	新里 敬
	【内科専攻医へのメッセージ】
	中頭病院は、中部医療圏の中心的な急性期病院であり、沖縄県全医療圏、県外(東京都、茨
16 34 + 6- 4	城県、大阪府、京都府、福岡県)の15医療機関と連携施設、特別連携施設を組んでいます。
指導責任者	特徴としては、都市部、その近郊、へき地、離島を網羅しており、地域の実情に合わせた多様
	な研修を積むことが可能です。
	主担当医として、外来、入院から退院まで、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全
	身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を学び経験し、専門内科医へ
	の成長に繋がる研修ができるもと確信しております。
	内科学会指導医 20 名、総合内科専門医 19 名、内科専門医 3 名、
	呼吸器専門医 5 名、循環器専門医 3 名、糖尿病学会専門医 2 名
指導医数 (常勤医)	消化器専門医9名、消化器内視鏡専門医9名
	腎臓病学会専門医 6 名、透析専門医 3 名、血液専門医 4 名、
	神経内科専門医1名、感染症学会専門医2名、肝臓専門医3名
	集中治療専門医2名、救急科専門医7名、他
外来·入院患者数	外来患者数 5、611 名(内科延べ患者数:1ヶ月平均)
7 1 7 1 7 1 7 1 7 1 2 M H 2 X	harmonic and a state of the sta

[2022 年度]	入院患者数 5、263 名(内科延べ患者数:1ヶ月平均)			
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を			
性級できる沃思符	幅広く経験することができます。			
 経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら			
性級できる技術・技能	幅広く経験することができます。			
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども			
療連携	経験できます。			
	日本内科学会内科専門研修基幹施設、日本呼吸器学会認定施設			
	日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本腎臓学会認定教育施設			
	日本糖尿病学会教育関連施設、日本消化器病学会認定施設			
	日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会関連施設			
学会認定施設	日本高血圧学会高血圧研修施設、日本感染症学会研修施設			
(内科系)	日本透析医学会認定施設、救急科専門研修連携施設			
	日本血液学会認定専門研修認定施設、日本集中治療医学会専門研修施設			
	日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設、			
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設			
	日本病院総合診療医学会認定施設、など			

済生会熊本病院

済生会熊本病院	
	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
	・常勤医師として労務環境が保障されています。
1)専攻医の環境	・メンタルストレスに適切に対処する部署(職員健康管理室)があります。
	・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。
	・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備
	されています。
	・敷地内に院内保育園があります。
	・指導医は44名在籍しています。
	・当院にて研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と人材開発室を設置
	します。また、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その
	では、明確では、なり、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ
	ための時間的宗福を与えより。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	・いら心設計ら向カンファレンスを足効的に土催し、寺攻区に支縄を義務りけ、そのための時間的余裕を与えます。
2) 専門研修フロクラム(/)	
は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間
l l'	的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(基幹施設:胸部 X 線を読み解く会、熊本消化器カンファレン
	ス、熊本消化器画像診断研究会、済生会熊本病院緩和ケア研修会等)を定期的に開催し、専
	攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催実績 2 回:受講者 10 名)を
	義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
	・日本専門医機構による施設実地調査に人材開発室が対応します。
	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 9 分野以上で定常的に専門研修が可
	能な症例数を診療しています。
	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 50 以上の疾患群)について研修できます。
	・専門研修に必要な剖検(2021 年度:5 体、2022 年度:4 体、2023 年度:1 体)を行っていま
	す。
	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
4)字(析)古朝(/) 1京1首	・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
	・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。
+	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
	一門和哉
	【内科専攻医へのメッセージ】
	熊本県熊本医療圏にあり、救命救急センターを有する急性期病院である当院を基幹施設と
	し、熊本県を中心に福岡県、沖縄県、神奈川県、香川県にある連携施設で構成されていま
	す。 NA NA NA NA NA NA NA NA
	救命救急センターを有する当院では、重症・救急患者はもちろん、コモンディジーズから複数
	の病態を持つ患者の診療など幅広く経験を積むことができます。併せて、様々なキャリアや資
	格を有する指導医が多数在籍しているため、サブスペシャルティ領域まで踏み込んだ専門的
76 .77 6	な知識・技術も修得することができます。
	また、地域における急性期病院であるため、それぞれの役割を担う施設との病病連携や病診
	連携も多数経験します。
	当院では、医師のみならず、各職種が専門性を発揮しながら診療にあたります。内科系・外科
	系問わず各診療科の垣根も低く、複数の診療科、多職種にて行われるチーム医療は自慢で
	きる特徴の一つです。
	連携施設においては、立場や地域における役割が異なる医療機関で研修を行うことにより、
I.	内科専門医に求められる役割を実践します。
	内科専門医に求められる役割を実践します。 これらの経験・実践を通し、環境に応じて求められる内科専門医の役割を果たすことができ、
	これらの経験・実践を通し、環境に応じて求められる内科専門医の役割を果たすことができ、

	日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名、			
	日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 7 名、			
	日本感染症学会専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、			
	日本肝臓学会専門医 4 名、日本臨床腫瘍学会専門医 5 名、ほか			
外来•入院患者数	総外来患者数(実数): 140,773 名			
[2023年度]	総入院患者数(実数): 133,125 名			
夕野マセフ 庄中 翌	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 12 領域、70 疾患群の症例を			
経験できる疾患群	幅広く経験することができます。			
47 FA オーナフォナル・オーナル・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅			
経験できる技術・技能	広く経験することができます。			
経験できる地域医療・診	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経			
療連携	験できます。			
	日本消化器病学会認定医制度認定施設			
	日本消化器内視鏡学会認定指導施設			
	日本消化管学会胃腸科指導施設			
	日本集中治療医学会専門医研修施設			
	日本循環器学会循環器専門医研修施設			
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設(CVIT)			
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設			
	日本脈管学会認定研修指定施設			
	日本内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設			
	日本呼吸器内視鏡学会認定施設			
	日本腎臓学会研修施設			
	日本透析医学会認定医制度認定施設			
	日本腹膜透析医学会認定 CAPD 教育研修機関			
学会認定施設	日本急性血液浄化学会認定指定施設			
(内科系)	日本神経学会専門医制度教育施設			
	日本脳卒中学会認定研修教育病院			
	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター(PSC)			
	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター(PSC)コア施設			
	日本感染症学会研修施設			
	日本糖尿病学会認定教育施設 I			
	日本肝臓学会認定施設			
	日本がん治療認定医機構認定研修施設			
	日本血液学会認定専門研修教育施設			
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設			
	日本緩和医療学会			
	日本臨床細胞学会認定施設			
	日本臨床細胞学会教育研修施設			
	日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 など			
	THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF			

一般社団法人巨樹の会新武雄病院

一般在団法人巨樹の芸新武雄病院			
	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。		
	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN、Wi-Fi)があります。		
1)専攻医の環境	・ 新武雄病院専攻医として労務環境が保障されています。		
	・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。		
	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室		
	が整備されています。		
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、その		
	ための時間的余裕を与えます。		
	・ CPC を定期的に開催(2023 年実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間		
2)専門研修プログラムの	的会裕を与えます。		
環境	・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導		
	を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での		
	を打いより。なの、切断期間中は跋塚病院の担当指导医による足朔的な電話で訪问での 面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。		
いみませたの理弁	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち限られた分野で定常的に専門研修が可能な症		
3)診療経験の環境	例数を診療しています。		
	・専門研修に必要な剖検を行っています。		
	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。		
4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。		
17 1 H17 H 23 07 24 36	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内		
	科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。		
	藤田 博正		
	【内科専攻医へのメッセージ】		
	飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都		
お おおまけ 老	市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。		
指導責任者	米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組		
	んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。		
	専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作		
	り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても		
	価値のある研修を行います。		
指導医数	日本循環器学会循環器専門医 1 名		
(常勤医)	日本救急医学会専門医 1 名		
外来•入院患者数	外来患者 11,999 名		
[2023 年度]	入院患者 3,516 名		
[2020 1/2]	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域の中で		
経験できる疾患群	限られた症例を幅広く経験することができます。		
	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅		
経験できる技術・技能	広く経験することができます。		
夕除マキフルゼ原床 シ			
	急性期医療だけでな、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験の		
療連携	験できます。		
	日本脳神経外科学会連携施設		
	日本外科学会外科専門医制度関連施設		
	日本整形外科学会認定整形外科専門医研修施設		
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設		
	日本静脈経腸栄養学会·NST 稼働施設		
学会認定施設	日本脳卒中学会1次脳卒中センター認定施設		
(内科系)	日本消化器外科学会認定関連施設		
	日本麻酔科学会麻酔科認定施設		
	日本病理学会研修登録施設		
	日本医学放射線学会画像診断管理認定施設		
	日本呼吸器学会認定関連施設		
	日本脊髄外科学会認定訓練施設		

日本病院総合診療医学会認定施設	など

南砺市民病院

用斪巾氏病院	
	当院は平成21年度より初期臨床研修制度における基幹型研修指定病院です。
	・医局内に共用のインターネット接続端末が用意されています。また、個人所有端末を無線接
	続してインターネットを利用することも可能です。
	・一定の研修期間を越える場合は常勤医師として労務環境が保障されます。
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・定期的に指導医と面談する機会を設け、必要に応じて基幹施設とメンタルストレスに対し適
1)専攻医の環境	切な対処を図ります。
	・ハラスメント行為についての相談方法が定められており、衛生委員会が対応するよう取扱い
	が整備されています。
	・女性医師が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
	・敷地内に院内保育所を開設しており、利用することが可能です。
	・指導医が2名在籍しています。
	・内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に
	「内性等攻医功修安貞云を設置して施設内で功修する等攻医の功修を管理し、奉幹施設に 設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります
	・医療倫理・医療安全・感染対策に関する職員講習会を定期的に開催しており、専攻医が参
	加するために勤務に配慮を行っています。(開催実績:医療倫理 6 回・医療安全 2 回・感染
	対策 2 回)
	・基幹施設が開催する研修施設群合同カンファレンスに参加するために、専攻医の勤務に配
環境	慮を行っています。
	・院内にて CRC が開催される際には専攻医にも参加を求めています。また当院での研修期
	間内に基幹施設にて CRC が開催される場合には参加できるよう勤務に配慮を行っていま
	す 。
	・地域の抱える問題について話し合い取り組みを進める住民参加の「南砺の地域医療を守り
	育てる会」や医師会との情報共有と円滑な病診連携を図るため開催されている「南砺連携の
	会」へ参加するために、専攻医の勤務に配慮を行っています。
小沙康奴股办理块	カリキュラムに示す内科 13 領域のうち総合内科・消化器・循環器・代謝・腎臓・呼吸器・血液・
3)診療経験の環境	神経・感染症・救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
	・臨床研究に必要な臨床教育・研究センター室などを整備しています。
	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
4)学術活動の環境	・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
	・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科
	系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
	院長 清水幸裕
	【内科専攻医へのメッセージ】
	当院は南砺市の医療を担う中核病院であり、連携施設として肺炎、脳卒中、心不全などの
	common disease から専門的疾患(特に呼吸器、血液、肝疾患、糖尿病など)救急疾患まで広
指導責任者 指導責任者	く深く、EBM に基づいた確かな医療を研修する事ができます。また当地は地域包括ケアを早く
11分页11日	から実践しており、住民に寄りそった暖かな医療を提供できる医師、主治医として全人的な医
	療を実現、指導出来る専門医を育てるべく教育しています。また、法律や倫理の専門家を交
	えた倫理コンサルテーション委員会を立ちあげ、臨床的には解決の困難な、倫理的、社会的
	問題について、患者さんの自立意志を尊重した、御本人にとってより良い答えが出せるよう
	に、多職種で検討が出来る機会を日常的に提供しています。
1 to 325 101	日本内科学会指導医 2 名,日本内科学会総合内科専門医 4 名,
指導医数	日本消化器病学会消化器病専門医 1 名,日本呼吸器学会呼吸医専門医 1 名,
(常勤医)	日本糖尿病学会専門医1名,日本アレルギー学会専門医(内科)1名,
	日本肝臓学会専門医1名,日本血液学会専門医1名
外来•入院患者数	外来患者 3,000 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
[2023 年度]	入院患者 160 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	稀な疾患を含めて研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域のうち、10 領域 51 疾患群の症
	例を経験することができます。
级除でキス世代 ++++	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅
経験できる技術・技能	広く経験することができます。

経験できる地域医療・診 療連携	急性期医療だけでなく、これからの高齢化社会に対応できる、地域に根ざした医療、病診・病院連携を経験できます県内でも特に高齢化の進む地域における中核病院として、急性期の初期対応から回復期を経ての在宅復帰まで担うことができ、また近隣の療養型病院や同施設内にある訪問看護ステーションなどとの連携により進んだ地域医療にふれることで、全人的医療を経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本プライマリ・ケア連合学会研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼動施設実地修練認定教育施設 地域包括医療・ケア認定施設 など

徳之島徳洲会病院

徳之島徳洲会病院	
	·初期医療研修における地域医療研修施設です。
	・研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります.
	・徳之島徳洲会病院非常勤医師として労務環境が保障されています.
 1)専攻医の環境	・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当および産業医)があります.
1/导及区仍境境	・ハラスメント委員会(職員暴言・暴力担当窓口)が□□ホスピタル内に設置されています.
	·女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,シャワー室,当直室が整備され
	ています.
	·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に
	設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えます.
2)専門研修プログラムの	·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時
	間的余裕を与えます.
環境	·基幹施設である中部徳洲会病院で行う CPC,もしくは日本内科学会が企画する CPC の受
	講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
	·地域参加型のカンファレンス(呼吸器研究会, 循環器研究会, 消化器病研修会)は基幹病院
	および沖縄県中部地区医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのた
	めの時間的余裕を与えています。
	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、神経、および救急
3)診療経験の環境	の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.救急の分野については.高
3/砂獄在駅の現場	
	度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績
7 7 1137 11 123 17 1010 38	0 演題)を予定しています.
	田代 篤史
	【内科専攻医へのメッセージ】
	徳之島は、100歳以上の高齢者の割合と合計特殊出生率が高く、出産数年間 200 件近い島
	内唯一の周期施設であり、24時間 365日在宅でのお看取りにも対応しています。徳洲会の
	理念「断らない救急」のもと、年間救急搬送 1100 台を超える救急医療とそれに続く急性期医
	療、年間約40件に及ぶ島外へリ搬送にも対応し、徳之島における医療の最前線かつ最終拠
	点を担っています。外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努
110 346	め、健診・ドックの充実にも努めています.
指導責任者	医療療養病床としては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅
	医療(自宅・施設)復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、
	④在宅患者(自院の在宅患者,および連携医療機関の在宅患者)の入院治療・在宅復帰,に
	力を注いでいます。
	力を注いているす。 在宅医療は,医師4名による訪問診療と往診をおこなっています.病棟・外来・訪問看護・併
	世紀と原は、医師4句による前向診療と住診をおこなりといより、病体・外末・前向有護・所 設居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています。
	病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を
	含めたカンファレンスを実施し治療の方向性, 在宅療養の準備を進め, 外来・在宅担当医師・
	スタッフへとつないでいます.
指導医数	日本内科学会指導医 0名,日本内科学会総合内科専門医 1名
(常勤医)	日本循環器学会循環器専門医 1 名 ほか
外来•入院患者数	外来患者 7,008 名(1ヶ月平均)
[2023年度]	入院患者 106 名(1 日平均)
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域, 70 疾患群の症例については, 高齢者・慢性長期療養患者の診療
	を通じて、広く経験することとなります、複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今
	後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
	内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域の内科単科の病院という枠組
	内科等
経験できる技術・技能	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ.
	急性期をすぎた療養患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価). 複数

	の疾患を併せ持つ高齢者の診療について. 患者本人のみならず家族とのコミュニケーション
	の在り方・かかりつけ医としての診療の在り方.
	嚥下機能評価(嚥下造影にもとづく)および口腔機能評価(歯科医師によります)による,機能
	に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み.
	褥創につてのチームアプローチ.
	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者
	の診療. 残存機能の評価, 多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と, そ
	の実施にむけた調整.
	在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それ
経験できる地域医療・診	を相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント(介護)と、医療
療連携	との連携について.
	地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、連
	携型在宅療養支援診療所群(6 医療機関)の在宅療養支援病院としての入院受入患者診
	療. 地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携.
	地域における産業医・学校医としての役割。

沖縄県立八重山病院

1) 専攻医の環境	・インターネット環境が整っていて、UpToDate・Clinical Key が自由に使えます。 ・中部病院のハワイ大学図書室から無料で文献コピーの取り寄せができます。 ・おおむね年3-4回の学会出張旅費を支給します。 ・過重労働のチェックをしており、個別に対策しています。
	・女性医師専用の更衣室・シャワーが準備されています。
2)専門研修プログラムの	・指導医は7名在籍しています。 ・管理職以外は研修医を含めて全医師が同じ部屋に席があり相談・指導が受けやすい環境です。 ・毎朝の内科ミーティングで全内科医師が出席して症例検討・入院患者紹介をしています。
環境	・毎末の内付さ アイングで主内付区間が出席して延例模的・人院患者相介をしています。 ・毎水曜日は内科・外科合同画像カンファレンスをしています。
	・精神科を含めて各科対診体制は整っており、迅速な対応・指導が受けられます。 ・基本的に初療にかかわった症例の担当医になります。
	地域に一つの総合病院で、内科領域の疾患については偏りなく経験することができ、特に初
3)診療経験の環境	地域に一つの総合病院で、内科領域の疾患については偏りなく経験することができ、特に初 診・救急の初療から診断・治療・時には看取りまで一貫して経験することができます。
4)学術活動の環境	・日本内科学会地方会には年間 3-4 件の発表をしており、多種の学会での発表を奨励しています。
指導責任者	吉嶺 厚生 【内科専攻医へのメッセージ】 本島から 400 kmと離れた環境に唯一の総合病院で、周辺離島や島内無医地区の患者も担当 しており、入院から退院・外来まで継時的に診療することができます。社会的背景・療養環境 を含めた全人的・継時的療養支援が経験できます。
指導医数 (常勤医)	・日本内科学会総合内科専門医 7 名 ・日本呼吸器学会専門医 3 名・日本循環器病学会循環器専門医 1 名 ・日本消化器学会専門医 1 名・日本腎臓学会腎臓専門医 0 名
外来•入院患者数	外来患者(3159 名)
[2023 年度]	入院患者(2918 名)※ともに1ヶ月平均(内科の人数)
経験できる疾患群	内科全領域の1次・2次医療患者を偏りなく経験でき、総合内科医研修に求められる症例の 経験をすることができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験できます。
経験できる地域医療・診 療連携	内科急性期医療全般に加えて、慢性疾患・超高齢者・緩和ケア・終末期医療を経験できる。 地域施設との連携・終末期在宅医療・離島医療・在宅医療について直接担当することができ る。

名瀬徳洲会病院

名粸偲洲会病院	
	・初期医療研修における地域医療研修施設です。
	・研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。
	・名瀬徳洲会病院非常勤医師として労務環境が保証させています。
1)専攻医の環境	・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当及び産業医)があります。
17年久区00000	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されて
	います。
	·院内託児所設置(8:30~17:00)利用可能です。
	・内科専攻医研修医委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設
	に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的(年2回)に開催し、専攻医に受講を義務付
2)専門研修プログラムの	け、そのための時間的余裕を与えます。
環境	・研修施設群合同カンファレンス(2024年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付
25/6/38	け、そのための時間的余裕を与えます。
	・基幹施設である名古屋徳洲会総合病院で行う CPC もしくは日本内科学会が企画する CPC
	の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
	・カリキュラムに示す内科医領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・神経及び救急の
3)診療経験の環境	分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度
	ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
ハ光なてもの理点	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定していま
4)学術活動の環境	す。
	平島 修
	【内科専攻医へのメッセージ】
	・名瀬徳洲会病院は奄美大島という日本で沖縄に継いで2番目に大きい有人離島の医療圏
指導責任者	約4万人の奄美市にある約300床の病院です。当院内科は救急車を受け入れる救急医療を
	含む一般医療から療養・リハビリ・地域包括ケア病床更には訪問診療から看取りまであらゆ
	る医療体制を同時に行っております。また、僻地という特性から各専門内科医の常駐医が不
	在で一般内科で専門外来の知識が必要となることも多々あります。専門医療を含め病院間の
	協力のもと奄美大島全体で医療のあり方を考えていく必要があり、専門疾患から医療の本質
	を問う課題まで様々なケースを指導医と学ぶことができます。
	日本内科学会指導医 1 名
指導医数	日本内科学会総合内科専門医 1 名
(常勤医)	日本内科学会専門医 1 名
(m 3) 2 2/	日本内科学会循環器内科専門医 1 名
N 本 3 吃电子粉	
外来•入院患者数	外来患者 8,091 名(1 か月平均)
[2023 年度]	入院患者 291.8 日(1 日平均)
	・研修手帳にある13領域・70疾患群の症例については、高齢者・慢性期療養患者の診療を
経験できる疾患群	通じて・広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後
	の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
	・内科専門医に必要な技術・技能を急性期・療養型でかつ基幹病院という枠組みのなかで、
	経験していただきます。
	・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。
経験できる技術・技能	・急性期をすぎた療養患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価)、複数
	ではあるするたが後患者の機能の計画、認知機能・続け機能・排泄機能などの計画が、後数 の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーション
	の在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。
	・嚥下機能評価(嚥下造影にもとづく)及び口腔機能評価(歯科医師によります)による、機能
	に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み、褥瘡についてのチームアプローチ。
	・入院診療については、急性期や回復期または、他施設から転院してくる治療・療養が必要な
奴段スキフルは広点 へ	入院患者の診療、残存機能の評価、多職種及び家族と共に今後の療養方針・療養の場の決
経験できる地域医療・診	定とその実施に向けた調整。
療連携	・在宅へ復帰する患者については、地域の基幹病院としての外来診療と訪問診療・往診、そ
	れを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント(介護)と、医
	1~ 111111111111111111111111111111111

療との連携について。

・地域においては、連携している有料老人ホームや老健などにおける訪問診療と、急病時の診療連携、他施設からの入院受入患者診療、地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。

・地域における産業医・学校医としての役割。

医療法人博愛会 顯田病院

医療法人博愛会 頴田郷	病院
	・初期医療研修における地域医療研修施設です。
	・研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。
	・頴田病院医師として労務環境が保障されています。
認定基準	・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当および産業医)があります。
【整備基準 24】	・ハラスメントに関する窓口が設置されています。
1)専攻医の環境	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備され
	ています。
	・年休消化の進捗管理、業務カバー体制、職員向け病児保育室があり、ワーク・ライフ・バラ
	ンスを組織的に支援しています。
	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設
認定基準	に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
【整備基準 24】	・基幹施設で行う研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)に定期的に参画し、専攻
2)専門研修プログラム	医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
の環境	・基幹施設である飯塚病院で行う CPC(2014 年度実績 5 回)、もしくは日本内科学会が企
	画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・神経および救急の
【整備基準 24】	分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度
3)診療経験の環境	ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実
【整備基準 24】	績0演題)を予定しています。
4)学術活動の環境	
	頴田病院 院長 本田宜久
	【内科専攻医へのメッセージ】
	頴田病院は福岡県嘉飯山医療圏の飯塚市北端にあり、1954 年の創立以来、地域医療に
	携わる、ケアミックス型の病院です。理念は「We Deliver the Best」であり、元々公設病院で
	ありましたが、2008 年に医療法人博愛会に委譲されてからは、民間ならではの質改善と安
	定供給を重視した地域医療の提供に努めて参りました。
1634 + 6-4	家庭医療/総合診療専門医プログラムの研修施設でもあり、家庭医と共に家庭医療セン
指導責任者	ターではあらゆる性別・年齢・主訴に対応するプライマリ・ケアの外来を、一般病床および回
	復期病床では亜急性期ケア・リハビリテーション・社会調整を、在宅医療センターでは地域
	包括ケアを実践・研修することができ、内科や家庭医療の専門医より指導を受けられます。
	海外交流も積極的に行っており、米国ピッツバーグ大学メディカルセンターやシンガポール
	国立大学からインスピレーションを受けた Integrated Health Care System を筑豊地域で構
	築することで、特に飯塚病院で急性期内科治療を終えた高齢者を対象とした病棟・外来・在
	宅とシームレスに繋がる地域医療体制の提供を目指しています。
 指導医数	日本内科学会指導医 0名、日本内科学会総合内科専門医 0名
(常勤医)	日本神経学会神経内科専門医 0 名
外来•入院患者数	外来患者 120 名(1ヶ月平均) 入院患者 88 名(1 日平均)
病床	96 床〈回復期病棟 28 床 一般病棟 32 床 地域包括ケア病棟 36 床 〉
	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療
経験できる疾患群	を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
	外来∶プライマリ・ケアの診察技法とあらゆる性別・年代・主訴に対応するための診療および
経験できる技術・技能	予防医療サービスに関する基礎知識と診療能力。
	病棟∶主に虚弱高齢者を対象とした亜急性期ケア・リハビリテーションオーダー・社会調整の
	ための基礎知識と診療能力。
	在宅:末期癌患者または非癌慢性期患者の在宅医療を実施するための診療能力。
	入院診療:急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療・
奴段大士フ山出て床	残存機能の評価・多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施
経験できる地域医療・	にむけた調整。
診療連携	在宅復帰支援:地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する

	在宅医療:患者宅および連携している有料老人ホームの訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群(6 医療機関)の在宅療養支援病院としての入院受入。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 その他:地域企業の産業医。地域の乳幼児健診・学生健診。介護保険認定審査会。地域住民への予防医学講演会。
学会認定施設 (内科系)	なし

3) 専門研修特別連携施設

医療法人 社団豊永会 飯塚記念病院

	・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。						
認定基準	飯塚記念病院医師として労務環境が保障されています。						
【整備基準 24】	メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当および産業医)があります						
1)専攻医の環境	女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備						
	されています。						
	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施						
	設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。						
	基幹施設である飯塚病院で定期的に開催されている、医療倫理・医療安全・感染対策						
	講習会(2014 年度実績4回)の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与						
認定基準	えます。						
【整備基準 24】	・ 基幹施設で行う研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)に定期的に参画し、専						
2)専門研修プログラム	攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ************************************						
の環境	 基幹施設である飯塚病院で行う CPC(2014 年度実績 5 回)、もしくは日本内科学会が 						
	企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。						
	・地域参加型のカンファレンス(呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会)は基幹						
	病院および飯塚市医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのた						
=1 th ++ :#	めの時間的余裕を与えています。						
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、代謝、腎臓、呼吸器、神経、および						
【整備基準 24/31】	救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度						
3)診療経験の環境 認定基準	│ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。 │						
	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題の学会発表(2014 年度実績 0						
【整備基準 24】 4)学術活動の環境	演題)を予定しています。						
4)子們沿到仍環境	曲なわが						
	豊永次郎 【中利東政医会の小地大・ジ】						
	【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚記念病院は福岡県飯塚医療圏の飯塚市にあり、昭和 32 年の創立以来、地域医療に						
	敗塚記念病院は福岡宗畝塚医療圏の敗塚川にめり、昭和 32 年の創立以末、地域医療に 携わる、精神科単科病院でした。平成 22 年精神科救急をスタートさせ、現在地域の措置入						
	携わる、精神科単科病院でした。平成 22 年精神科救忌をスタートさせ、現任地域の措置人 院件数 80%以上を受け入れています。平成 26 年 12 月より認知症医療センターに認定さ						
	精神疾患患者の身体合併症治療を行っています。当院では、認知症患者の診断、治療、管						
指導責任者 指導責任者	押から予防にいたるまで、各職種が協力して集学的に治療を行っています。また糖尿病、慢						
11分页11	性腎臓病、高血圧症に対して心血管病発症予防のために各職種と協力して厳格な治療を						
	行っています。また、皆様をお迎えする平成29年4月には、新内科外来棟が開設予定であ						
	り、血液透析センターも併設します。						
)、血液を抗ビング 0月18008分。 当院では多くの精神科医(12 名)が勤務しており、精神疾患に触れる機会も多く、抗精神病						
	薬、抗不安薬、抗うつ薬等の使い方を学ぶ事も出来きます。また御希望があれば、腹部エコ						
	一、心エコーの研修も行う事は可能です。						
	みなさんと一緒に働くことを楽しみにしています。						
	日本内科学会総合内科専門医 1名						
指導医数 指導医数	日本腎臓学会専門医 1名						
(常勤医)	日本透析医学会専門医 1名						
	日本精神神経学会専門医 10 名						
外来•入院患者数	外来患者 1,200 名(月平均) 入院患者 50 名(月平均)						
, <u>+</u> +	400 床〈認知症治療病棟 60 床、精神科救急 108 床、精神科一般 120 床、精神科療養 112						
病床	床〉						
	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療						
経験できる疾患群	を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今						
	後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。						
奴股大土工士生 廿年	・急性期をすぎた患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価)						
経験できる技術・技能 	・複数の疾患を併せ持つ認知症、高齢者の診療						
<u> </u>							

	・患者本人のみならず家族とのコミュニケーション
	・栄養療法(静脈栄養、中心静脈栄養、経管栄養、胃瘻管理)
	・エコー手技(心、腹部)の習得
	・血液透析患者へのシャント穿刺、シャントトラブルに対する PTA
	・嚥下機能評価および口腔機能評価(歯科医師による)
	入院診療については、急性期病院から急性期治療後に転院してくる治療、療養が必要な入
奴段云キ7.地域医病 。	院患者の診療を行います。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針、療
経験できる地域医療・ 診療連携	養の場の決定と、その実施にむけた調整を行います。
砂尔建 烷	在宅へ復帰する患者については、外来診療と訪問診療、それを相互補完する訪問看護とも
	連携し、必要あればケアマネージャーを通じて介護への介入も行います。
学会認定施設	<i>†</i> >1
(内科系)	

飯塚病院内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科の専門医
- 4 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるい は医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要 に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

飯塚病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と総合医的なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。

そして、福岡県筑豊医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャリスト領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

飯塚病院内科専門研修プログラム終了後には、飯塚病院内科専門研修施設群(下記)だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

基幹施設である飯塚病院内科で、2年間の専門研修を行います。

- 3) 研修施設群の各施設名(P。15「飯塚病院研修施設群」参照)
- 4) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を飯塚病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任し、プログラム管理委員会を組織します。プログラム管理委員会は月例で会議を行い、基幹病院および連携施設における、専攻医の管理やプログラムの調節など行います。

* 指導医師名簿

J-OSLER にて確認可能です。

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医 1 年次および 2 年次の秋から冬に専攻医の希望・将来像、研修達成度および指導医数やメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、飯塚病院院内ローテーション診療科・連携施設・時期・順番を決定します。原則 1 年次の 1~2 単位は救急部ローテーションがあります。

選択可能な飯塚病院院内内科ローテーション診療科は、肝臓内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、消化器 内科、血液内科、総合診療科、膠原病リウマチ内科、連携医療・緩和ケア科、腎臓内科、循環器内科、脳神経内科、 漢方診療科、心療内科、集中治療科、感染症科、救急科などです。

図 1。飯塚病院内科専門研修モデル

	欧李州旭(1)17 41 19 19 17 77											
月 年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専攻医 1 年次	飯塚病院 院内内科ローテーション (1 単位 6 週~7 週) 連携施設①3ヶ月								ヶ月			
		各科	レクチャ	一、医療	倫理·医	療安全・	感染防御	即セミナー	-、CPC、	JMECC	など	
専攻医 2 年次	連携施設②3ヶ月 連携施設③3ヶ月 連携施設④3ヶ				ヶ月	飯塚病院 院内内科ローテーション						
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC、JMECC など											
専攻医 3 年次	全連携施設 より調整の上、決定 飯塚病院 院内内科ローテーション											
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC など											

[※]院外ローテーションは原則案であり、時期およびローテーション先は、専攻医数および当院もしくは連携施設の状況によっては、例外として、各年次研修先の調整や変更を、当方の判断で行なうこともある。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である飯塚病院診療科別診療実績を以下の表に示します。飯塚病院は地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

表。飯塚病院診療科別診療実績

2024 年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)		
肝臓内科	701	16,833		
呼吸器内科	1,732	24,245		
心療内科	0	6,654		
内分泌•糖尿病内科	367	20,353		
消化器内科	1,455	18,861		
血液内科	565	12,965		
総合診療科	3,074	14,202		

膠原病・リウマチ内科	177	16,097
連携医療・緩和ケア科	769	3,232
循環器内科	1,756	17,362
脳神経内科	590	9,898
腎臓内科	871	25,996
漢方診療科	32	15,683
感染症科	0	1,426
救急科	31	28

- * 比較的入院患者数が少ない代謝、内分泌、血液、膠原病(リウマチ)領域でさえ、1 学年 16 名に対し十分な症 例経験が可能です。
- * 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています(P。16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。
- * 剖検体数(内科系)は 2022 年度 11 体、2023 年度 8 体、2024 年度 9 体で 3 年度平均 9 体であり、2025 年度も 8 体以上の見込みです。専攻医の数を満たす剖検は十分に実施できます。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

サブスペシャル領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

総合診療科および各診療科ローテを行い、主担当医としての経験を積みます。専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、サブスペシャル上級医の判断で 5~10 名程度を受持ちます。症例によっては、適宜、領域横断的に受持ちます。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年8月頃と2月頃に自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 ヶ月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善を尽くします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善を尽くします。

9) プログラム修了の基準

- ① J-OSLER を用いて、以下の i)~ vi)の修了要件を満たす必要があります。
 - i)主担当医として「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができます)を経験することを目標とし、その研修内容を J-OSLER に登録していること。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例 は登録症例の 1 割まで含むことができます)を経験し、登録済みであること。
 - ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)
 - iii) 筆頭者として 2 件以上の学会発表あるいは論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) 医療倫理·医療安全·感染防御に関する講習会を年に2回以上受講
 - vi)J-OSLER を用いたメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医

評価により、医師としての適性が認められている

- ② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを飯塚病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認 し、研修期間修了約 1 ヶ月前に飯塚病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者 が修了判定を行います。
- 〈注意〉「<u>研修カリキュラム項目表</u>」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3年間(基幹施設 2 年間+連携・特別連携施設 1 年間)としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで 研修期間を1ヶ月単位で延長することがあります。
- 10) 専門医申請にむけての手順
 - ① 必要な書類
 - i)日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
 - ii)履歴書
 - iii)飯塚病院内科専門医研修プログラム修了証(コピー)
 - ② 提出方法 日本専門医機構が定める方法に従って提出します。
 - ③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇 在籍する研修施設での待遇については、各研修施設と飯塚病院とで取り決めた待遇基準に従います

12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院である飯塚病院を基幹施設として、福岡県筑豊医療圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる連携施設・特別連携施設での研修を経て異なる医療を経験・学習し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間の3年間になります。
- ② 飯塚病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院~退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である飯塚病院および連携施設・特別連携施設での 2 年間(専攻医 2 年修了時)で、「<u>研修手帳(疾</u> 患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER

に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。

- ⑤ 飯塚病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修1年次の3ヶ月間、2年次の6ヶ月間、3年次の3ヶ月間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である飯塚病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間で、「<u>研修手帳(疾患群項目表)</u>」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、J-OSLER に登録します。

13) 継続したサブスペシャル領域の研修の可否

- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来(初診を含む)、サブスペシャル診療科外来 (初診を含む)、サブスペシャル診療科検査を担当します。結果として、サブスペシャル領域の研修につながる ことはあります。
- ・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャル領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14) 逆評価の方法とプログラム改良への姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月頃および 2 月頃に行います。 その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、プログラム管理委員会、および教育推進本部が閲覧し、集計 結果に基づき、飯塚病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てま す。

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

飯塚病院内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・1 人の担当指導医(メンター)に専攻医 1 人が飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
 - ・担当指導医は、専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や教育推進本部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はサブスペシャルの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャルの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・担当指導医はサブスペシャル上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・担当指導医は専攻医が専門研修(専攻医)2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、 内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を 行います。

2) 専門研修の期間

- ・ 年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとお
- ・りです。
 - ・担当指導医は、教育推進本部と協働して、4ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡 し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない 場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・担当指導医は、教育推進本部と協働して、6ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・担当指導医は、教育推進本部と協働して、6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と 各種講習会出席を追跡します。
 - ・担当指導医は、教育推進本部と協働して、毎年 8 月頃および 2 月頃に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 ヶ月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3) 専門研修の期間

- ・担当指導医はサブスペシャルの上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。
- ・ J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医

が承認を行います。

・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) J-OSLER の利用方法

- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻 医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導 医が承認します。
- ・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗 状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と教育推進本部はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標 に達しているか否かを判断します。
- ・担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、プログラム管理委員会および教育推進本部が閲覧します。集計結果に基づき、飯塚病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時(予定された時期の他に)で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を行い、その結果を基に飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

飯塚病院および各連携施設の給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修(FD)の実施記録として、J-OSLERを用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を 熟読し、形成的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

飯塚病院内科専門研修 診療科別週間スケジュール(例)

- ・飯塚病院内科専門研修プログラム「4.専門知識・専門技能の習得計画」に従い、研修を実践します。(スケジュールはあくまでも一例であり、概略です。)
- ・各診療科のバランスにより、担当する業務内容や曜日、時間帯は調整・変更があります。
- ・入院患者診療には、各診療科の入院患者の診療を含みます。
- ・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科の当番として担当します。
- ・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

●肝臓内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日	
午前	8:30~			入院患者診療				
	~ 17:00							
	17:00~ 18:30				肝疾患入院・ 評価及肝内病 棟カンファレン ス 肝臓内科・外 科合同カンファ レンス		担当患者の病 態に応じた診 療/オンコー	
午後	17:30~	内視鏡カンファ					ル/日当直/	
	18:00	レンス[肝/消]					講習会・学会	
	17:30 ~ 18:30		肝疾患外来・ 評価カンファレ ンス 肝臓内科・外 科合同カンファ レンス	肝抄読会			/ 病院イベント 参加など 	
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

●呼吸器内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日			
午前	8:00~8:30									
一門	8:30~			入院患者診療						
	~ 17:00		入院患者診療							
	12:30~				呼吸器内科					
	14:00				症例検討会		担当患者の病			
	16:30~					呼吸器腫瘍力	態に応じた診			
					ンファレンス・	療/オンコー				
	18:30					抄読会(呼内・	ル/日当直/			
午後						呼外)	講習会・学会			
1 12	17:00~		呼吸器カンファ				/病院イベント			
	18:00		レンス(呼内・				参加など			
	10.00		呼外)				2 75H & C			
		呼吸器画像•								
	18:00~	病理カンファレ								
	19:00	ンス [呼内/呼								
		外/画/病]								

担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など

●内分泌・糖尿病内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日				
午前	8:30~	担当入院患	者診療、外来新	患診察、他科入	院中コンサルト親	f患症例診察	担当患者の病				
	~ 17:00		担当入院患者診療								
午後	15:00 ~ 17:00	薬品説明会&ミーティング (16:30~)	病棟総回診 (16:00~)	入院患者症 例検討会 (15:30~)	甲状腺吸引 細胞診 (15:00~)		態に応じた診療/オンコール/日当直/ 講習会・学会/病院イベント				
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など										

●消化器内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日			
午前	7:30~8:00					勉強会及び ESD症例力				
1 13.3	0.00 -					ンファレンス				
	8:30~	8:30~ 外来診療、内視鏡検査・処置など								
	~ 17:00		内	視鏡検査·処置な	ょど		担当患者の病			
	17:30~	膵胆道内視鏡					態に応じた診			
	18:00	カンファレンス					療/オンコー			
午後	17:30~ 18:30		入院患者カン ファレンス [内視鏡C]	消化管癌キャ ンサーボード			ル/日当直/ 講習会・学会 /病院イベント			
	18:00~ 18:30	静脈瘤硬化療 法カンファレン	[PYT元 東元 〇]				参加など			

●血液内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日			
午前	8:30~			入院患者診療						
	~ 17:00									
午後		16:00~16:30 南 3A 入院患者カン ファ(南 3A ナ ースステーショ ン)	16:30~ 17:00 抄読会(ハイケ ア棟 3 階面談 室)		16:00~17:00 骨髄所見会 (2 階病理検 査室)	16:00~ 16:20 H3F 多職種 カンファ(ハイ ケア棟 3 階 ナースステー ション) 16:20~ 18:00 全入院患者カ ンファ(ハイ面 ア棟 3 階 室)	担当患者の病態をはいます。 態にはないでは、 りまれる。 をはいますが、 はいままが、 はいますが、 はいますが、 はいますが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 はいままが、 もいまもが、 もいままが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 もいまもが、 ものものもが、 ものものものものものものものものものものものものものものものものものものもの			
		担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など								

●総合診療科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日		
	8:00~8:30	モーニングレク チャー	8	8:00~9:00 新患紹介カンファレンス					
午前	8:30~9:30	退院患者カン ファレンス							
	カンファ後 ~			態に応じた診療/オンコー					
	~17:00			ル/日当直/					
	17:00~			輪読会			講習会・学会		
- 14	18:30			[総/研]			/病院イベント		
午後	18:00~				シニアカンファ		参加など		
	19:00				レンス				

●膠原病リウマチ内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日			
午前	8:30~		入院患者診療							
	~17:00									
午後	16:00 ~ 17:00			膠原病・リウ マチ内科スタ ッフミーティン グ (第 4)			担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会			
	17:00~	症例カンファレ ンス		総回診、症例 カンファレンス			/病院イベント 参加など			

●連携医療・緩和ケア科

	月	火	水	木	金	土/日		
8:30-9:00	訪問診療	朝カンファ	朝カンファ					
9:00-14:00	初101多烷	入院患者管理	入院患者管理					
14:00-15:00		心不全緩和 ケアチーム (HST)	緩和ケア他職種カンファレンス		訪問診療	一病態に応じた 一病態をインコー 一方のでは、 一でも、 一方のでは、 一では、 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を		
15:00-16:00	レクチャー			レクチャー		イベント参加 など		
16:00-17:00	入院患者管理/	<i>'</i> ΦC						

●腎臓内科

		月	火	水	木	金	土/日			
					•	_	祝日			
	8:00-	週末報告•割振	抄読会			新患紹介				
	8:30	週間予定確認	【全体】			重症•問題症例紹介				
		【全体】		担当患者レビュー		【全体】				
午	8:30-	担当患者レ	ビュー	【チーム】		担当患者レビュー				
前	9:00	【チー』	4]			【チーム】	*			
	入院患者診療・他科コンサルト症例サポート									
			7	、院患者診療						
	16:00-			腎病理カンファ						
午	17:00			1 回/月【全体】						
後	17:00-	担当患者振り返りおよび回診								
	18:00	【チーム】								
				*						

●循環器内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日				
午前	8:00~8:30	当直報告 症例検討会 [循環器 C]	当直報告 症例検討会 [循環器 C]	担当患者の病態に応じた診							
	8:30~		外来診療・入院患者診療								
	~ 17:00			ル/日当直/							
- 44	13:30~		講習会・学会 /病院イベント								
午後	17:00 ~ 17:30	抄読会					参加など				

●脳神経内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:00~9:00			新患症例検討会	₹		
ניאור	8:30~		外	·来·入院患者診	療		_
	~ 17:00		外	·来·入院患者診	療		
	13:15~				総合カンファレンス [神内/リ		
	14:00				ハ/薬剤/南 1A]		担当患者の病 態に応じた診 療/オンコー ル/日当直/
	14:00~ 15:30				病棟総回診		
午後	15:30~ 17:00				神経内科カンファレンス/抄読会		講習会・学会 /病院イベント 参加など
	18:00~ 19:00	画像カンファレ ンス [神内/脳 外/画診] (第 4)					

●漢方診療科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:05~8:25		担当患者の病				
	8:30~						
午後	~ 17:00			態に応じた診			
	16:30~	病棟カンファレ					療/オンコール/日当直/講習会・学会
	20:00	ンス					
	17:30~		漢方基礎勉強				
	18:30		会				/病院イベント
		参加など					

●救急科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	7:00~8:00		担当患者の病				
	19:00~		態に応じた診				
午後	20:00		療/オンコー				
	19:30~		救急部スタッフ				ル/日当直/
			会議				講習会·学会
		/病院イベント					
		参加など					